

特別支援学校 での 読み聞かせ

都立多摩図書館の実践から **増訂版**

はじめに

(増訂版発行にあたって)

どの子供も読書の喜びに出会ってほしい。都立多摩図書館は、平成17年度より、都立特別支援学校との連携事業を行ってきました。その一環として、幼稚部から高等部までの子供たちに絵本の読み聞かせ等をしてきました。様々な障害のある子供たちに楽しんでもらえるよう、手探りでいろいろな絵本を読みました。この取組をもとに、特別支援学校の子供たちが喜んだ絵本、読んで手応えを感じた絵本を選び、平成25年に『特別支援学校での読み聞かせ 都立多摩図書館での実践から』という冊子にまとめました。冊子は、学校での読書活動や地域での実践に生かしてもらえるよう、都立特別支援学校と都内の特別支援学級設置校、区市町村立図書館に配布し、研修等でも活用してきました。

当館は、今も特別支援学校での読み聞かせを続けており、この間、更に紹介したい絵本や伝えたいことが出てきました。また、冊子に関する問合せを受けたり、研修を行ってきたなかで、多くの特別支援学校で読み聞かせが行われていること、区市町村立図書館の職員や地域の方々が数多く実践に携わっていることを改めて知り、一層伝えたい気持ちは高まりました。更に、「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律」(読書バリアフリー法)の施行等により、全ての子供が読書を楽しめる環境を整備していくことが当然となった現況を踏まえ、このたび、増訂版を発行することにしました。増訂版では、紹介する絵本の数を増やしました。読み聞かせにおすすめする絵本は、子供たちの障害の種類に応じて紹介しています。1冊ずつあらすじ、特色、読み方の工夫、実践事例を書きました。また、読み聞かせに携わっている方々の参考になるよう、私たちが行っているおはなし会の実施方法や考えを伝える章を新たに設けました。

初めて読み聞かせをするときには、子供たちが、どのような絵本を喜ぶだろうかと想像して、この冊子から絵本を選んでみてください。そして手応えを感じたら、どうぞ繰り返し読んでください。子供が絵本とともに成長していく様子が分かります。

増訂版作成まで、たくさんの方々にお世話になりました。子供の読書活動に信念を持って日々取り組んでいらっしゃるの方々、そしてすばらしい聞き手であった児童・生徒の皆さんへ、心から感謝いたします。

この冊子を、特別支援学校、特別支援学級での読書活動に生かしていただければ幸いです。

東京都立多摩図書館

増訂版の刊行に寄せて

専修大学文学部教授 野口 武悟

2013（平成25）年に『特別支援学校での読み聞かせ：都立多摩図書館の実践から』（以下、本資料）の初版が刊行されたとき、「こういうツールを待っていました！」と思わず声に出して喜んだことを昨日のこのように思い出す。それだけ画期的な資料の誕生だったのである。それまで、子どもの読書活動に関する書籍や資料はたくさんあったにも関わらず、特別支援学校における読書活動の実践にフォーカスした資料は乏しい状況であった。そうした状況にあったの初版の刊行だったので、東京都内はもちろんのこと、広く全国の学校関係者、図書館関係者に貴重な資料として活用されることとなった。それだけに、今回の増訂版の刊行も、待ち望んでいた人が多いことだろう。筆者もその1人である。

本資料の初版から増訂版の刊行までの10年の間には、さまざまな動きがあった。なかでも注目すべきは、2019（令和元）年に「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律」（読書バリアフリー法）が制定されたことである。この法律では、「障害の有無にかかわらず全ての国民が等しく読書を通じて文字・活字文化の恵沢を享受することができる社会の実現」が目指されている。これを受けて、2021（令和3）年に東京都が策定した「第四次東京都子供読書活動推進計画」においては、「特別な配慮を必要とする子供の読書環境整備の推進」を計画が目指すものの1つに位置づけた。さらに、2023（令和5）年に国が策定した「第五次子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」においても、基本的方針の1つに「多様な子どもたちの読書機会の確保」が明示されている。

近年、特別支援教育を受ける学齢期の子どもは増加傾向にある。ここ10年で、特別支援学校で学ぶ子どもは約1.2倍、小学校・中学校の特別支援学級は約2.1倍、同じく小学校・中学校の通級による指導は約2倍となっている（文部科学省「学校基本調査」）。また、文部科学省が2022（令和4）年に公表した「通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査」の結果によると、小学校・中学校の通常の学級で学ぶ子どもの約8.8%に発達障害の可能性があることが示されている。この割合は10年前の同調査時の約1.4倍である。

以上から、特別支援学校の学校図書館だけでなく、すべての学校図書館において、その環境と読書活動の実践をバリアフリー化していくことが求められている。このことは、障害の有無にかかわらずすべての子どもが利用でき、地域の学校図書館を支援する役割を担う公共図書館においても当てはまる。

見方を変えれば、本資料の必要性は、10年前の初版の刊行時よりも一段と増しているということもできる。本資料はタイトルに「特別支援学校での」とある。しかし、その内容は、特別支援学級を設置したり通級による指導を行ったりする学校においても、大いに参考になるものである。

さらには、すべての学校図書館、公共図書館における子どもの読書活動全般にも資するところが大きい。通常の学級において、発達障害の可能性のある子どもが増加していることは前述の通りだが、それだけでなく、日本語指導が必要な外国にルーツのある子どもなど、多様なニーズのある子どもが共に学んでいる。このことは、学校だけでなく、地域社会においても同様である。誰もが共生できる学校、そして地域社会となるために、インクルージョン（包摂性）とダイバーシティ（多様性）が求められる今日、すべての学校図書館と公共図書館においても、これらの視点からの実践の追求が欠かせない。障害などにより制約を大きく受けがちな子どもが楽しめる読書活動は、すべての子どもが楽しめる読書活動に通じる実践といえる。その実践のためのヒントが本資料には凝縮されている。

いま、SDGs（持続可能な開発目標）への取り組みが行政、民間を問わず推進されている。学校や図書館でも取り組むところが多いだろう。そのSDGsは、「誰一人取り残さない」を理念とする。この理念は、子どもの読書活動にあっても大切であるし、前段で述べたことの換言に他ならない。子どもを読書活動から「誰一人取り残さない」学校と図書館の実現に向けて、本資料の増訂版が初版にも増して多くの学校関係者、図書館関係者に活用されることを願っている。

初版発行にあたり、都立八王子東特別支援学校から、心温まる巻頭言をいただきました。当時の役職名及び文章をそのままに、ここに掲載します。

発刊にあたって

「さあ、お話をはじめましょう」

平成 24 年度子どもの読書活動優秀実践校
文部科学大臣表彰受賞校

東京都立八王子東特別支援学校長 **加藤 洋一**

私たちの学校には、外の世界が見えにくい、ことばの理解が難しい、文字を読むことが難しい、本が重くて持てない、ページをめくることが難しい等と様々な困難を抱えている子供たちがいます。

でも、みんな本が大好き。お話が大好きです。

Aさんはときどき気持ちが不安定になって、ひどく落ち着きがなくなってしまうことがあります。見え方に困難さがあるために、突然の物音や予想できない出来事に混乱してしまうのです。でも、大好きなお話が始まると、Aさんは耳を澄ましてご機嫌な表情に……。『おおきなかぶ』のお話では、かぶをひっぱる「よいしょ」の掛け声に合わせて手をとんとんと叩きます。それから、登場人物と一緒に「おーい」と声を出して呼んだり、「さあ、かぶはぬけたかな？」との問いかけに、「えーと……？」と考え込む表情になったりします。そんなとき、Aさんはすっかり落ち着いて、楽しそうです。お話は、Aさんの心を温かく、豊かにしてくれます。

お話を使った他の学級の授業では、こんなこともありました。悪いことしかやってこなかった泥棒三人組が、女の子と出会って優しい気持ちが芽生えたという『すてきな三にんぐみ』のお話を扱ったときのこと。先生が作詞・作曲した、緊張感のある泥棒の歌とともにお話が展開されると、子供たちは不安そうな表情になりながらも「どうなるのだろうか？」と引き込まれている様子。一転して、女の子との出会いで泥棒たちの頑なに心が温かく溶けていくと、子供たちの緊張でこわばった顔つきもやわらかい表情になるのです。そんなときは、子供たちの心だけでなく、体まで見がえるように変わります。お話に合わせて女の子に見立てたお人形を抱っこすると、あら不思議、過緊張でぎゅっと体を固めがちな子供も、ふんわりと優しい抱っこができるようになるのです。

こんな風に、お話は子供たちの学校生活の中で大活躍。お話は、見る、聴く、触れる、といった様々な感覚を通じて、子供たちの感性を豊かに育くむ力を持っています。それだけでなく、読み聞かせをする時のお話を語る人が発する言葉、間の取り方、息づかいなどの一つ一つが、子供の心に直接届いていくのです！

学校の多くの子供たちが、いろいろな方々から本を読んでもらって育ってきました。本当に素晴らしく、貴重なことだと感謝しています。

この都立多摩図書館が作成した「特別支援学校での読み聞かせ」をお手にとってくださった皆さん、どうか子供たちとお話を楽しんでください。語ってください。そしてたくさん心の交流をしてください。そうすればきっと子供たちの心は輝き、皆さんの心は温まるでしょう。きらきら輝く子供たちの心が、私たちの住む世界を温かくきらきらと輝かせる、そんな未来のために、一緒にページをめくってお話をはじめようではありませんか。

I

II

III

IV

V~

目次

I 特別支援学校での読み聞かせ

- 1 都立特別支援学校の種別・障害の種類等 … 6
- 2 特別支援学校での読み聞かせ 7つの手法 … 8

II 知的障害・肢体不自由の子供たちへの読み聞かせ

- 1 知的障害・肢体不自由の子供たちと本を楽しむ … 9
- 2 様々なタイプの絵本 … 9
- 3 絵本
 - (1) 音や言葉のリズムを楽しむ絵本 … 11
 - (2) やり取りを楽しむ絵本 … 16
 - (3) 繰り返しを楽しむ絵本 … 22
 - (4) 創作物語絵本 … 29
 - (5) 昔話絵本 … 46
 - (6) 知識の絵本
 - ・食べ物 … 51
 - ・生き物 … 54
 - ・植物 … 60
 - ・乗り物 … 62
 - ・仕事 … 64
 - ・遊び … 68
 - ・世界を知る … 69
- 4 わらべうた … 72

- 5 おはなし会のプログラム事例
 - (1) 重度・重複障害の子供向け … 80
 - (2) 小学部向け … 81
 - (3) 中学部・高等部向け … 82

コラム 中学部・高等部の生徒に読み聞かせをするときに考えていること … 83

III 聴覚障害の子供たちへの読み聞かせ

- 1 聴覚障害の子供たちと本を楽しむ … 84
- 2 絵本の読み聞かせ方 … 84
- 3 絵本
 - (1) 繰り返しのある絵本 … 85
 - (2) 創作物語絵本 … 87
 - (3) 昔話絵本 … 91
 - (4) 知識の絵本 … 94

- (5) 読み聞かせが難しかった絵本・工夫した絵本 … 95

- 4 わらべうた … 96

コラム 手話によるおはなし会等実施までの流れ … 96

- 5 おはなし会のプログラム事例
 - (1) 幼稚部・小学部低学年の子供向け … 97
 - (2) 小学部高学年の子供向け … 97
- 6 ブックトーク事例 … 98
 - (1) 「動物だいすき」小学部中学年対象 … 99
 - (2) 「いただきまーす」小学部高学年対象 … 100
 - (3) 「それ、ほんとう？」小学部中～高学年対象 … 101

IV 視覚障害の子供たちへの読み聞かせ

- 1 子供たちはお話が好き … 102
- 2 お話を語る … 102
- 3 お話
 - (1) 言葉のリズムや歌を楽しむお話 … 103
 - (2) 繰り返しや言葉の積み重ねを楽しむお話 … 104
 - (3) 愉快なお話 … 104
 - (4) 本格昔話 … 105
- 4 お話以外の楽しみ … 108
- コラム** おはなし会プログラムの立て方 … 109
- 5 おはなし会のプログラム事例 … 110

V おはなし会の実施にあたって … 111

コラム おはなし会を通して私たちが考えたこと … 113

コラム 特別支援学校のおはなし会で使っているグッズ … 116

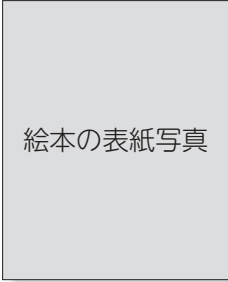
VI 指文字一覧・点字一覧 … 117

VII 都立多摩図書館のサービス、作成冊子紹介 … 118

VIII 絵本件名索引 … 119

凡例

- 都立多摩図書館が特別支援学校で読み聞かせをしてきた絵本の中から、おすすめする絵本を紹介しています。
- 各絵本の事項について

番号	書名		ISBNコード	出版社	出版年
	著者名			★★	大型?📖
		あらすじ			
					聞き手の理解の難易度
					大型：大型絵本がある ?：クイズ形式で楽しめる 📖：電子書籍がある
	絵本の魅力、読むときの工夫など				
	障害種別 学部 学年 重度、重複の有無 都立多摩図書館が特別支援学校で読み聞かせをしたときの子供たちの様子				

- ・書誌事項は、絵本の記述のとおりです。
- ・聞き手の理解の難易度は、目安です。
 - ★：小学部低学年以下、障害の重い子供に喜ばれるもの
 - ★★：小学部高学年以上、障害の軽い子供に喜ばれるもの
- ・令和5年（2023年）11月現在、大型絵本があるものに、**大型**マークを付しています。
- ・読み聞かせの参考になるよう、絵本の魅力や読むときの工夫等を記しました。
- ・子供たちの様子は、都立多摩図書館の職員の記録から採録しました。学年や障害の状態が不明な事例もあります。

- 令和5年（2023年）11月現在、紙で購入できる絵本に、ISBNを付しています。電子書籍が販売されているものに、📖マークを付しています。選書の参考にしてください。

- ➡は、参照ページを表しています。

1 都立特別支援学校の種別・障害の種類等



視覚障害特別支援学校（視覚障害教育部門）

視覚障害とは、視機能の永続的な低下により、学習や生活に支障がある状態をいいます。学習面では、動作の模倣、文字の読み書き、事物の確認などでの困難が生じます。

また、生活面では、移動の困難、相手の表情等が分からないことからのコミュニケーションなどでの困難が生じます。

視覚障害特別支援学校では、幼児・児童・生徒一人一人の視力や見え方の状態を的確に把握し、身辺処理能力の向上、点字指導や歩行指導、補助具の活用など自立活動の充実を図るとともに、確かな学力の定着を図るよう指導しています。

聴覚障害特別支援学校（聴覚障害部門）

聴覚障害とは、身の周りの音や話し言葉が聞こえにくかったり、ほとんど聞こえなかったりする状態をいいます。聴覚障害がある子供たちには、できるだけ早期から適切な対応を行い、音声言語をはじめ、その他の多様なコミュニケーション手段を活用して、子供たちの可能性を最大限に伸ばすことが大切です。

聴覚障害特別支援学校では、補聴器等の活用により、保有する聴力の活用、言語の理解及び表現の指導を行っています。

また、幼児・児童・生徒一人一人の状態等に応じて音声、文字、手話、指文字等のコミュニケーション手段の活用を図り、視覚的に捉えやすい教材・教具やコンピュータや大型ディスプレイ等を活用することにより、言語力や学力の伸長に重点を置いた指導をしています。

肢体不自由特別支援学校（肢体不自由教育部門）

肢体不自由とは、身体の動きに関する器官が、病気やけがで損なわれ、歩行や筆記などの日常生活動作が困難な状態をいいます。肢体不自由のある児童・生徒一人一人の状態等は異なっていることから、学習上又は生活上どのような困難があるのか、補助的手段の活用によってどの程度軽減されるのかといった観点でその状態等を把握し、指導・支援を行うことが大切です。

肢体不自由特別支援学校では、身体の動きの状態や生活経験の程度等を考慮して、各教科等の指導内容を適切に精選するとともに、支援機器等を活用して、基礎的・基本的な学力の定着を図っています。また、児童・生徒一人一人の健康の保持に努めるとともに、身体の動きやコミュニケーション等に関する自立活動の指導内容から必要な項目を選定し、それらを各教科等と相互に関連付けて指導しています。

知的障害特別支援学校（知的障害教育部門）

知的障害とは、一般に、同年齢の子供と比べて、「認知や言語などに関わる知的機能」の発達が緩やかで、「他人との意思の交換、日常生活や社会生活、安全、仕事、余暇利用などについての適応能力」も不十分であるので、特別な支援や配慮が必要な状態とされています。

また、その状態は、環境的・社会的条件で変わり得る可能性があるといわれています。

知的障害特別支援学校では、将来の社会的な自立や社会参加を目指し、各教科の他、各教科等を合わせた指導（日常生活の指導、遊びの指導、生活単元学習、作業学習）の指導を行っています。自閉症の児童・生徒の障害特性に応じた指導の工夫もしています。

病弱特別支援学校（病弱教育部門）

病弱とは、心身の病気のため継続的又は繰り返し、医療又は生活規制（生活の管理）を必要とする状態をいいます。

病弱特別支援学校では、寄宿舍と連携して、健康の回復・改善を図り、生活の自己管理ができるようにする自立活動の指導とともに、各教科等の基礎的・基本的な内容の定着に努めています。

2 特別支援学校での読み聞かせ 7つの手法

子供たちの障害の状態に応じて、読み聞かせに工夫をすることもできます。

都立多摩図書館の実践から、特別支援学校での読み聞かせについて7つの手法を提案します。

(1) 努めてゆっくり読む

特別支援学校で読み聞かせをするときは、「努めてゆっくり」読むことを意識します。子供の様子をよく見ながら、焦らず丁寧に、はっきりとした声で読みましょう。

(2) 寄り添って読む

障害の重い子供には、文章どおりに読むのではなく、子供の気持ちに寄り添って語り掛けましょう。食べ物絵本であれば、「おいしそうだね」「どれを食べようか」、動物絵本であれば「犬が寝ているね」「もう起きるかな」など、一対一で呼びかけます。

(3) 一部分を読む

本の初めから終わりまで、全部読まなくても良いのです。子供が興味を持つ部分だけを読むことから始めましょう。例えば、電車の絵本であれば、一番好きな新幹線の場面だけを、仕事の絵本であれば、消防士の場面だけをじっくりと楽しめます。子供の興味が広がるにつれて、楽しめるページが増えていきます。この手法は、知識の本で特に効果があります。

(4) ダイジェストで読む

文章どおりに読まれると理解できない子供、最後まで聞くことが難しい子供には、ストーリーをかいつまんで話したり、言葉をやさしく言い換えたりして、読みましょう。ストーリーの本筋に沿って、本の持ち味を損なわないように、伝えてください。読み手は、どのように読むか事前に準備しておきます。子供の様子に応じて臨機応変に対応すると良いでしょう。

(5) クイズをしながら読む

クイズが好きな子供たちには、クイズ形式の絵本を読むと良いでしょう。子供たちは、問い掛けを集中して聞き、正解すると、とても満足します。子供たちの発想の豊かさを大切に対応しましょう。おはなし会の場も盛り上がります。

この冊子ではクイズ形式の絵本には🔍が付いています。

(6) 読んだことを体験する

実物を見せたり、読んだことを体験したりすると、本への興味が深まります。

ドングリの絵本なら、実物のドングリを見せて子供の興味を捉え、視線を本の方へ誘ってみます。読み終わってからドングリ拾いをするのも良いでしょう。

(7) 繰り返して読む

何よりも、同じ絵本を繰り返し読むことが大切です。毎日、同じ絵本を読んでいると、少しずつ子供の楽しみ方が変わってきます。小さな変化を大切にしましょう。

小さい頃楽しんだ絵本を大きくなってから、また読むのも実りがあります。年月がたった分だけ、絵本をより深く受け止めることができます。

Ⅱ 知的障害・肢体不自由の子供たちへの読み聞かせ

1 知的障害・肢体不自由の子供たちと本を楽しむ

特別支援学校で読み聞かせをすると、子供たちは絵本が大好きであることを実感します。絵本を見つめる子供たちの笑顔や、真剣なまなざし、歓声が、このことを物語っています。絵本が大好きであっても、一人で本を手にとって読むこと自体が難しく、読書体験に恵まれない子供もいるでしょう。身近にいる大人が読み聞かせをすることで、子供はお話や本の世界が楽しく豊かであることを知ります。

子供は、大好きなお話を繰り返し聞きたがります。聞くたびに新しい喜びを見出し、新しい発見をします。大きくなったからといって絵本を卒業せず、子供が大好きなお話を読み続けましょう。

2 様々なタイプの絵本

子供たちが何に興味を持ち、何を楽しむかは一人一人違います。音や言葉の響きを楽しむ絵本、やり取りを楽しむ絵本、同じフレーズの繰り返しを楽しむ絵本、おいしそうなお食べ物やかっこいい乗り物が登場する絵本、物語絵本、知識の絵本。何冊か読むうちのどこかで、子供たちは関心を持ち、喜びを表現してくれます。

● 音や言葉のリズムを楽しむ絵本 (⇒p.11)

音や言葉のリズムが心地よい絵本は、誰もが楽しめて、読書への入り口になります。子供は、意味よりも、リズムカルで楽しい音や言葉にまず反応します。絵本に出てくる音や言葉を聞いて、体を揺らしたり、声を上げたりすることもあります。ここから、子供は読み手と笑顔を交わし、言葉への興味を育てていくのです。子供たちと「言葉でつながる」という思いを持って、楽しんで読みましょう。

● やり取りを楽しむ絵本 (⇒p.16)

読み手の呼び掛けや問い掛けに、聞き手が答えて楽しむ絵本です。絵本を挟んで、読み手と子供が言葉を交わすのです。仕草や笑顔で気持ちを伝える子供もいます。子供からは、時々驚くような答えが返ってくることもあります。子供の想像力の豊かさを楽しみながら読んでいきましょう。

● 繰り返しを楽しむ絵本 (⇒p.22)

同じ文章や同じ構成の文が、1、2、1、2と繰り返される絵本です。大人には退屈に感じられても、子供は繰り返しを楽しみます。期待感を持って聞き、予想したものが出てくるとうれしくなります。安心して楽しむことができるのです。単調にならずに、子供の気持ちに寄り添って、読んでいきましょう。

● 創作物語絵本 (→p.29)

長く読み継がれてきた絵本には、子供が喜ぶお話がたつぷりと詰まっています。このような絵本は、今も子供に十分な満足感を与えます。

読んでいる間、子供たちの様子は様々です。絵本の方を見ていないようでも、実はお話をしっかり聞いている子、お話の中の一場面を目を輝かせる子。絵本の持っている力を信じて、お話のイメージを描きながら、ゆっくりと読んでいきましょう。

● 昔話絵本 (→p.46)

今、私たちは、絵本によって世界各地の昔話を楽しむことができます。昔話は元来、人から人に語り伝えられてきたお話です。読み聞かせをするときは、耳で聞いて分かりやすい、良い再話の絵本を選びます。安易に話を変えたり、表面的な教訓を押し付けているようなものではなく、昔話本来の素朴な楽しさを味わえる作品を選びましょう。

長い間語り伝えられてきた昔話には、私たちの祖先の知恵や勇気、様々な願いが込められています。ストーリーに沿ってゆっくりと、素直に読めば、お話は子供の心に染み込んでいくでしょう。

● 知識の絵本 (→p.51)

知識の絵本は、子供たちの身の回りにあることや、自然や社会について理解するきっかけになります。特に、食べ物、生き物、植物、乗り物、仕事、暮らし、遊び、世界の人々等をテーマにした本は、子供たちの興味を引くとともに、学習にも活用できます。一人一人の子供の興味や関心に寄り添い、読む本のテーマを選ぶと良いでしょう。

知識の絵本は知らない世界との出会いの場にもなります。最初は関心がなさそうなテーマでも、子供たちが急に興味を持って絵本を見つめ始めたり、言葉を掛けてきたりすることもあります。

知識の絵本の多くは、物語絵本のように最初から最後まで通して読まなくても理解できます。子供が興味を持つ場面だけを繰り返し読んでいううちに、他のページへと興味を広げていくこともあります。

子供たちが知らない言葉が出てきたり、文章どおりに読むと理解が難しいときは、分かりやすい言葉に言い換えるなどして読むと良いでしょう。

ここでは、特別支援学校の子供にとって理解しやすい知識の本を、以下の条件で選びました。

- ・子供の身近なテーマや関心の高いテーマを取り上げている。
- ・1冊を通して、一つのテーマを扱っている。
- ・テーマの展開（構成）が、分かりやすく、シンプルである。
- ・イラストや写真が的確で、読者の理解を助けている。

3 絵本

(1) 音や言葉のリズムを楽しむ絵本

1	おいしいおと 三宮麻由子 ぶん ふくしまあきえ え	978-4-8340-2392-3	福音館書店	2008
			★	



食卓に並んだたくさんの料理。「いただきまーす はるまき たべよう カコッ ホッ カル カル カル カル カル ああ おいしい」。次はハウレンソウ、「ズック ズック ズック ズック ズック ズックズ」。それからごはん、ワカメのみそ汁、ウィンナ、カボチャ、レタス、プチトマト……。最後はデザート「サシュッ スウィーン」と食べて、「ごちそうさまでした」。

食事の始めから終わりまでを、食べている音で表現しています。見開きの左側に文章、右側に料理の絵があります。どの料理もやわらかいタッチで描かれ、食事の温かさが伝わってきます。読むときは、自分が今食べているというイメージで、気負わずに読みましょう。

知的 小学部

読み手に続いて「プワッ」など擬音を言い、音を楽しんでいる児童がいました。読み聞かせた後、先生が児童たちに「おいしかったね」と言葉を掛けていました。このように、食事の始まりから終わりまでを疑似体験する絵本としても楽しめます。

知的 小学部 3年生

表紙を見せた瞬間から、児童たちに笑顔が広がりました。擬音の部分は少々大きめに、何度も繰り返して読みました。途中から先生と一緒に声を出し始め、それを聞いた児童も真似をし始めたので、全員の声そろそろうことも。皆が楽しんでくれたようでした。

知的 小学部 6年生

読み聞かせを不思議そうに聞いていた児童は、みそ汁の場面で「何でそうなるのか全然分からないけど、面白い！」と言いました。デザートの場合は、各自の前に持っていき、見せて回りました。読み手が手でデザートを差し出すと、おいしそうに食べる仕草をする児童もいました。

2	カニツンツン 金関寿夫 ぶん 元永定正 え	978-4-8340-1782-3	福音館書店	2001
			★	



大きな赤い物体が一つ。「カニ ツンツン ビイ ツンツン ツンツン ツンツン」。次は、緑色の物体が六つと小さな赤い物体が一つ。「パイヒャラ パイパッパ パイヒャラ ツンツンツンツン」。ページをめくるたびに、不思議な言葉と物体が次々と現れます。最後は、赤い背景に黒字で「チャララ」。

作者自身が創った言葉と世界各地の言葉を組み合わせて作られた、楽しい絵本です。ページをめくるたびに、ちょっと不思議な、多彩な響きの言葉が繰り出されます。小学部低学年から高等部まで、多くの子供が喜びます。

読む側にとっては、難しい絵本です。一本調子にならないように、緩急を付けて読みます。巻末に、「カニ ツンツン」はアイヌの人々の聞き取りによる鳥のさえずり、「スプモーニ トトーニ」はイタリア語など、言葉の由来が記してあるので、これらを参考に読み方を考えると良いでしょう。子供に読む前には、必ず誰かに聞いてもらいましょう。何回も読んでいる人の読み聞かせを聞くことも参考になります。

知的 重度

読み聞かせの終盤に、赤い物体のことを、「カニの絵本ですか？」と尋ねてきた児童がいました。幾何学的な物体が、子供たちの想像力を刺激するようです。

知的 小学部

途中から一人の児童が前に出てきて、読み手と一緒に文章を読み上げようとしてしました。そのうちに、他の児童たちも「ツンツン」と言い始めました。

肢体不自由 小学部 高学年 重複

おはなし会の最初の1冊として読みました。読み聞かせが始まると、児童たちの間にじわじわと笑いが広がりました。読み手と一緒に「ツンツン」と言う児童や、体を揺らして喜ぶ児童もいます。この絵本をきっかけに、絵本を楽しむ雰囲気が出たと感じました。

3	でんしゃはうたう 三宮麻由子 ぶん みねおみつ え	978-4-8340-2398-5	福音館書店	2009
			★	



男の子とお母さんが駅のホームで待っていると、「かかっ かかっ すしゅーん こっ こっ」と電車が入ってきました。一番前の車両に乗り込み、運転席の後ろから外を眺めます。電車は「とっ どだっとおーん どだっとおーん どだっとおーん」と走り、踏切の警報器は「ねんねんねんねん」と鳴ります。鉄橋を渡るときは「ごどん どどっどででん だだだだ だだん」。次の駅に着いた電車は、「かっ ぷしゅっ しゅっ しいー」と止まりました。

電車が次の駅まで走っていく様子を、電車の立てる音と、運転席からの風景の絵によって見事に表現しています。電車の音に、多くの子供が興味を持ちます。運転席からは、特急電車やモノレールなども見えてくるので、絵だけでも楽しめます。

読むのが難しい絵本です。『おいしいおと』(→p.11)と同様に、まず、自分が電車に乗っているイメージを持って読む練習をします。実際に電車に乗っているときに、音に耳を傾けても良いでしょう。走る電車のリズムカルな音を意識して読みます。

また、「ぎー ぎよぎよぎよぎよ だだっ だだどどん」のように、活字の大きさが違う場面があります。小さい活字の部分は声を潜め、大きい活字の部分は勢いよく読むなど、メリハリを付けると良いでしょう。

肢体不自由 小学部 低学年 重度・重複

読み聞かせを始めると、全員が本に興味を示しました。絵本に注目することが苦手そうな児童も笑顔で本を見ました。不安げだった児童も笑顔になり、うれしそうに声を上げました。

肢体不自由 中学部 1～2年生 重度・重複

寝椅子の生徒が、「たたっ つつつつつ」の音を気に入ったようで、リズムに合わせて膝をたたき、喜んでくれました。

4	もけらもけら 山下洋輔 ぶん 元永定正 え 中辻悦子 構成	978-4-8340-0402-1	福音館書店	1990
			★	



丸い頭の不思議な物体が何体も現れて、「もけら もけら でけ でけ」。ページをめくると、四角い頭の物体が「ぱたら ぺたら」。次のページは三角頭の物体が「ぴた ごら ぴた ごら」。この後も、「しゃばた しゃばた」「だばた どばた どば どば どば」など、音楽を奏するような言葉が一場面ごとに繰り返されます。最後のページは、突起のある丸い物体と「ずばらば」。

音の響きやリズム感を楽しめます。ジャズ・ピアニストによる文章だからでしょうか、1冊が1曲の音楽となっているようにも読み取れますし、一場面ずつ登場するカラフルな物体が言葉を発しているようにも見えます。

読み聞かせをするときは、このようなイメージを大切に、歯切れよく読んでいきます。一場面ごとの言葉が短いので、何回か同じ言葉を繰り返しても良いでしょう。最後のページの「ずばらば」に続いて、裏表紙の「だば！」も忘れずに読みます。小学部から高等部まで楽しめる絵本です。

知的 小学部

読み聞かせの間、ずっと声を出している児童がいました。そばにいた先生によると、「その児童が喜んでいる」とのこと。一場面ごとに言葉を繰り返し、丁寧に読みました。

知的 小学部 2年生

児童たちは、読み手と一緒に「ぱたら」「しゃば」と言ったり、クスクス笑ったり、「変なの」と言ったりしました。最後に、裏表紙の「だば！」を読むと、まだあったのかとクスッと笑う児童もいました。

知的 小学部 2年生

読み手の真似をして、言葉を繰り返す児童が何人かいました。「しゃら しゃら しゃら」「えぺぺぺぺ」「じょわらん じょわらん」は、特に人気でした。

5	もこもこもこ たにかわしゅんたろう さく もとながさだまさ え	978-4-580-81395-3	文研出版	1977
			★	大型



「しーん」とした平らな地面が、「もこ」と小さく盛り上がります。「もこもこ」と少しずつ大きくなると、隣からも小さく「によぎ」。大きくなった〈もこもこ〉は〈によぎによぎ〉を「もぐもぐ」と食べてしまいます。すると、〈もこもこ〉の体の一部が膨らんで落ちます。落ちた物体は「ぷうっ」と膨らみ、「ぎらぎら」と輝き出します。最後は「ぱちん！」と破裂。地面は平らになって静まります。すると、また「もこ」。

「もこ」「によき」などの擬音の繰り返しが楽しい絵本です。『カニツツン』(→p.11)や『もけらもけら』(→p.13)との違いは、言葉と絵の組み合わせにより一つのストーリーが展開していることでしょう。地面から何かが生まれては消えていき、最後にまた地面が「もこ」と盛り上がる、誕生や消滅、再生の予感をイメージさせる絵本です。

見返しからすぐに話が始まるので、読み聞かせをするときは、必ず表紙カバーを外しておきます。そして、各場面での言葉のイメージを大切にしながら読んでいきます。一場面の言葉が短いので、言葉を繰り返し読んでも良いでしょう。小学部だけではなく、障害の重い中学部や高等部でも楽しめます。

知的 中学部 重度

読み手に続いて「もこ」と繰り返す生徒や、一場面ごとに驚いたような顔をする生徒がいました。

知的 小学部 1年生

絵本を取り出すと、ある児童が本を指して「知ってる!」と言いました。読み始めると、言葉を復唱するなど、皆熱心に見てくれました。「ぱちん!」と破裂する場面では、びくっと肩を揺らす児童がいました。

知的 小学部 1年生

手遊びを楽しんだ後で読みましたが、最初の「しーん」で児童たちは静かになり、絵本に注目し始めました。他の絵本の読み聞かせでは感想を言いながら聞いていた児童も、静かに絵を見つめていました。

6	かぞえうたのほん 岸田衿子 作 スズキコージ え	978-4-8340-1043-5	福音館書店	1990
			★★	



「すうじさがしかぞえうた」「いーいーいーかぞえうた」「ひのたまかぞえうた」「ききたいかぞえうた」「へんなひとかぞえうた」「すいぞくかんかぞえうた」。全部で六つの数え歌が収められています。「いーいーいーかぞえうた」では、「いっちゃん いじわる いーいーいー にーちゃん にかいで にやにやにや」と、ユニークで調子の良い言葉が続きます。

独特の雰囲気醸し出している、絵や切り絵による絵本です。

数え歌はテンポよく読んでいきます。該当の絵を指しながら読んだり、読み手の後に続けて子供たちに繰り返してもらおうなど、工夫して読むことができます。

夏ならば季節感を取り入れて、「ひのたまかぞえうた」や「すいぞくかんかぞえうた」を選んで読むと良いでしょう。

知的 小学部

「すうじさがしかぞえうた」を繰り返して読んだところ、2回目に何人かの児童が、読み手に合わせて声に出し始めました。この後も何回か繰り返して楽しみました。

知的 中学部 2年生

「へんなひとかぞえうた」を生徒たちと一緒に読もうとしましたが、難しかったようで、うまく声がそろいませんでした。そのため、読み手だけで読みましたが、生徒たちは大笑い。それまで大人しく聞いていた生徒も満面の笑みでした。

知的 小学部～高等部 重複

「1回読んでみるので、2回目は皆も一緒に声を出してください」と言って読み始めました。「いーいーかぞえうた」「へんなひとかぞえうた」は、一番盛り上がりました。特に、「へんなひとかぞえうた」で「きゅうりをくさらしてたべた」と言うと、「えー！」と声が上がりました。

7	コッケモーモー！ ジュリエット・ダラス=コンテ 文 アリソン・バートレット 絵 たなかあきこ 訳 978-4-19-861450-8	徳間書店	2001
		★★	



夜明けを告げるためにオンドリが鳴きます。「コッケモーモー！」と鳴くと、メウシに「モーモーは うしの なきごえよ」と言われ、「コッケガーガー！」と鳴くと、アヒルに「おかしいの」と言われます。鳴き方を忘れてしまい、オンドリは悲しくなります。その晩、侵入したキツネを「コッケモーモー！コッケガーガー！コッケブーブー！コッケメーメー！」と鳴いて追い出すと、オンドリは皆に褒められます。うれしくなったオンドリは、「コッケココー！」と鳴きました。

お日様を背景にオンドリが鳴く明るい表紙が、子供の目を引き付けます。本文の絵も、暖色中心のはっきりとした明るい色彩で、物語を分かりやすく伝えています。繰り返しの鳴き声を喜び子供から、オンドリの滑稽さなどストーリーを面白がる子供まで、幅広く受け入れられ、安心して読むことのできる絵本です。子供たちは、ストーリーが理解できなくても、最初の「コッケモーモー！」の一声で興味を持ちます。その後も期待していたとおりに楽しい鳴き声が続くと、とても喜んでくれます。

読むときには、オンドリの鳴き声を少し強調して、歌うように、伸び伸びとリズムカルに読むと喜ばれます。鳴き声を何度か繰り返して読むと楽しさが膨らみ、更に興味を持ってくれることもあります。キツネが登場する場面では、ゆっくり絵を見せてから、緊迫感を伝えるように「きつねだ！」と読むと分かりやすいでしょう。

知的 小学部 高学年

最初の「コッケモーモー！」で笑いが起きました。オンドリが鳴くたびに、児童たちは更に笑います。鳴き声を真似たり、動物の名前を言ったり。オンドリがキツネを追い出すために鳴く場面では、一番大笑いし、声を合わせて「コッケメーメー！」と言いました。

知的 中学部 1年生

ある生徒は、オンドリが鳴くたびに「違うよ～！」と笑い、ずっこける素振をするなど、全身で楽しんでいました。その様子を見て笑う生徒もあり、終始にぎやかでした。

知的 高等部

大きな文字で書かれたオンドリの鳴き声を見て、読み手より先に「コッケメーメー！」と大声で読み、得意そうにしている生徒がいました。

(2) やり取りを楽しむ絵本

8	きんぎょがにげた 五味太郎 作	978-4-8340-0899-9	福音館書店	1982
			★	大型 ?



金魚鉢から赤い金魚が外に逃げ出しました。逃げた所はカーテンの中。赤い水玉の中に隠れています。カーテンから逃げ出すと、鉢植えの花に成り済みます。ページをめくるたびに金魚は逃げ出し、どこかに隠れます。隠れる所は、キャンデーの中、果物の中、テレビの中、おもちゃの中、鏡の中。最後は、たくさんの仲間の金魚と一緒に、もう逃げ出しません。

絵の中のどこに金魚がいるのか、探して楽しめる絵本です。読み手は「こんどは どこ。」と言いながら各自の前に絵本を持っていき、子供たちに探してもらいます。

おはなし会で読むと、先生たちも、「どこかな?」「ここに、いたねえ」と子供に話し掛け、場を盛り上げてくれます。障害が軽い子供の中には、「テレビの中」とすぐに回答を言う子もいます。言葉で伝えることができない子供は、金魚を指して当ててくれます。指を差した子を真似て、同じ仕草を始める子供もいます。

輪郭がはっきりした明るい色彩の絵は、子供たちに理解しやすく、また、デザイン性が強いので、中学部や高等部でも、他の絵本の合間に取り入れて楽しむことができます。

知的 小学部

読み聞かせの後、先生が「普段感情や思いを外に表すことが少ない児童が、にこにこ絵本を見ていた」と報告してくれました。

肢体不自由 小学部 2年生 重複

一人一人にゆっくり絵本を見せました。ある児童は、他のページをめくろうとしてまで金魚を探していました。最後の場面で、どの場面でも一番初めに金魚を見付ける児童に、読み手が「仲間がたくさんいるからもう逃げないね」と語り掛けると、その児童は笑顔になりました。

知的 中学部 3年生

「懐かしい絵本を読みます」と紹介しました。生徒たちはすぐに金魚を見付け、指を差したり、「ここ!」と言ったりしました。

9	くだもの 平山和子 さく	978-4-8340-0853-1	福音館書店	1981
			★	



大きな丸いスイカが一つ。ページをめくると半月形に切られてお皿に載って、「さあ どうぞ。」次の見開きでは、左のページにモモが一つ。右のページでは切り分けられてお皿に並び、「さあ どうぞ。」次は、ブドウ、ナシ、リンゴ、クリ、カキ、ミカン、イチゴ。最後に「ばなのかわ むけるかな?」とバナナが差し出され、「じょうずに むけたね。」で終わります。

果物を1種類ずつ食べられるように切ったり、皮をむいたりして、「さあどうぞ。」と差し出しています。食べ物をすすめられ、ごちそうになる、という疑似体験のできる絵本です。絵は、果物のみずみずしさが見事に描かれ、本物のようです。手を絵本の方に差し出してくる子供もいます。一人一人にゆっくりと絵を見せ、読み手が指を差しながら果物の名前を確認したり、子供たちが食べる仕草をしたりして楽しめます。「さあどうぞ。」を何回か繰り返しても良いでしょう。

知的 小学部 重度

各自の前に絵本を持っていくと、絵に触れる児童、大好きなミカンの絵に注目する児童など、様々な楽しんでくれました。読み聞かせに最後まで集中することが難しい児童も、終わりまで見続けてくれました。

知的 中学部 重度・重複

皆絵をじっくり見ていました。モモなどの季節の果物よりも、リンゴのような通年見掛ける果物の方に、関心を持ってくれたようです。

肢体不自由 高等部 重度・重複

「さあどうぞ。」を繰り返すと、生徒たちはフォークを握って食べる仕草をしました。

10	せんべせんべやけた こばやしえみこ 案 ましませつこ 絵	こぐま社	2006
		★	



女の子が、「せんべ せんべ やけた どの せんべ やけた この せんべ やけた」と歌いながら、火鉢で煎餅を焼いています。出来上がった煎餅を、クマのぬいぐるみに「はい どうぞ」と手渡します。その後も、おにぎりを人形に、だんごをだるまに、魚をネコに、サツマイモをお母さんにごちそうします。最後は皆で並んで、女の子が焼いた食べ物をいただきます。

日本のわらべうた絵本です。ままごと遊びをする女の子が、次々に食べ物をごちそうしてくれます。子供はリズムカルな文章に引き付けられ、温かい食べ物を「はい どうぞ」と手渡されると喜びます。

巻末に楽譜と歌詞があるので、歌って読み聞かせをすることもできます。同じページに遊び方の説明もありますから、読み聞かせの後で子供と一緒に遊ぶのも楽しいでしょう。サツマイモを焼く場面があるので、秋に読むと季節を感じます。

肢体不自由 小学部 低学年 重度・重複

各自の前で歌い、一人目には煎餅、次の児童にはおにぎりと、順番に食べ物を差し出していきました。おにぎりをもらった児童は、先生に食べさせてもらう仕草をして、にっこりしました。声を上げてだんごの絵に触る児童の様子を見て、「おいしそうに見えたのかな？」と先生たちも笑顔になりました。わらべうたのリズムに合わせて、体を前後に揺らし、楽しむ児童もいました。



最初に、オレンジ色の丸が一つ。「これ なあに。」ページをめくると、おいしそうなケーキが現れます。「チョコレートケーキ。ほうら、まるくておいしいよ。」次は黄色い丸が八つ、ビスケットとクッキーです。カラフルなたくさんの丸は、のり巻。大きさの異なる三つの丸は、レモン、オレンジ、グレープフルーツです。最後の大きな緑色の丸は、大きなスイカでした。

最初に丸が並んだ場面を見せて「これ なあに。」と問いかけます。ページをめくると、前の場面と同じ配置、同じ大きさで、丸い食べ物が出てきます。このやり取りの繰り返しです。出てくる食べ物は、子供が好きな物ばかり。一つの場面に描かれているのは食べ物のみなので分かりやすく、絵も温かみがあり、おいしそうです。特に、小学部低学年や、障害の重い子供たちのクラスで喜ばれます。

読み聞かせを始めると、問い掛けに次々と答えが返ってきて、とてもにぎやかになります。最初のオレンジ色の丸を見て、しばし考え、「ミカン」と言う子供もいます。最後のスイカは当たる子供が多くなります。「当たり」と言って、スイカの絵を見せると、大声を上げて喜び、絵本に手を伸ばしてきたりします。

問いと答えのやり取りができない子供も、食べ物の絵が出てくると、とても喜びます。絵本を一人一人の目の前に持っていくと手を伸ばしたり、絵本にかぶり付いてきたりします。手を合わせて「いただきます」と言ってから、絵本の食べ物を手に取ろうとする子供もいました。

知的 小学部

先生がこの絵本を繰り返し読んで読んだそうです。児童たちは登場する食べ物を覚え、「ビスケット」などと答えが返ってきたとのこと。子供は、同じ本を繰り返し読むことが好きです。読むたびに、喜びや楽しみが増していきます。

知的 小学部 2年生

オレンジ色の丸が出てくると、「トマト」「ミカン」「カキ」「チョコレートケーキ」などの声が上がりました。カラフルなたくさんの丸には、「チョコレート」「アメ」。三つの黄色の丸には、「目玉焼」「トマト」の答えが。皆が想像力を発揮してくれました。食べる仕草をする児童もいました。

知的 小学部 低学年

おはなし会の最初の1冊として、全員でやり取りを楽しみました。その後の別の本の読み聞かせも、児童たちはリラックスして、聞いてくれました。

12

いるいるだあれ

岩合日出子 ぶん 岩合光昭 しゃしん

978-4-8340-2303-9

福音館書店

2007

★★

?



動物のシルエット写真の下に、「からだ が がっしり あたまに つの 2 ほんしっぽを やさしくふっている だあれ」と、クイズが添えられています。ページをめくると、サイの親子のカラー写真があり、「さい」と答えが出てきます。この後も、カンガルー、ゾウ、シマウマ、ペンギン、キリンと登場します。

自然の中で生きる動物たちのたたずまいを、温かい視線で捉えた写真絵本です。

子供たちとクイズを楽しみながら読み進めることができます。シルエットの写真が小さいため、一人一人の前で、その子に問い掛けながら、丁寧に読んでいくと良いでしょう。最後のキリンのシルエットは、他の動物も映っているので、キリンを指して読むようにします。答えを読むときは、「ぞう」の後に「並んで散歩をしているね」などと語り掛けても楽しめます。

言葉で答えを言う子、じっと絵本を見る子、興味のある動物だけを見る子など、子供たちの反応は様々です。聞き手の中にクイズが好きな子供がいるときは、その子を中心に盛り上がります。

知的 小学部 2年生 重度

表紙を指して「これだあれ」と聞くと、すぐに「サイ！」と答えた児童がいました。他の児童も、釣られるように次々と答え始めました。恥ずかしがっている様子の児童も、こちらから聞くと答えてくれました。途中から、多くの子が答えてくれるようになったので、「せーの」で答えてもらいました。ペンギンの親子の場面で、「(親と)色が違う」と言う児童がいたので、一人一人に見せて回りました。

知的 中学部 2年生

表紙のサイをイノシシと間違えた生徒は悔しそうでしたが、次の動物は正解して、得意げでした。全員答えが分かった動物については、声を合わせて答えてもらいました。後日、先生から、「授業でシルエットクイズをしたら、この絵本と重なる部分が多く、盛り上がった」との報告を受けました。

13

しっぽのはたらき

川田健 ぶん 藪内正幸 え 今泉吉典 監修

978-4-8340-0315-4

福音館書店

1972

★★

大型 ?



表紙の右側から伸びる尻尾が、果物を取ろうとしています。ページをめくると、尻尾の主、クモザルが登場します。クモザルは、尻尾で果物をもぎ取るのです。次は、赤いお尻の上に立つ短い尻尾。「なんのしっぽでしょう?」。次のページは、ニホンザル。尻尾を立てるのは「ぼくは つよいんだぞ」という印です。犬、ウシ、リス、カンガルー、キツネ、イルカ、ガラガラヘビ、カナダヤマアラシ、トカゲ。様々な動物が持つ、尻尾の役割を紹介しています。

動物がとても精緻に、生き生きと描かれています。

クイズのように、尻尾から動物の名前を当てて楽しむことができます。見開きの右側にある尻尾を指して問い掛け、ページをめくると、その動物の絵と、尻尾の働きが書いてあります。書かれている文章をそのまま読むのが難しければ、要点だけを説明しても良いでしょう。読み終わったら、表紙と裏表紙がつながっているのので、最後に開いて見せます。比較的年齢が高く、障害が軽い子供に向く絵本です。

肢体不自由 小学部 高学年 重複

一つの場合に、2種類の動物が登場します。混乱させないように、紹介していない動物は紙で隠して読むと、児童たちは集中してくれました。

知的 中学部

「この絵本でクイズをします」と言うと、生徒たちは興味を示しました。全員が参加できるように、生徒の前をゆっくり回って各場面を見せました。表紙を指し、すぐに「おサル」と言った生徒は、終始積極的に名前を挙げ、当たるとガッツポーズ。皆からも拍手され、うれしそうでした。ページをめくるときに次々と回答が寄せられます。トカゲのページでは、身を乗り出して尻尾の説明を聞く生徒もいました。何度も前に出てきて確認をしていた生徒は、読み終わった後、絵本を手にとって見たがりました。

14	ねえ、どれがいい？ 新版 ジョン・バーニングム さく まつかわまゆみ やく	評論社	2010
		★★	?



最初に、「きみんちのまわりがかわるとしたら、こうずいと、おおゆきと、ジャングルと、ねえ、どれがいい？」と質問されます。その後も、「たばなきゃならないとしたら、どれがいい？」「どれに おいかけられたい？」など、とんでもない選択を迫られます。最後は、「そんなことより、もしかしてほんとうは、もうじぶんのベッドでねむりたい？」と質問されます。

奇想天外な質問の数々に、子供たちは大喜びであれこれと悩みます。やわらかい輪郭、優しい彩色で描かれた挿絵は、洪水の中でボートの代わりになる机や、踊るお父さんに顔を赤らめる子供など、細かい部分までユーモアたっぷり。少人数の読み聞かせで、じっくり見てもらいたい1冊です。

子供が興味を持ちそうな質問を選び、その部分だけを読んでも良いでしょう。見開きに質問が二つあるときは、片面を紙などで隠しておくと、集中しやすくなります。

知的 小学部 6年生

児童たちは「ジャングル」「大雪」などと積極的に答え、選んだ理由を話してくれました。発声のない児童は、目の前に本を持っていくと、指を差して選んでくれました。

知的 中学部 1年生

各自の前に絵本を持っていき、選んでもらいました。「きみんちの まわりが かわるとしたら」では、ある生徒は「晴れが良い」と言って笑いを誘いました。「たべなきゃならないとしたら」は、特ににぎやかになりました。最初はクモ、次にヘビ、最後にカタツムリと、答えを二転三転させ悩む生徒もいました。「ヘビ」と答えた障害の重い生徒に、読み手が「勇気があるね」と声を掛けると、その生徒は目元を緩ませました。終盤の質問は、生徒たちの多くが回答に参加してくれるようになったため、「ヘビに巻かれたい人」「魚にのまれたい人」などと、挙手で答えてもらいました。

知的 高等部 1年生 重度

最初は、ほとんどの生徒が問い掛けに答えなかったため、一人一人にじっくり絵を見せ、目の前で選択肢を読み上げることの繰り返すと、回答を指してくれるようになりました。終盤は、少しずつ気持ちがほぐれてきたのか、「これが良い」と言う生徒もいました。

15

やさいのおなか

きうちかつ さく・え

福音館書店

1997

978-4-8340-1438-9

★★

?



見開きの左側に「これ なあに」。右側には輪が重なったモノクロの絵が描かれています。ある野菜の断面図です。ページをめくると、左側にカラーで描かれた野菜の断面図。右側に、答えの「ネギ」の文字とネギ全体の絵があります。同様に、レンコン、ピーマン、タケノコ、サツマイモ、キャベツ、タマネギ、トマト、キュウリ、ニンジン、カボチャが登場します。最後は描かれた野菜の断面が勢ぞろいします。

白黒のページ、鮮やかな色のページと交互に展開するので、そのたびに新鮮な喜びと驚きがあります。また、キャベツやトマトなど、思い掛けない形の美しさも発見でき、中学部や高等部でも喜ばれます。

野菜の断面図から、名前を当てて楽しむことができるので、子供たちは、一つ当たるとうれしくなって、次から次へと答え始めます。

知的 小学部 4年生

読み始めると、次々に答えが返ってきました。答えが分からず、がっかりする児童がいたので、途中から、レンコン、ピーマン、カボチャなど、分かりやすい野菜を選びました。正解すると、どの児童も笑顔になりました。

特別支援学校から寄せられた事例

対象は高等部図書委員7名。本が好きな生徒が多く、読み始める前から、生徒は興味がある様子でよく見ていました。1ページ目から「これ なあに」と読むとすぐに答えが数人から返ってきました。最終ページまで正解を当てようとする生徒がほとんどでした。積極的に発言はない生徒も、促すと答えてくれました。やや難しい絵の方が、いろいろな意見が出て、場が盛り上がりました。最後まで全員よく絵を見ていて、集中力がありませんでした。答えのページをめくる際に「ジャカジャカジャン！」と自分から言う生徒もいて、期待感が伝わってきました。

(3) 繰り返しを楽しむ絵本

16	10ぱんだ 岩合日出子 ぶん 岩合光昭 しゃしん	978-4-8340-2282-7	福音館書店	2007
			★	



1匹のパンダが木に登っています、「らくらくきのぼり 1ぱんだ」。ページをめくると、ごろんと横になった2匹のパンダ、「のはらでのんびり 2ぱんだ」。その後も、「3ぱんだ」「4ぱんだ」と1匹ずつ増えていき、最後は「あかちゃん そろって 10ぱんだ」で終わります。巻末に、「ぱんだについて しりたいこと10」という、パンダに関する知識のページがあります。

パンダの写真絵本です。かわいいパンダが増えていくと、子供たちはとても喜びます。文章は簡潔でリズム感があり、数え歌としても楽しめます。

読み聞かせをするときは、一場面ずつ繰り返し読むと良いでしょう。パンダの数が多くなると、数えられなくなる子供もいます。パンダを指しながら「1匹、2匹、3匹……」と数えると、理解の助けになります。数を数える楽しさも味わえる絵本です。

中学部や高等部でも、他の絵本の合間に読むと喜ばれます。巻末の「ぱんだについて しりたいこと10」を、かいつまんで説明しても良いでしょう。

肢体不自由 小学部 重複

一場面ずつゆっくり見せながら、繰り返し読みました。すると児童たちの表情が、少しずつ楽しげになってきました。途中からは、先生方も合わせて声を出し、にぎやかな読み聞かせになりました。

知的 小学部 1年生

パンダの数が増えていくのが愉快らしく、数が大きくなるほど児童たちは喜び、「10ぱんだ」で一番にぎやかになりました。

知的 高等部 重度

絵本を見て、とろけるような笑顔を見せた生徒や、「1パンダ、2パンダ」と繰り返し言う生徒がいました。

肢体不自由 小学部 高学年 重複

一人一人の前に絵本を近づけると皆絵本をじっと見ていました。最後に、「ぱんだについて しりたいこと10」をかいつまんで読むと、児童たちは本文よりも興味深そうに聞いていました。「パンダは10時間から16時間眠る」ことを知ると、「もっと起きていてほしい」と言う児童がいました。



お日様がぽかぽかと暖かい日、おばあちゃんが縁側に布団を干しました。そこへネコがやって来て「ふわー」とあくびをし、「ごろん！」と布団の上に寝転がります。それを見たおばあちゃんも、「ふわー」、「ごろん！」。ニワトリの親子、男の子、犬、ヤギ、ブタの親子も「ごろん！」。全員、布団の上でお昼寝をします。おばあちゃんが目を覚ますと、布団の上にはネコだけが残っていました。

のんびりとした雰囲気の記事と、温かい色彩の絵が、ストーリーにぴったり合っています。次々にやって来る人物や動物が、「ふわー」「ごろん！」と布団に寝転がることを繰り返し、お話が少しずつ膨らんでいきます。ストーリーが理解できなくても、言葉の響きに興味を持って楽しむ子供もいます。

登場人物たちがあくびをして寝転がる場面は、少し間を取って読みます。読み終わったら、表紙と裏表紙を広げ、全員が並んで歩いている絵を見せます。小学部で喜ばれる絵本です。

知的 小学部

「ふあー」という言葉に興味を持った児童がおり、この言葉が出るたびに繰り返し喜んでいました。読み終わると、読み手の方に寄ってきて、絵本をめくり始めた児童もいました。

肢体不自由 中学部 1～2年生 重複

ネコやニワトリの登場場面でほほえみ、喜ぶ生徒がいました。ブタの親子が出てくると、笑いが起きました。おばあさんが伸びをすると、真似をする生徒がおり、その仕草を見た他の生徒も、自分で伸びをしたり、先生に手伝ってもらいながら伸びをしたりと、皆で楽しみました。



最初に茶色いクマが現れます。「くまさんくまさん、ちやいろいくまさん、なにみてるの？」と問い掛けると、クマは「あかいとりをみているの。」と答えます。次のページの赤い鳥は、「きいろいあひるをみているの。」と答えます。続いて、黄色いアヒル、青い馬、緑色のカエル、紫色のネコ、白い犬、黒いヒツジ、金色の金魚、人間のお母さんと子供たちが出てきます。最後の子供たちは、登場した動物たち、そしてお母さんを見えています。

ページをめくるたびに、鮮やかな色の動物が見開きいっぱいに見えます。読み聞かせになかなか集中ができない子供も、絵に引き付けられて見つめ始めます。

一場面ずつゆっくりと絵を見せながら、読んでいきます。現実には存在しない青い馬、紫色のネコなども、子供たちは面白がります。全ての動物たちが出てくる場面は、1匹ずつ指を差して読んでいくと良いでしょう。読み終わったら、クマの後ろ姿を描いた裏表紙と、前からの姿を描いた表紙をじっくりと見せます。

小学部低学年で楽しめます。絵本を読む前に、わらべうた「くまさんくまさん」(→p.79)で遊んでから読むと、子供たちの気持ちが一層高まります。

肢体不自由 小学部 重複

児童たちは、絵本をじっと見つめて、ページを触ろうとしました。絵本を注目することが難しい児童も、時々絵本を見て、笑っていました。

19

月ようびはなにたべる？ アメリカのわらべうた

エリック・カール え もりひさし やく

978-4-03-327600-7

偕成社

1994

★

大型



「きょうは月ようび！月ようびになにたべる？」に続けて、月曜日から日曜日までの食べ物と動物が登場します。サインゲンとヤマアラシ、スパゲッティとヘビ、スープとゾウ、ハンバーグとネコ、魚とペリカン、チキンとキツネ、アイスクリームとサル。最後は、「おなかのすいたこさあたべよう！」と様々な人種の子供たちが席に着き、食卓に並んだごちそうをいただきます。

色鮮やかなコラージュが美しい、アメリカのわらべうた絵本です。最後に出てくる子供たちは、髪の色も肌の色もそれぞれ違います。車椅子の子供もいます。作者の、子供たちへの温かいまなざしが伝わってきます。

巻末に楽譜と歌詞があるので、歌って読み聞かせをすることができます。水曜日の場面では、スープのことを「ゾー—ープ」というユーモアがありますから、しっかりと発音します。

歌の絵本は他にもあります。例えば『おばけなんてないさ』（せなけいこ 絵 槇みのり 作詞 峯陽 作曲 ポプラ社 2009年）は、一番の歌詞が有名です。歌詞を知っている子供と一緒に歌うこともありました。

知的 小学部 2年生

歌って読み聞かせをしました。歌の合間に、読み手が「何食べる？」と聞くと、児童たちは「ハンバーグ」「ケーキ」などと喜んで答えました。絵をじっと見る児童や、頭を振ってリズムを取る児童もいました。最後に食卓の場面を見せながら回ると、何の料理か分からない物があるためか、多くの児童がどの料理を選ぶか悩んでいました。

肢体不自由 小学部～高学部 重度

歌いながら読むと、児童・生徒たちは手拍子をし、先生は読み手と一緒に歌いました。食卓の場面を見せて回ると、食べる仕草をする生徒、「おいしい」と言う生徒、先生に食べ物を選んでもらい、喜ぶ生徒がいました。読み手が、障害の重い生徒に「何食べる？」と声を掛けると、その生徒は声に出さなくても口を動かして答えてくれました。

特別支援学校から寄せられた事例 知的 中学部 3年生

対象は中学部3年生の知的の3クラスで、14名。本が好きな生徒ばかりではないけれど、校外学習の際に都立多摩図書館で読み聞かせしていただいたこの本は、皆が大好きになりました。校外学習後に、音楽の授業で英語歌での表現活動として取り入れたこともあり、表紙を見たときから目が輝いていました。

1ページめくると、やりたいと手が挙がり、代表の子が英語や日本語で曜日や食べ物の名前を言い、「せーの」の掛け声に合わせて全員で「みんなおいで」のジェスチャーをする形で読み聞かせをしました。大きな絵と繰り返しのフレーズに加え、歌で表現ができるので、普段はあまり絵本が好きではない生徒も楽しめたのだと思います。

都立多摩図書館の方に様々な本を読んでいただいたことは、読書全般に親しむきっかけになりました。

20	たまごのあかちゃん かんざわとしこ ぶん やぎゆうげんいちろう え	978-4-8340-1192-0	福音館書店	1993
			★	大型



三つのタマゴが並んでいます。「たまごのなかで かくれんぼしてる あかちゃんは だあれ? でておいでよ」。ページをめくると、「ぴっぴっぴっ こんにちは にわたりのあかちゃん こんにちは」と3羽のヒヨコが生まれます。次の場面は四つのタマゴ、生まれたのはカメの赤ちゃんです。その後も、ヘビ、ペンギン、恐竜が生まれます。最後は、赤ちゃんたちが鳴きながら歩いていきます。

「でておいでよ」の呼び掛けと、赤ちゃんの誕生が繰り返されます。愛きょうのある動物たちがはっきりと描かれた絵で、小学部の低学年で喜ばれます。

リズムカルに元気よく、これから生まれてくる赤ちゃんに呼び掛ける気持ちで読みます。「ぴっぴっぴっ」「きゅーうきゅーうきゅーう」など、赤ちゃんの鳴き声に興味を示す子供が多いので、鳴き声はしっかりと読みます。本文の最後のページに、タマゴからワニの赤ちゃんが生まれてくる絵があります。この場面もしっかりと見せるようにします。

知的 小学部 1年生

タマゴが登場するたびに、「ヒヨコ」「恐竜」と動物名を言い当てる児童がいました。カメの場面では、四つのタマゴに対し、カメが3匹しかいないことに気付いた児童が、「足跡がある。向こう側に行ったのかな」と推理して、次のページで残りの1匹を熱心に探していました。他の児童の手を取って絵本に触らせてあげる児童もいました。動物が生まれるたびに、「怪獣?」「恐竜?」「ミミズク?」と尋ねていた児童は、最後のワニの場面で「あれれ、また生まれた。ワニだった」と驚いていました。

肢体不自由 小学部 2年生 重複

読み手が口に手を当てて「出ておいでよー!」と元気よく読むと、続けて「出ておいでよー!」と繰り返す児童がおり、読み手が生まれた動物を指して、「何の赤ちゃんかな?」と尋ねるたびに、「〇〇だよ!」と言って楽しんでくれました。

21	ぱんだいすき 征矢清 ぶん ふくしまあきえ え	978-4-8340-2279-7	福音館書店	2007
			★	



パン屋さんの棚に並んだたくさんの種類のパン。どれも皆いい匂いで、おいしそう。この中から買う物を選びます。大きな食パン、四つ並んだクロワッサン、長いフランスパン、アンパン、おまけにサクランボのパン。トレイの上は、パンでいっぱいです。パンを買って家に帰ったら、バスケットやお皿に移し、切り分けた食パンにバターを塗って、「いただきます。」

見るからにおいしそうな、ふっくらとしたパンが描かれています。場面ごとに、パンが1種類ずつ出てきて、「ならんだ ならんだ くらわっさん。くらわっさんも かいましょう。」のように、口ずさみたくなる文章が繰り返されます。多くの種類の中から一つのパンを選んでトレイに載せ、買って帰る、という、買い物の疑似体験もできる絵本です。

最後に買ってきたパンを並べたところで、一人一人の目の前で、ゆっくりと絵本を見せていくと、多くの子供が手を伸ばしてきます。小学部で「どのパンが好き？」と聞き、手を挙げてもらうと、一番人気のパンは、食パンや、サクランボのパンなど、学校ごとに様々でした。

知的 小学部 2年生

最後に各自の前に絵本を持っていき、好きなパンを選んでもらいました。選んだ後、食べる仕草をする児童や、本に顔を近づけて、がぶっと食べる仕草をする児童もいました。中には、お茶のカップやポットを指す児童も。皆楽しそうに選んでいました。

22	もうおきるかな？ まつのまさこ ぶん やぶうちまさゆき え	福音館書店	1998
		★	



最初の場面は、眠っているネコの親子です。「ねこ ねこ よくねているね。もう おきるかな?」。ページをめくると、2匹は起き上がって伸びをします。「あー、おきた!」。次は犬の親子。「いぬ いぬ よくねているね。もう おきるかな?」。ページをめくると親はあくび、子犬は伸びをして、「あー、おきた!」。その後もリス、クマと動物が目覚めます。最後に起きたゾウは、親子で出掛けます。

「もう おきるかな?」、ページをめくると「あー、おきた!」、この繰り返しです。動物の毛並みまで精緻に描かれた絵は、手を触れてみたくなるほどで、画家が動物へ寄せる愛情がにじみ出ているようです。

文が短いので単調にならないように、子供たちに期待感を持たせるように読みます。「あー、おきた!」の後、一呼吸置き、子供たちに絵をゆっくり見せると良いでしょう。子供たちは動物が好きです。特に自分の好きな動物が出てくると、興味が引かれるようです。小学部低学年や障害の重い子供たちに喜ばれます。

知的 小学部 1年生

「もう おきるかな?」と問い掛けると、「起きる!」と元気に答える児童がいました。

知的 高等部 2年生 重度

パペットのクマで手遊びをした後に読みました。クマが出てくると、パペットを思い出したのか、「クマもいるよ!」と喜ぶ生徒がいました。

23	やさい 平山和子 さく	978-4-8340-0900-2	福音館書店	1982
			★	



最初に、「はたけで そだった だいこん。」の文と、土からダイコンを抜こうとしている絵が出てきます。ページをめくると、「やおやさんに ならびました。ふとった だいこんですよ。」と、洗ったダイコンが並んでいます。この後も、畑の野菜と、八百屋に並んだ野菜が交互に出てきます。ダイコンの他には、キャベツ、トマト、ホウレンソウ、サツマイモ。最後のサツマイモは、「やさいもにして、『いただきまーす』」。

写実的に描かれた野菜が、とても新鮮に見えます。

トマトが実っている場面だけが、育っている姿そのものをよく見せるため、縦長になっています。読むときは本の向きに注意しましょう。サツマイモは、土の中で育っている様子が描かれているので、根の部分をよく見せます。一人一人の前で絵を見せながら、ゆっくりと読み聞かせをすると良いでしょう。中学部や高等部でも楽しむことができる絵本です。

知的 中学部

生徒たちの中に入り、共に聞いている先生が、内容を理解することが難しい一人の生徒に、読んだ言葉を小声で繰り返し伝えていました。皆と一緒に楽しめるよう、支援している姿が印象的でした。

知的 高等部 重度

一人一人の前に絵本を持っていき、繰り返しゆっくりと読みました。生徒たちは、ページをめくろうとしたり、絵を指したりと、各々興味を示してくれました。

24	これはおひさま 谷川俊太郎 ぶん 大橋歩 え	福音館書店	1990



最初に大きな赤い丸が登場します。「これは おひさま」。ページをめくると、4本の太い緑色の線が描かれており、「これは おひさまの したの むぎばたけ」。その後も、麦畑でとれた小麦、小麦を粉にした小麦粉……と、一つ前のページと関連した物や人物が、文章の最後に加えられていきます。最後は再び「おひさま」で終わりますが、お日様を説明する言葉は、とても長くなっています。

素朴で大胆な絵とともに、新しい言葉が付け加えられ、長くなっていく文を楽しみます。「おひさま」で始まり、「おひさま」で終わる展開には、生命の営みへの賛美が込められています。

しっかりと発音し、リズムよく読みましょう。ストーリーや言葉が分からなくても、絵だけを楽しむ子供もいます。障害の軽い子供や、中学部・高等部に向いています。

小学部

「言葉が段々長くなるのが楽しかった」という感想を伝えてきた児童がいました。

知的 中学部 2年生

節を付けて弾むように読むと、生徒たちは愉快そうに笑いました。読む速度を上げると、声を立てて笑います。読み聞かせの後、顎に手を当て「前の物から続いているんだね」と言った生徒がいました。

知的 中学部 3年生

読み手が絵を指して「これは？」と尋ね、生徒たちが答えてから、文章を読むようにしました。「あっちゃん」の絵に対して「誰だよ～」と笑う生徒、「おなかのなか」の絵を指して「胃！」と発言する生徒、「のみこまれたミルク」の場面で「確かに白い」と言う生徒がいました。読み終わると、ある生徒がハッとしたように「全部つながってるじゃん！」と言いました。

25	ふしぎなナイフ 中村牧江, 林健造 さく 福田隆義 え	978-4-8340-1407-5	福音館書店	1997
			★★	



ナイフが1本ありました。ページをめくるたびに変化する、不思議なナイフです。標題紙をめくると切っ先が曲がり、次の場面では刃がねじれます。その後は、真二つに折れる、割れる、溶ける、切れる、ほどける、ちぎれると、ついに散らばります。元どおりになった不思議なナイフは、伸びて、縮んで、膨らんで、最後は弾けてしまいます。

ごく普通のナイフが、次々に形を変えます。白い背景にあるのは、1本のナイフと、ナイフの状態を示す最小限の言葉のみです。写実的な絵と非現実的な展開の対比に、子供たちは驚き、夢中になります。

意外性を楽しんでもらうために、「ふしぎなナイフが」はゆっくりと、「まがる」「ねじれる」などの動詞は、絵をよく見せてからきびきびと発音するなど、メリハリを付けて読むと良いでしょう。ナンセンスな味わいがある絵本なので、障害の軽い子供や、中学部・高等部に向いています。

知的 中学部 3年生

ナイフが変形するたびに、生徒たちの気持ちが高まっていくようでした。特に、「きれる」「ちらばる」では「そんなことある?」「本物?」との声が上がりました。最後に、「ふしぎなナイフが」とゆっくり読んでから、「のびて」「ちぢんで」とテンポよく読むと、生徒たちは「わー!」と声を上げました。

知的 高等部

「まがる」場面では「ぐにゃっ」、「おれる」場面では「ぼきん」など、読み手の後に続けて、オノマトペを声に出す生徒がいました。「えー!」と声を上げ続ける生徒もいます。最後の「のびて」「ちぢんで」では、皆期待の表情で絵本を見つめていました。

(4) 創作物語絵本

26	うちゅうひこうしになりたいな バイロン・バートン さく ふじたちえ やく	ポプラ社	2018
		★	



宇宙飛行士たちは、宇宙でどんなことをしているのでしょうか。宇宙飛行士は、仲間と一緒にスペースシャトルに乗って宇宙へ行きます。宇宙に着いたら地球を見下ろし、すごい研究をたくさんします。それから逆立ちで宇宙食を食べて、浮かんで眠ります。宇宙服を着て、人工衛星の修理や、宇宙基地の組み立てもするでしょう。そして地球に帰ってきます。

宇宙飛行士の仕事や、宇宙での暮らしを伝える絵本です。絵ははっきりとした太い線で描かれ、宇宙は深い青、スペースシャトルや人工衛星は白、地球は水色と黄緑色のよう、明快に色分けされています。遠くから見ても目を引く絵本です。

文章は、「すごいけんきゅうを いっぱいして」のようにやさしい書きぶりです。人工衛星や宇宙基地など難しい言葉も登場するので、聞き手の年齢や障害の状態に応じて、読み聞かせの途中で手短かに言葉の説明をすると良いでしょう。また、スペースシャトルを紹介するときは、ロケットの仲間であること、現在は運用終了していることを言い添えます。

知的 小学部 6年生

「これが なかまだ」の場面で宇宙飛行士の人数を数える児童がおり、一緒に数えました。宇宙基地について「宇宙飛行士たちの家のようなもの。これを大工のように組み立てるのも、宇宙飛行士の仕事だ」と説明すると、児童たちはわくわくしたような表情をしました。「大工！」と驚く児童もいます。宇宙飛行士が寝る場面と食事をする場面は皆驚いた様子だったので、じっくり見せました。

知的 中学部 3年生

逆立ちして宇宙食を食べる場面では、目を見張る生徒や、「酔っちゃうよ」と言う生徒がいました。人工衛星の場面で、「人工衛星は、宇宙から私たちに様々な情報を送ってくれる機械。これを修理するのも、宇宙飛行士の仕事だ」と説明すると、生徒たちは感心したような表情をしました。先生から「かっこいいねえ」と言われてうなずく生徒もいます。最後の場面で「うちゅうについてみたいんだ」と読むと、「そりゃそうだよ」と言う生徒がおり、笑いが起きました。

27	かばくん 岸田衿子 さく 中谷千代子 え	福音館書店	1966
		★	大型



動物園に朝が来ました。カメの子を連れた男の子が、「おきてくれ」とカバに呼び掛けます。今日は日曜日です。大きいカバと小さいカバが水から上がると、動物園に来ていた子供たちは驚きます。男の子が野菜のかごを持って「たべてくれ」と言うと、カバは大きな口を開けて、キャベツを丸ごと食べてしまいます。もう、おなかいっぱいです。男の子が帰り、夜になると、2頭のカバは眠ります。

動物園のカバの一日を描いた絵本です。素朴で温かい絵が、かばくんがいる動物園ののどかな雰囲気、よく合っています。朝は緑色、夕方は夕焼け色、夜は紺色と、背景の色から、一日の時間の流れを感じ取ることができます。

文章は「どうぶつえんに あさが きた いちばん はやおきは だーれ いちばん ねぼすけは だーれ」と詩のようにつづられています。大きくゆったりとしたカバをイメージして、ゆっくりと歌うように読みます。子供たちはカバが大きな口を開けてキャベツを丸のみする場面を特に喜びます。そこで、この場面は特にゆっくり、十分な間を取って読みます。表紙と裏表紙を広げると、大きなカバが現れるので、読み終わったらじっくりと見せます。

知的 小学部 4年生

児童たちは、表紙や、キャベツを食べる場面など、カバが大きく描かれたページに興味を示しました。物語を理解するのは難しいようでしたが、後で先生が、「子供たちは、いつもより静かに集中して聞いていました」と教えてくれました。

知的 小学部

皆カバの大きさに驚いていました。「いちばん ねぼすけは だーれ」など、聞き手に問い掛けるような文章を読むたびに、児童たちは動物名を答えてくれました。

28

かまきりのちよん

得田之久 さく・え

福音館書店

1973

978-4-8340-0677-3

★



カマキリのちよんは、朝、ツリガネニンジンの下で足や触覚をなめてお化粧をします。通り掛かったテントウムシを追い掛けますが、逃げられます。次はミノムシに飛び付こうとして、地面に真逆様。アリの群れに囲まれて、慌てて逃げ出します。ちよんはとうとう大きなトノサマバッタを捕まえて、おなかいっぱいになります。眠くなったちよんは、ツルリンドウの間に入っていきます。

白を背景に、カマキリをはじめとした虫たちと、ツユクサやカナムグラなどの植物が色鮮やかに描かれます。描かれている植物や昆虫の名前が文章に登場するので、必要に応じて指を差して伝えると良いでしょう。

冒頭で、ちよんは緑色のツユクサの葉の間から現れます。同系色で分かりにくいので、ちよんを指したり、絵を近くで見せたりすると、子供たちの理解を助けます。

虫好きな子供がいると、登場する虫の名前を先に言うこともあります。ある特別支援学校では、クモの正式名称を当てた子供がいました。

知的 小学部

カマキリのちよんが最初に登場する場面は、ちよんを指しながら一人一人の前に絵本を持って行って見せました。ちよんが地面に落ちてアリの群れに囲まれる場面を見ると、驚いたような表情を浮かべる児童が何人かおり、「食べられちゃう」と言う児童もいました。虫が好きな児童は、カマキリ以外の虫が登場するたびに、その虫の名前を大きな声で言っていました。

29	ぐりとぐら なかがわりえこ さく おおむらゆりこ え	978-4-8340-0082-5	福音館書店	1967
			★	大型



野ネズミのぐりとぐらは、森で大きなタマゴを見付け、カステラを作ることにします。家から料理道具や材料を運んでくると、かまどを作り、材料を入れた鍋を火に掛けます。歌いながら焼けるのを待っていると、おいしそうな匂いに動物たちが集まってきました。鍋の蓋を開けると、大きく黄色いカステラが顔を出し、動物たちは皆で分け合って食べます。2匹は、タマゴの殻で車を作ります。

半世紀以上にわたり、子供たちに読み継がれてきた絵本です。

この絵本の魅力は、動物たちの絵や語り口の楽しさにあります。その雰囲気存分に伝えながら読みます。2匹が「ぼくらの なまえは ぐりと ぐら」と歌う場面では、子供たちの集中力が高まります。自分なりの節を付けて楽しく読みましょう。人手があれば、ぐりとぐらのように歌の部分で二人で読むと効果的です。大きなカステラが出てくる場面にも、子供たちは引き付けられます。鍋から顔を出したカステラをつまむ子供もいます。ゆっくり読み、絵をじっくりと見せると良いでしょう。大型絵本を使うと、子供たち自身がぐりとぐらになったように楽しめます。

小学部はもちろん、中学部でも喜ばれる絵本です。絵本を出すと、「知ってる」という声がよく上がります。

知的 小学部 5年生

あるクラスで、1学期に1回、「ぐりとぐら」のシリーズを読みました。最初の読み聞かせでは、児童たちは初めて見る読み手に不安を感じたのか、どの程度受け入れられたのか分かりませんでした。読み聞かせを始めて3回目、絵本を取り出し、「今日はこれを読もうね」と言うと、ほほえむ児童がいました。読み終わってから、多くの児童がよく聞いてくれたという手応えがありました。児童たちは、この人が来ると、ぐりとぐらの楽しい本を読んでもらえると覚えているのでしょうか。子供たちに長く支持されてきた絵本の力を感じる体験となりました。

知的 中学部

「これから、懐かしい絵本を読みます」と言って絵本を出すと、「知ってる」と言う生徒がおり、終わりまでよく聞いてくれました。最後に「さあ、この からで、ぐりと ぐらは なにをつくったとおもいますか?」と読むと、即座に「車」と答えた生徒がいました。お話の内容をよく知っていても、好きなお話は何度聞いても楽しいのでしょうか。

30	サンドイッチサンドイッチ 小西英子 さく	978-4-8340-2375-6	福音館書店	2008
			★	大型



「サンドイッチ サンドイッチ さあ つくろう」の呼び掛けに、レタス、トマト、ハム、チーズ……いろいろな材料が集まります。ふわふわパンにバターを塗って、次にレタスを載せます。それからトマト、チーズ、ハム、キュウリ、タマゴ、マヨネーズと順々に載せ、最後にもう1枚のパンで挟みます。半分に切ると、おいしそうなサンドイッチの出来上がりです。

一つ一つの材料が温かみのある色彩で描かれています。一つの材料がページいっぱい描かれ、食パンのやわらかさ、トマトの新鮮さなど、食材のおいしさが伝わってきます。

読み聞かせをするときは、絵をしっかりと見せながら、ゆっくり、はっきりと読みます。文章を繰り返して読んでも良いでしょう。最初の「サンドイッチ サンドイッチ」のところをテンポよく読むと、子供たちは言葉のリズムに引き付けられて、絵本を見つめ始めます。最後のサンドイッチがお皿に盛られている場面を、一人一人に見せて回ると、絵本に手を伸ばし、食べる仕草をする子供もいます。

肢体不自由 小学部 低学年 重複

標題紙を見せながら、読み手が「何を載せようかな？」と言うと、「ツナ！」と何度も言う児童がいました。トマトの場面で、「トマトが苦手」と言う児童がいたので、「じゃあトマトは外そうか」と声を掛けると、その子は「やったあ」とうれしそうにしました。

知的 中学部

「サンドイッチ サンドイッチ ふわふわパンに なに のせる？」と読むと、すかさず「ジャム」と言う生徒がいました。そこで、「トマトが好きな人は？」などと生徒との対話を交じえながら読んでいくと、材料が出るたびに、「(この材料は) 好き」と声が掛かるようになりました。

特別支援学校から寄せられた事例 中学部 1年生 重度・重複

対象は中学部1年重度・重複学級の生徒6名。絵本の絵を注視することが苦手な生徒が多くいます。動きのあるパネルシアターは短い作品を楽しむことができるので、パネルシアターと組み合わせってみました。

パネルシアター「どんな物ができるかな？」(『つくってうたってあそべるパネルシアター』後藤紀子 著 アイ企画 2008年)のチーズバーガーを作るところだけを演じ、その後絵本の読み聞かせを行いました。読む際は、文章のリズムが生きるよう気を付けました。また、サンドイッチを作る動きが感じられるよう、左ページに描かれた材料を手に取り、右ページのパンに載せるようなジェスチャーを加えながら読んでみました。

生徒たちは集中して絵を見ることができました。絵本のシンプルな構成と分かりやすい絵に、パネルシアターの助けが加わり、より生徒の興味が引き出されたのではないかと考えます。

31	しゅっぱつしんこう！ 山本忠敬 さく	978-4-8340-0086-3	福音館書店	1984
			★	大型



お母さんとみよちゃんは、大きな駅で特急列車に乗ります。これから、おじいさんの家へ行くのです。大きな川の鉄橋で電気機関車と擦れ違い、山の麓の駅に着くと、急行列車に乗り換えます。谷川に掛かる鉄橋を渡って、山の中の駅に到着しました。次に乗るのは普通列車です。列車は暗いトンネルを抜け、山奥の駅に着きました。二人が駅に降りると、おじいさんと友達が迎えに来ていました。

色鮮やかな景色の中を列車が走ります。写実的に描かれた列車は、しっかりとした輪郭線で縁取られ、力強さが伝わってきます。雑誌『こどものとも 年少版』としての最初の刊行(1982年)から四十年経ち、列車の形や駅の改札が今とは違いますが、走る列車の絵が、子供たちが普段よく見る電車の姿と重なり、喜ばれるのかもしれない。背を伸ばして、絵を食い入るように見る子供もいます。

各列車が出発するたびに、「しゅっぱつ しんこう！」と掛け声が入ります。この部分を元気よく読みましょう。読み手と一緒に声を出す子供や、ストーリーそのものには集中できなくても、この言葉に興味を示して顔を上げる子供もいます。表紙と裏表紙の絵がつながっています。みよちゃんが乗った列車が並んでいるので、読み終わった後でじっくりと見せてあげると良いでしょう。

知的 小学部 低学年

「しゅっぱつしんこう！」と読むたびに「エイエイオー！」と手を動かす児童がいました。ある児童は、「これは〇〇線」「国鉄ばかりなんだ」などとコメントを入れ、気付いたことを伝えてくれました。

知的 中学部 3年生

読み始めると、皆本をじっと見つめて集中していました。「特急はつかりですね」などと電車の知識を披露してくれる生徒もいます。列車が目的地までたどり着くと、生徒たちは「やったー！」と声を上げました。

32	しろくまちゃんのほっとけーき わかやまけん 作	こぐま社	1972
		★	



しろくまちゃんが、お母さんとホットケーキを作ります。最初に料理の道具を準備します。次に材料をよく混ぜて、生地を作ります。フライパンで生地を焼くと、ほかほかのホットケーキの出来上がり。しろくまちゃんは、友達のコぐまちゃんを呼んで、一緒にいただきます。食べ終わったら、二人でお皿を洗って後片付けをします。

料理を自分で作る楽しさ、食べる楽しさを味わえる絵本です。登場するのは、しろくまちゃん、お母さん、こぐまちゃんだけなので分かりやすく、はっきりとした絵も親しみが持てます。

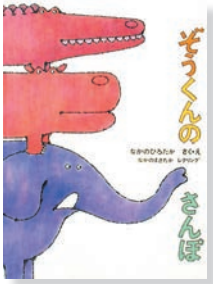
タイトル紙の左側にしろくまちゃんが登場し、「わたし ほっとけーき つくるのよ」と言っています。忘れずに読みましょう。ホットケーキが焼けていく場面は、見開きにフライパンが幾つも並び、少しずつ焼きあがっていく様子が描かれています。それぞれのフライパンの絵に「ぽたあん」「どろどろ」「ぴちぴちぴち」と音が付いているので、絵を一つ一つ指しながら読むと、理解を助けます。

知的 小学部 1年生

「ざいりょうは なあに」と読むと、ある児童が「タマゴ」と答えました。特に喜ばれた場面は、タマゴが割れる場面、ホットケーキが焼ける場面、食べる場面でした。

肢体不自由 小学部 高学年 重複

全盲の児童がいたので、点字絵本『しろくまちゃんのほっとけーき てんじつきさわるえほん』（森比左志、わだよしおみ、若山憲 著 こぐま社 2009年）を渡し、読み聞かせのページと同じ所を触ってもらうようにしました。ゆっくりと読みましたが、その児童が点字を触るスピードよりも、読み手が読むスピードの方が速くなってしまい難しさを感じました。



天気の良い日、散歩に出掛けたぞうくんは、かばくんに会います。ぞうくんが散歩に誘うと、かばくんは「せなかに のせてくれるなら いても いいよ」と答えます。ぞうくんはかばくんに乗せて進みます。続いて、わにくん、かめくんに乗せると、バランスが崩れ、ひっくり返って全員池の中に落ちてしまいます。でも、皆御機嫌です。一緒に水浴びをして遊びます。

動物たちの会話で話が進むため、誰が何を言ったのか分かるように読みます。話している動物を指しながら読んでも良いでしょう。ぞうくんがバランスを崩し、池に落ちる場面がクライマックスです。間合いを取って子供たちに印象が残るように読みます。

子供たちは、ぞうくんが皆を次々に背負っていく様子や、全員が池に落ちるところを喜びます。水浴びが出てくるので、夏に読むと涼しげで良い絵本です。小学部で楽しめます。

知的 小学部

おはなし会の当日、担当の先生から、「この絵本が大好きな子がいるので、追加で読んでほしい」と言われました。学校にある絵本を借りて読むと、その児童は、各ページの会話を繰り返し声に出し、楽しんでいました。

知的 小学部 4年生

ぞうくんの背に動物が乗るたびに笑いが起こりました。池に落ちる場面で、読み手が「どっぼーん」と言いながら各自の前に持っていくと、ぞうくんをなでる仕草をする児童がいました。

特別支援学校から寄せられた事例 肢体不自由 小学部 1・3年生 重度・重複

対象は小学部1・3年生6名。個別に絵本を読むことが好きな児童が多く、集団の中で絵本を集中して最後まで見続ける、聞き続けることが難しい児童が多くいました。そのため、大型モニターに絵本を映し出し、登場人物の足音や池に落ちる音等の効果音、ぞうくんの歌を交えながら読み聞かせを行いました。大型モニターに映し出すことで注目する児童が増えました。また、効果音を交えることで最後まで物語に集中して見る、聞く様子が見られました。物語を体験的に学べるように読み聞かせの後に絵本に沿った体験活動を行いました。ぞうくん役の教員が台車を押して登場し、「のせて」「いいよ」のやり取りをして児童を台車に乗せて散歩し、池に見立てたスズランテープの池に飛び込んだり、霧吹きで池の水を感じたりしました。繰り返し活動することで、「ぞうくんのさんぽ」の絵本を見ると、自ら「のせて」のハンドサインを行い、ぞうくんに乗りたい気持ちを表出する様子が見られました。



小さなネコが、1匹で家の外に出掛けます。子供に捕まったり、自動車にひかれそうになったりしながら走っていくと、大きな犬に出会います。犬に追われて、木に登って「にゃお！にゃお！」と鳴いていると、お母さんネコが駆け付けます。お母さんは犬を追い払い、我が子を口にくわえて家に帰ります。小さなネコは、お母さんからおっぱいをもらうのでした。

主人公が冒険に出掛けて危機を乗り越えて帰ってくる、子供向けの物語では定番のストーリーです。小さなネコの動作も、「こどもがこねこをつかまえた。でも、こねこはこどものてをひっかいてにげだした。」など、具体的に書かれているので分かりやすく、物語の世界への第一歩に最適な絵本です。起承転結をよく踏まえて読んでいきましょう。

動物の動きや表情をよく捉えた写実的な絵で、小学部から高等部まで楽しめます。犬に追いかけられ、木に登って逃げるなど、小さなネコには次々に危機が訪れます。このようなお話の展開に、真剣な表情で絵本を見つめる子供もいます。身近な動物や自動車など、親しみやすいものが登場するので、そちらに興味を示す子供もいます。

知的 小学部 低学年

犬や自動車が登場すると、児童たちは息をのみ、真剣に聞いていました。読む前は落ち着かずに体を動かしていた児童も、絵本をじっと見つめていました。

知的 小学部 3年生

親しみやすいものが登場する場面に興味を持ってくれました。自動車の場面で、先生が「車だ」と言うと、何人かの児童は自動車に興味を示しました。お母さんネコが子ネコを運ぶ場面で、「かわいい！」という児童もいました。

知的 高等部

読み終わると、「良かったねえ」と一言つぶやいた生徒がいました。



ちびちびは、小さなかわいいゴリラです。お母さんも、お父さんも、おばあさんも、おじいさんも、森の動物たちも、ちびちびのことが大好きです。チョウ、オウム、サル、ヘビ、キリン、ゾウ、ライオン、カバ。皆がちびちびをかわいがり、遊んであげます。ちびちびがどんどん大きくなって、立派なゴリラになると、動物たちは「おたんじょうび おめでとう ちびちびくん！」と歌ってくれます。

ちびちびの周りには、家族や仲間がいて、皆が大切に見守ってくれています。

ちびちびの幸せな様子や温かい雰囲気大切に読んでいきます。動物が1種類ずつ登場する場面では、絵をじっくり見せましょう。見開きいっぱい描かれた赤いヘビや、大きく成長したちびちびの場面は特に迫力があり、この場面で表情を変える子供もいます。小学部で喜ばれる絵本です。

知的 小学部

ストーリーは理解できなくても、次々に出てくる動物に興味を持ち、「へび嫌い」「小さいゴリラ」などと言う児童がいました。

知的 小学部

この絵本に非常に興味を持ち、読み終わって別の絵本を読んでいる最中も、絵本を手にとろうと、前に出てきた児童がいました。

知的 小学部 2年生

ゾウが出てくると、手を広げて「大きい」のジェスチャーをする児童がいました。ライオンが悲鳴を上げる場面では、皆が笑いました。「ガオー！」とライオンの真似をする児童もいます。カバの場面で、「そんなあるひ なにかが おこりました」と読むと、「何で!？」と驚く児童がおり、再び笑いが起きました。

36

はらぺこあおむし 改訂版

エリック・カール さく もりひさし やく

978-4-03-328010-3

偕成社

1989

★

大型



葉っぱの上の小さなタマゴからアオムシが生まれます。おなかがぺこぺこのアオムシは、月曜日にリンゴを一つ、火曜日にナシを二つ、水曜日にスモモを三つ、木曜日にイチゴを四つ、金曜日にオレンジを五つ食べました。土曜日には食べ過ぎて、おなかが痛くなりますが、日曜日に葉っぱを食べると治ります。アオムシは大きく育ち、やがてサナギになって何日も眠り、きれいなチョウになりました。

豊かな色彩の絵本で、子供たちはその美しさに目を見張ります。食べ物の絵に穴が開けられ、そこから、アオムシが顔を出す仕掛けが、ストーリーへの理解を助けます。後半には、大きくなったアオムシやサナギが見開きいっぱい描かれ、子供たちを驚かせます。脱皮したチョウの堂々とした姿が、クライマックスを盛り上げます。

アオムシが食べ物を食べる場面は、「かようび、なしを(一つ、二つ)ふたつたべました。」のように、ゆっくり指を差して、一つ一つ果物を数えながら読んでも楽しめます。姿を変えながら成長していく生命の神秘、絵そのものの美しさを味わえるので、中学部や高等部でも喜ばれるでしょう。

知的 中学部 重度

食べ物を、「一つ、二つ、」と指して数えながら読みました。生徒たちは、じっと絵本の方を見つめたり、口元に手を持っていたりしました。

知的 中学部 3年生

読み聞かせの後で、『はらぺこあおむし 点字つきさわる絵本』(エリック・カール さく もりひさし やく 偕成社 2007年)を紹介しました。「こんな本もあります」と前置きして、布でできたアオムシの場面を各自の前に持っていきました。生徒たちは、「やわらかい」「ぬいぐるみみたい」と言い、うれしそうに絵本を触るなど、興味深そうにしていました。

特別支援学校から寄せられた事例 知的 小学部 2年生

対象は小学部2年生19名。重度・重複学級の児童も、お話ができる児童も、皆そろって、学年全体の生活単元学習「図書館を使おう」の単元の授業で、導入として読み聞かせを行いました。

大型絵本の『はらぺこあおむし』をイーゼルにセットすると、ミュージックスタート！新沢としひこ作曲の歌に合わせてページをめくっていきます。歌が始まった途端、教室で聞き慣れている児童が手をたたいて大喜び。歌や絵本に集中して静かに見ている児童もいれば、ストーリーに合わせて「タマゴ、ちっちゃい」「イチゴおいしいよね」「いっぱい食べたからね」とお話しする児童も。最後は、きれいなチョウの絵を見せながら、絵本をパタパタと羽ばたかせておしまい。歌が終わるまでの5分ほどの間、皆絵本に見入っていました。

読み聞かせの後は、「としょしつ〇×クイズ」で、「静かに本を読む」「読んだら片付ける」など、図書室の約束を確認して、図書室へ移動。それぞれ好きな本を読みました。

37	おふろだいすき 松岡享子 作 林明子 絵	978-4-8340-0873-9	福音館書店	1982
			★★	



「ぼく」はお風呂が大好きです。おもちゃのアヒルとお風呂に入り、体を洗っていると、湯船の底から大きなカメが現れました。ペンギン、オットセイ、カバもやって来ます。「ぼく」がカバの体を石けんで洗ってあげると、クジラがシャワーを掛けてくれました。皆でお湯に入り、50数えると、お母さんがやって来ます。動物はいなくなり、「ぼく」はお母さんの広げたタオルに飛び込んでいきます。

子供がお風呂に入って出てくるまでを、想像力豊かに描いています。水に住む動物たちとシャボンで遊び、体の洗いつこをすることは、まさに子供の空想の世界です。絵は全体的に黄色っぽく、湯の温かさが伝わってきます。

標題紙に主人公が服を脱いでいる絵があります。お話はここから始まっているので、しっかり見せます。文章が長いので、話の流れや持ち味を損なわないように気を付けながら、子供の状態に応じて分かりやすく言い直しても良いでしょう。例えば、湯加減をみる場面で、主人公はおもちゃと会話をしています。そのやり取りを理解することが難しければ、「ゆかげんは、あつくもなし、ぬるくもなし、ちょうどいい」というようにストレートに伝えても良いでしょう。読み終わったら表紙と裏表紙を広げて、動物たちを見せます。

「ぼく、おふろだいすき。きみも、おふろがすきですか？」との最後の問い掛けに、思わず「好き」と答える子供もいます。入浴という日常の動作を確認することもできる絵本です。小学部で読むと良いでしょう。

38

くまのコールテンくん

ドン・フリーマン さく まつおかきょうこ やく

978-4-03-202190-5

偕成社

1975

★★

大型



ぬいぐるみのクマ、コールテンくんは、デパートのおもちゃ売り場にいます。ある日、女の子がコールテンくんを欲しがりますが、お母さんはズボンのボタンが取れていると言い、二人は行ってしまいます。夜、コールテンくんはボタンを探しにデパートを探検しますが、警備員に見付き、連れ戻されます。次の朝、昨日の女の子がやって来て、コールテンくんを家に連れて帰り、二人は友達になります。

コールテンくんと女の子の心の交流が伝わってくるお話です。コールテンくんの表情の変化もかわいらしく、話の展開にぴったりと合っています。

夜、コールテンくんがデパートの中を冒険に出掛けるところでは、エスカレーターを山に、家具売り場を王様の御殿に勘違いする場面があります。子供たちの状態に応じて、「コールテンくんは、エスカレーターに乗りました」などと、事実のみを伝えても良いでしょう。

知的 中学部

コールテンくんの内面描写は省略して読みました。読み聞かせの間、生徒たちは絵本をよく見ていました。内容を知っていると思われる生徒が、お話の展開を他の生徒に話していました。

39

こすずめのぼうけん

ルース・エイズワース さく いしいもこ 訳 ほりうちせい いち え 978-4-8340-0526-4

福音館書店

1977

★★

大型



ある日、子スズメは、お母さんから飛び方を教わります。はりきって1羽で飛んでいると、疲れてきました。子スズメは巣で休ませてくださいとカラスに頼みますが、カラスは「かあ、かあ、かあ」と言えない子スズメは仲間じゃないからと断ります。ヤマバト、フクロウ、カモにも断られ、地面を歩いていると、お母さんが迎えに来ます。子スズメはおぶさって巣に帰り、お母さんの翼の下で眠ります。

一人で飛び立った子スズメが、お母さんのもとへ無事帰っていくお話です。「おまえさん、くう、くう、くうっていえますか?」「いいえ、ぼく、ちゅん、ちゅん、ちゅんってきり いえないんです」「じゃ、なかへいれることはできませんねえ。おまえさん、わたしの なかまじゃないからねえ」という他の鳥とのやり取りの繰り返しに緊迫感が高まり、最後のお母さんとの再会が一層引き立ちます。やわらかいタッチで、子スズメの愛らしさが伝わってくる絵は、子供たちを引き付けます。

文章自体が長いので、子供の状態に応じて一部を省略したり、言い換えても良いでしょう。自然の美しさを味わえる絵本なので、中学部や高等部でも楽しめます。

肢体不自由 小学部～高等部

文章を短く言い換えて読みました。読み終わると拍手をしてくれた児童・生徒がいましたが、多くの児童・生徒は絵に注目しているようでした。

40

ざっくん! ショベルカー

竹下文子 作 鈴木まもる 絵

978-4-03-221190-0

偕成社

2008

★★



3台のショベルカーが並んでいます。月曜日、一番小さな1号は公園で木を植える穴を掘ります。火曜日は町で水道工事です。水曜日は少し大きい2号が、崖崩れを防ぐ工事をします。木曜日、山や川で働く仲間のショベルカーと出会います。金曜日は古い倉庫を取り壊します。土曜日は、一番大きい3号の出番。駅前で仲間たちとビルを建てる仕事をします。日曜日は、皆で一日のんびりします。

働くショベルカーの一週間を描いた絵本です。くっきりとした輪郭、はっきりとした色合いの絵は、力強いショベルカーにぴったり合っています。子供たちは、町でも山でもどこでも働けるショベルカーに興味を持ち、感動します。工事の大きさによって違うショベルカーが出動することにも驚きます。

簡潔な文章を歯切れよく読んでいきます。ショベルカーが働くときの音「ざっくん ざっくん!」は特にしっかりと読みます。裏表紙にはショベルカー各部の名前が書かれているので、一つ一つ紹介して楽しむのも良いでしょう。

肢体不自由 小学部 高学年 重複

児童たちは、「ざっくん ざっくん!」や「のんびり のんびり のんびり」といった言葉の繰り返しに声を出して笑い、身を乗り出して本を見つめました。「すごいね」と隣の子に話し掛ける児童もいました。大きなビルを建てる場面で、「ショベルカー3号、どこにいるか わかりますか?」と問い掛けると、皆指を差して答えてくれました。

知的 中学部 2年生

『大きな運転席図鑑』(→p.63)でショベルカーを紹介した後に読みました。崖崩れを防ぐ工事の場面では、「すげえ」という声が上がりました。3号を探す場面では、読み手がヒントを言いながら絵本を見せて回り、3号を探し出してもらいました。

41

しょうぼうじどうしゃじぶた

渡辺茂男 さく 山本忠敬 絵

978-4-8340-0060-3

福音館書店

1966

★★



じぶたはジープを改造した小さな消防車です。同じ消防署にいるはしご車と高圧車、救急車は、大きな火事があれば大活躍。3台は、じぶたのことをばかにしていました。あるとき、山小屋が火事になります。じぶたは、狭くて険しい山道を登っていき、火事を消します。その活躍ぶりが次の日の新聞に載り、じぶたは子供たちの人気者になりました。

半世紀以上読み継がれている人気の絵本です。小さくても働き者で、大きい消防車に劣らない活躍をするじぶたに、特に年齢の低い子供たちは共感します。

簡潔な文章なので、歯切れよく読んでいきます。消防車が並んでいる場面や消火活動の場面は迫力があり、子供が興味を持つので、ゆっくり見せるようにします。ストーリーが理解できなくても、乗り物が好きな子は、絵を見て楽しむことができます。

知的 中学部 3年生

皆身を乗り出すようにして聞いており、特に、じぶたが悲しむ場面や、山小屋が火事になった場面で集中していました。

42

しんせつなともだち

方軼羣 作 君島久子 訳 村山知義 画

978-4-8340-0132-7

福音館書店

1987

★★



雪の日、食べ物を探しに出掛けた子ウサギは、カブを二つ見付けます。一つは食べ、もう一つは「きっと たべものがないでしょう。」とロバの家に置いていきます。サツマイモを見つけて家に帰ってきたロバは、イモを食べて、カブを子ヤギに届けます。子ヤギは子ジカに、子ジカは子ウサギにカブを届けました。目を覚ました子ウサギは、友達がカブを持ってきてくれたと分かります。

動物が食べ物を持ち帰ると、カブが一つ置いてあり、これを友達にあげる。親切な行動が繰り返される、心温まるお話です。真っ白な雪景色と、動物や食べ物、生活感のある家の中の鮮やかなコントラストが、お話の世界を引き立てます。それぞれの動物が住む家の中の様子を楽しむこともできます。

カブを見つけてから友達に届けるまでがパターン化された、テンポの良い文章です。流れに沿って自然に読むと良いでしょう。カブがそれぞれの家の中に置かれているところは、子供たちにしっかりと見せるようにします。

知的 中学部 1年生

生徒たちの半数ほどが、カブが子ウサギのもとに戻ってきたことを理解した様子でした。障害が重い生徒は、動物たちが次々に登場する展開を楽しんでくれました。

知的 中学部 3年生

生徒たちはよく聞いてくれましたが、読み聞かせの途中で落ち着かなくなる場面がありました。「やぎ」が次のページでは「こやぎ」と呼ばれるなど、呼び方が変わる点が難しかったのかもしれませんが。

43

すてきな三にんぐみ 改訂版

トミー・アンゲラー さく いまえよしとも やく

978-4-03-327020-3

偕成社

1977

★★

大型



黒マントに黒い帽子の泥棒3人組。夜になると、「おどしのどうぐ」で馬車を止め、宝を奪って山の隠れ家に運びます。ある晩止めた馬車に乗っていたのは、小さな女の子でした。女の子に宝をどうするのか聞かれた3人組は、孤児を集め、お城を買います。お城で暮らす子供たちは、皆赤い帽子に赤マント。子供は増えて村を作り、すてきな3人組を忘れないために、三つの高い塔を建てます。

泥棒の主人公が子供たちを助ける、というストーリー展開に、意外な面白さがあります。闇夜を連想させる青色を背景に、3人組のシルエットの黒、まさかりの赤など、色が効果的に使われています。「あらわれでたのは、くろマントに、くろいぼうしのさんにんぐみ。」など、リズム感のある文章でストーリーが展開していきます。

文の持ち味を生かして、歯切れよく読んでいきます。小学部から高等部まで、幅広く喜ばれますが、絵がデザイン的なので、理解することが難しい場合もあります。お話に沿って、絵を指していくと良いでしょう。ストーリーは理解できなくても、ユニークな絵そのものに引き付けられる子供もいます。

知的 小学部 高学年

馬車の乗客に「てを あげろ……」と言う場面で、両手をぴんと上げる児童がいました。お話の中に入り、登場人物に成り切っている様子でした。

知的 中学部 3年生

「おどしのどうぐ」を紹介する場面が一番集中しました。「こしょう・ふきつけ」をじっと見ている生徒がいたので、「ここを押すと、こしょうがパツと出る」と説明すると、うなずいてくれました。

44	せんたくかあちゃん さとうわきこ さく・え	978-4-8340-0897-5	福音館書店	1982
			★★	大型



洗濯の大好きな母ちゃんがありました。家中の服や道具、ネコ、犬、子供まで洗い、木から木へ縄を張って干してしまいます。へそを求めて落ちてきた雷様を洗うと、目鼻口が消えてしまいました。子供たちがクレヨンで顔を描くと、雷様は気に入って、大喜びで帰っていきます。次の朝、たくさんの雷様が落ちてきて、「せんたくしてくれえ」と母ちゃんに頼みます。

元気な母ちゃんの活躍が、動きのある親しみやすい絵で、生き生きと描かれています。

標題紙からお話が始まるので、忘れずに読みましょう。全体的に元気よく、母ちゃんのせりふは特に歯切れよく読みます。台所道具や子供、ネズミ、時計などが全て干されている場面、雷様が大勢落ちてきた場面は壮観です。子供たちによく見えるように、ゆっくり見せます。絵が細かいので、少人数で読むと良い絵本です。

肢体不自由 中学部

ある生徒は雷様の絵が気に入ったようで、雷様の目鼻口が消えた場面でくすくすと笑っていました。

45

どろんこハリー

ジーン・ジオン ぶん マーガレット・ブロイ・グレアム え わたなべしげお やく 978-4-8340-0020-7

福音館書店

1964

★★



ハリーは、黒いぶちのある白い犬です。お風呂が大嫌いで、お風呂にお湯を入れる音を聞くと、ブラシを裏庭に埋め、外へ逃げ出しました。ハリーは泥遊びや鬼ごっこをして汚れ、白いぶちのある黒い犬になってしまいます。家に帰ると、誰もハリーだと分かりません。ハリーは、埋めたブラシを掘り出して、お風呂に飛び込み、洗ってもらいます。すると元どおり、黒いぶちのある白い犬になりました。

家から外に飛び出し、冒険をして困ったことになるけれども、最後はめでたしめでたしで終わるお話です。外で遊んで泥だらけになるハリーは、子供そのもの。絵も親しみやすく、遠くからもよく見えます。

ハリーが外で遊んでいる場面は、どこにいるのか分かりにくいところもあるので、指を差して読むと良いでしょう。芸当をする場面では、絵を一つ一つ指しながら読むと、理解を助けます。黒いぶちのある白い犬が、白いぶちのある黒い犬になる、お風呂嫌いのハリーがお風呂に入りたがるなど、逆転の面白さがあります。かわいい犬の楽しげな絵に興味を持つ子供もいます。小学部で喜ばれる絵本です。

肢体不自由 小学部 高学年 重複

最後にハリーが黒いぶちのある白い犬に戻ると、児童たちは喜び、読み終わると拍手が起きました。

46

ねずみくんのチョッキ

なかえよしを 作 上野紀子 絵

978-4-591-00465-4

ポプラ社

1974

★★

大型



ねずみくんはお母さんに赤いチョッキを編んでもらいました。アヒルが「ちょっと きせてよ」と借りて着ると、それを見たサルがアヒルに「ちょっと きせてよ」とねだります。アシカ、ライオン、馬、ゾウ。チョッキは動物たちに着られ、少しずつ伸びていきます。ゾウが着ているのを見て、ねずみくんはびっくり。伸びきったチョッキを着てがっくりして帰ってきます。

チョッキを着るのが少しずつ大きい動物になり、この後どうなるのかと期待感が持てる展開です。登場する動物が次々と変わるので、しっかり間合いを取って読みます。標題紙のタイトルに赤いチョッキが掛かっています。また、奥付の上には、チョッキをブランコにして遊ぶねずみくんとゾウの絵があります。これらを忘れずに見せましょう。ストーリーそのもののおかしさまでは理解できなくても、「いい チョッキだね ちょっと きせてよ」「うん」「すこし きついが にあう

かな？」と同じ会話が繰り返されていることや、チョッキを無理やり着ている動物たちの愉快的表情を楽しむことができます。

モノクロの絵の中に赤いチョッキが効果的に描かれ、しゃれた感じの絵なので、中学部や高等部でも楽しめます。起承転結のあるストーリー絵本の合間に読むと良いでしょう。動物たちの絵が小さいので、少人数に向きます。

知的 小学部 2年生 重度

アヒルやサル、ゾウの場面は、チョッキが見えにくいので、絵本を児童たちの前に持っていき、絵を指しながら読みました。伸びていくチョッキを心配したのか、不安そうな表情をする児童もいました。最後にブランコをする場面を見せて回ると、不安そうだった児童は「良かったー」と安心した様子でした。障害が重い児童は、動物の絵を見つめていました。

知的 高等部 1年生

読み進めていくと生徒たちはストーリーの面白さに笑い出し、最後まで楽しそうに聞いていました。

47	のろまなローラー 小出正吾 さく 山本忠敬 え	978-4-8340-0089-4	福音館書店	1967
			★★	



ローラーが、重い車をごろごろ転がし、道を平らにしています。トラックや自動車が、のろまなローラーをばかにして追い越していきます。でこぼこ道を登っていくと、追い越していった3台の車がパンクしていました。ローラーは皆を励まし、先へ行きます。修理を終えた車たちは追い付くと、お礼を言って走っていきます。山の上まで来たローラーは、後戻りしながらゆっくり帰っていきます。

半世紀以上子供たちに親しまれている絵本です。笑われながらも立派な仕事をし、お礼を言われるローラーに、子供たちは感情移入します。ローラーが通った道には濃い色が付き、重量感が伝わります。車は少し擬人化され、汗をかいたり涙を流したりと、表情豊かです。車好きの子供に喜ばれます。

「いったり きたり」「ゆっくり ゆっくり」「ごろごろ ごろごろ」といったローラーの動きの部分をゆっくり読むと、お話の雰囲気がよく伝わります。また、各場面に出てくる道路標識から、今いる場所がどのような所なのか、想像して楽しむこともできます。

知的 小学部 3年生

読み聞かせをする前に、簡単にローラーの説明をしました。「ごろごろ」という言葉を気に入った児童が多かったので、この言葉を何度か繰り返しました。ローラーがばかにされる場面では、不服そうな表情をする児童や、「何で!？」と言う児童もいます。車が再登場すると、「さっきのトラック!」「また来たよ」などの声が上がりました。障害の重い児童は、かっこいい車の絵を楽しんでいました。

48

ぴかくんめをまわす

松居直 さく 長新太 え

978-4-8340-0088-7

福音館書店

1966

★★



大都会の朝。信号機のぴかくんは、おまわりさんに起こされました。働く人や、学校に行く人に、あお・き・あか・あお・き・あか、と規則正しく信号を送ります。皆が信号を守れば人も車もさっさと通れます。ところが、あまりの忙しさにぴかくんは目を回し、交差点は大混乱に。壊れた所を直してもらおうと、ぴかくんは元どおり。夕方になり、人も車も信号に従って、まっすぐ家に帰ります。

人や車であふれる都会で奮闘する信号機のお話です。擬人化されて目を開いたり、目を回したりする信号機がユーモラスに描かれています。子供たちは、一生懸命に働くぴかくんを応援します。また、「あおでも、みぎをよく ちゅういして わたりましょう。」「しんごうの ないときは、おまわりさんの あいずを しっかり まもりましょう。」と交通ルールを説明する場面もあり、身近な生活について学ぶこともできます。

読み聞かせをするときは、場面の中で今、信号機が何色なのか、指を差しながら読むと、子供たちの理解を助けます。

49

ぼくのくれよん

長新太 おはなし・え

978-4-06-131891-5

講談社

1993

★★

大型



大きな青いクレヨンで、ゾウが「びゅー びゅー」描くと、カエルが池だと思って飛び込みます。赤いクレヨンで描くと、動物たちは火事だと思って逃げ出します。黄色で描くと、大きなバナナだと思って皆が食べようとします。ゾウはライオンに怒られてしまいますが、まだまだ描き足りないようです。クレヨンを持って駆け出していきます。

巨大なクレヨン、絵本からはみ出す絵、勘違いする動物たち。短いお話の中に、作者の創造性が遺憾なく発揮されています。最初の場面には、普通の大きさに見えるクレヨンが出てきます。それがごろごろ転がり、ゾウの大きなクレヨンだと分かるところで、子供たちはまず驚きます。ゾウが鼻でびゅーびゅー描く大きな絵で更に驚きます。ナンセンスな世界を理解するのは難しくても、縦横無尽に絵を描くゾウの姿や、クレヨンの豊かな色彩を楽しむことができます。

「ごろ ごろ」「びゅー びゅー」といった擬音が効果的に使われています。ゾウやゾウが描く絵の迫力を伝えるように読むと良いでしょう。

肢体不自由 小学部 低学年 重複

クレヨンが「ごろ ごろ」転がる場面では、その音を繰り返す子供がいました。ゾウが「にゅー」と鼻を出す場面で、絵本を指す子供もいます。絵を描くときの「びゅー びゅー」という擬音を聞いて、喜ぶ子供もいました。

知的 小学部 4年生

読み手が「こんなに大きい」と言い、ネコと対比されたクレヨンを示すと、児童たちは「でっかい！」と驚きました。ゾウが出てくると、「ゾウ」と言ってうれしそうにする児童もいます。大きな湖を見て「わあ」と驚く児童も。バナナの場面では笑いが起き、ある児童は「動物いっぱい（食べに）行っちゃったね」と言いました。

50

よるのねこ

ダーロフ・イプカー 文と絵 光吉夏弥 訳

978-4-477-02003-7

大日本図書

1988

★★



夜、リーさんがネコを外に出すと、ネコは探検に出掛けます。ネコは夜でもよく見える目を持っています。色とりどりの花の間を通り、鳥小屋でネズミを狙い、牧場を抜けて畑の中へ。森を抜け、広い道路に沿って町に行きます。町で待っているのは、仲間のネコたちです。夜が明けると、ネコは仲間にさよならを言って、家へ帰り、肘掛け椅子の上で眠ります。

ネコの特徴や習性を生かしたストーリーです。絵が大変工夫されており、人間の目を見た暗い夜の世界と、ネコの目を見た色彩あふれる夜の世界が交互に出てきます。ネコ以外にも、立ったまま眠る馬、夜に出歩く森の動物たちなど、他の生き物の特性も分かります。少し説明的な文章なので、高等部でも喜ばれます。

知的 中学部

シルエットのページでは、「鳥小屋？」などと言い、場所当てをする生徒がいました。様々な動物が登場する森の場面は各自の前に絵本を持っていき、じっくり見てもらいました。

知的 中学部 2年生

森の場面で、シカやキツネが出てきたからでしょうか、生徒たちから「かわいい！」と声が上がりました。

(5) 昔話絵本

51	おおきなかぶ ロシアの昔話 A.トルストイ 再話 内田莉沙子 訳 佐藤忠良 画	福音館書店	1966
		★	大型



おじいさんがカブを植えました。すると、甘い元気の良い大きいカブができました。おじいさんは「うんとこしょ どっこいしょ」と、カブを抜こうとしますが、抜けません。おばあさんと呼んで一緒に引っ張りますが、それでも抜けません。孫、犬、ネコを次々と呼び、最後にネズミを呼んで引っ張ると、やっとカブが抜けました。

ロシアの昔話絵本。「おばあさんが おじいさんを ひっぱって、おじいさんが かぶを ひっぱって—— うんとこしょ どっこいしょ」の繰り返し、子供は大好きです。ロシアの農民の雰囲気がよく表現された絵をしっかりと見せながら、ゆっくりと読んでいきます。

特別支援学校で、この絵本の読み聞かせをすると、参加者全員で声を合わせて読むことがよくあります。「うんとこしょ どっこいしょ」の節やアクセントは、なるべくその学校の読み方に合わせて読みます。「うんとこしょ どっこいしょ」で体を前後に揺らす、「それでも かぶは ぬけません」で顔の前で手を振る等、ジェスチャーが付く学校もあります。

読み終わったら、表紙と裏表紙を広げ、登場人物たちがカブを担いでいる絵を見せると喜ばれます。中学部や高等部でも楽しめる絵本です。

知的 小学部 4年生

児童たちは「うんとこしょ どっこいしょ」と声を出し、声がそろとう喜びました。カブが抜けないと、そのたびに「またダメだった」と肩を落としていた児童は、結末に安心した様子でした。最後に表紙と裏表紙を広げて見せると、児童たちは満足した表情をしました。

知的 高等部

好きなお話なのでしょう、絵本を見せると、一人の生徒が声を上げました。この生徒は、自分の絵本を学校に持ってきて、皆で読んでいるそうです。参加者全員で、「うんとこしょ どっこいしょ」と声をそろえて読みました。

特別支援学校から寄せられた事例 知的 小学部 3年生

対象は小学部3年生の6名で、発語や発声があり、簡単なコミュニケーションがとれ絵本の内容にイメージが持てる児童から、注目することが難しい児童もいます。読み聞かせに際しては、児童の反応を見ながら繰り返しのせりふをリズムよく読むよう心掛けました。「うんとこしょ、どっこいしょ」になると手を前に出して引っ張る動作をしたり、言葉に出したり、登場人物と一緒に楽しんでいました。「まだまだ」のところでは、手や首を振って表現する児童もいました。また、ネズミが引っ張る場面になると「尻尾」と言っている児童がいました。ネズミだけがネコと尻尾を絡ませ、カブとは反対方向を向いて引っ張っています。絵本の細部までよく見ていて感心しました。最後、カブが抜けると立ち上がって飛び跳ねたり、バンザイをしたり登場人物と一緒に喜んでいました。繰り返しの言葉のリズムとつながっていく絵面の面白さに、注目が難しい児童も途中から絵本に視線を向けていました。



お母さんヤギが出掛けると、留守番をする子ヤギたちの家に、オオカミがやって来ます。子ヤギたちがお母さんだと思って戸を開けてしまうと、オオカミは6匹をのみ込み、時計の箱に隠れた末の子ヤギだけが助かります。お母さんと子ヤギは、寝ているオオカミのおなかを切り開いて6匹を助け出し、代わりに石を詰め込みます。目覚めたオオカミは、水を飲もうとして井戸に落ち、死んでしまいます。

グリムの有名な昔話。起承転結がはっきりとしたストーリーと、深みのある色合いの格調高い絵が、子供たちに強い印象を与えます。

細かなところまで丁寧に描かれた絵をじっくりと見せながら読んでいきます。白い足を子ヤギたちに見せるオオカミの絵や、時計の箱に隠れた末の子ヤギの絵は、特に小さいです。緊迫した雰囲気壊さず、お話の流れを絶たないように気を付けながら、場面を見せて回っても良いでしょう。オオカミがヤギたちの家に飛び込む場面や井戸に落ちる場面は、勢いよく読むと、ストーリー全体にメリハリが付きます。

登場人物が多く文章も長いので、子供の状態に応じて、分かりやすく言い換えて読んだこともあります。足を白くする場面では、粉屋の心の声を省略し、「粉屋が断ります」と事実だけを伝えました。

知的 小学部 6年生

児童たちは次第に前のめりになり、真剣に聞き始めました。ある児童はオオカミがきれいな声になると「うそだよ」と叫び、正体がばれるとうなずきました。子ヤギがオオカミをお母さんだと思い込むと、多くの児童が「違うよ」と止めようとしています。オオカミが家に入ると、児童たちは怖がり、手で顔を覆いました。読み手が時計の箱に隠れた子ヤギの耳を指し、見せて回ると、「いる」「白いやつだ」と隣同士で顔を見合わせました。じっくりと絵を見つめる児童もいます。石を詰める場面では、不思議そうな顔をする児童と、期待の表情をする児童がいました。オオカミが井戸に落ちると、児童たちは「勝った！」と喜びました。

知的 中学部 2年生

生徒たちは声も出さず、固唾をのんで絵本を見ているようでした。オオカミが戸をたたきたびに身を固くし、家に入る場面で絵本から顔を背けた生徒は、6匹が救出される場面でやっと顔を戻しました。おはなし会の最後にどの絵本が楽しかったか尋ねると、顔を背けた生徒はこの絵本を選びました。

53

こぶじいさま 日本の昔話

松居直 再話 赤羽末吉 画

978-4-8340-0788-6

福音館書店

1980

★★



こぶじいさまが山のお堂に泊ると、大勢の鬼がやって来て、歌い踊り始めます。こぶじいさまも鬼に続いて歌い、踊ります。鬼が、明日も来るように、と言ってこぶを取ると、体が軽くなったような気がしてじいさまは喜びます。その話を聞いた隣の家のこぶじいさまも、お堂に行き、めちゃくちゃに歌い踊ります。怒った鬼は、預かっていたこぶを、隣のじいさまの額に打ち付けてしまいます。

日本の昔話です。カラーと白黒のページが交互に描かれ、独特の印象を与えます。山奥から現れる鬼は、怖くもあり、面白くもあり、不思議な魅力を醸し出しています。

子供たちは、「くるみは ぱっぱ、ばあくづく」から始まる鬼の歌を喜ぶので、力強く、リズムカルに読むようにします。読み終わったら、表紙と裏表紙を広げて、色彩豊かな鬼の絵を見せます。中学部・高等部でも楽しめます。

知的 中学部

読んでいる途中から、一人の生徒が隣の生徒に向かって、各ページの文章の終わりを繰り返して語り始めました。歯切れの良い文を楽しんでくれたのでしょうか。

54

さるとかに

神沢利子 文 赤羽末吉 絵

978-4-7764-0820-8

BL出版

2017

★★



サルとカニが、カキのタネとむすびを交換します。カニがタネを庭に埋め、歌いながら育てると、カキの木に実がなります。サルがやって来て、「もいでやろう」と木に登りますが、自分は熟れた実を食べ、カニには青柿を投げます。カニは潰れ、腹からたくさんの子ガニが生まれます。子ガニたちは、あだうちに向かい、クマンバチ、栗、牛のふん、臼の助けを得て、サルを退治します。

会話やオノマトペが巧みで、読み聞かせをすると面白さが際立つ絵本です。迫力のある絵から、登場人物の動きや感情が存分に伝わってきます。

会話が多いので、誰が話しているのか理解しやすいように間を取って読むと良いでしょう。カニの歌は、節を付けて、カキの木の成長への期待感を込めて楽しく読みます。

文章量が多いため、全てを通して聞くのが難しい子供には、思い切って要点を押さえて読んだこともあります。例えば、子ガニが仲間と出会う場面では、登場人物の会話をやめて、「クマンバチがぶんぶん飛んできて、仲間になりました。子ガニががしゃがしゃ、クマンバチがぶんぶん進んでいくと、栗がころころ転がってきて、栗も仲間になりました」のように変えました。

知的 中学部

お話のポイントだけを、ジェスチャーも交えて伝えました。絵本を見つめる生徒、最後まで見続けることが難しい生徒など、様々でした。子ガニとその仲間がサルの家に隠れる場面は、生徒たちの目の前に持っていき、見せて回りました。

知的 中学部 3年生

カニの歌が人気でした。読み手が「また歌いました」と言うと、生徒たちは「また？」と言いながら期待する表情を見せました。気に入った擬音を声に出す生徒もいます。カニが死んでしまうと、「かわいそう」などと同情する声が上がりました。牛のふんが仲間になると、「汚い！」と笑いが起きました。サルが臼の下敷きになると、気の毒そうな顔をした生徒がいました。

55

三びきのやぎのがらがらどん ノルウェーの昔話

マーシャ・ブラウン え せたていじ やく

978-4-8340-0043-6

福音館書店

1965

★★

大型



3匹のヤギのがらがらどんは、山の草場へ行く途中、橋でトロルに出会います。トロルに「ひとのみにしてやろう」と言われた一番小さいがらがらどんは、二番目ヤギを待つように、と言って橋を渡ります。二番目ヤギも、大きいヤギを待つように、と言って渡ります。最後にやって来た大きいヤギのがらがらどんは、トロルと戦い、谷川へ突き落とします。3匹は草場に着き、太ってうちへ帰ります。

小さいヤギが知恵を絞ってトロルから逃げ、大きいヤギがトロルを倒す。テンポの良い繰り返しと、満足のいく結末が子供たちを喜ばせる名作です。

ヤギの大きさによってメリハリを付けて読みます。橋を渡る「かた こと」「がたん、ごとん」などの擬音はリズムよく読み、大きいヤギやトロルの声は間合いを取って読むと効果的です。お話を理解できなくても、擬音を楽しみ、迫力のある絵に興味を示す子供もいます。

知的 小学部 低学年

読み進めると、児童たちが話に引き込まれていくのが表情や仕草から伝わってきました。橋が鳴る音を口ずさむ児童がいたので、その部分を繰り返し読みました。

知的 小学部

先生も一緒に「がたごと がたごと」と言ってお話を盛り上げてくれました。多くの児童が擬音を楽しんでいました。

知的 中学部

一場面ごとに声を出している生徒がおり、大きなヤギのがらがらどんがトロルをやっつけるところで、「えー、怖ーい」と声を上げました。

56

ずいとんさん 日本の昔話

日野十成 再話 斎藤隆夫 絵

978-4-8340-2151-6

福音館書店

2005

★★



寺の小僧ずいとんさんが留守番をしていると、「ずーいとん ずーいとん」と呼ぶ声がします。キツネが戸に尻尾を「ずーい」とこすり付け、頭の後ろで「とん」とたたいていたのです。キツネを追って本堂に入ると、御本尊様が二つ並んでいました。ずいとんさんは、本物はお経を上げると舌を出す、と言ってお経を上げ、舌を出した方をたたきます。姿を現したキツネは、山へ逃げていきました。

ずいといんさんとキツネのだまし合いが楽しい日本の昔話。ユーモラスな表情のずいといんさんとキツネが、お話の雰囲気によく合っています。

のんびりとしたお話の雰囲気を伝えるように、ゆっくりと読んでいきます。「ずーいといん」という音も喜ばれますから、よりゆっくり、節を付けて読みます。絵が細かいので、少人数で読むと良いでしょう。ずいといんさんとキツネの掛け合いや、話の落ちへの理解が必要になるので、障害の軽い子供や、中学部・高等部で楽しめます。

知的 中学部 2年生

節を付けて「ずーいといん」と読むと、その音に興味を持つ生徒がいました。御本尊様が二つになった場面では、生徒たちから「ええー」と笑い声が漏れました。キツネが舌を出し、懲らしめられる場面は、多くの生徒が楽しんでいました。

57	だごだごころころ 石黒漢子・梶山俊夫 再話 梶山俊夫 絵	福音館書店	1993
		★★	



転がっただご（だんご）を追って穴に入ったばあさんは、赤鬼に捕まり、ひと混ぜするごとに粉が増えるしゃもじで毎日だごを作らされます。ばあさんは鬼が眠った隙に逃げ、以前助けた赤トンボがこぐ舟に乗せてもらいます。鬼は川の水を飲んで舟を引き寄せますが、ばあさんがしゃもじでこぐと水が増え、鬼の腹は破裂します。家に帰ったばあさんは、しゃもじを使ってじいさんとだご屋を始めます。

「だご」とはだんごのことです。個性的な絵が、鬼と人、動物たちが交流するおおらかな昔話の世界を見事に描いています。赤トンボがなぜ赤いのか、との由来譚（たん）にもなっているので、秋に読むと印象に残る作品です。

働き者のばあさん、ちょっと間の抜けた鬼など、登場人物の個性を生かすように読みます。ばあさんが舟で逃げるところは、緊迫感を持って読むと、お話全体にメリハリが付きます。「だご」が川を飛び越える場面など、絵が細かいところは、指を差しながら読むと良いでしょう。

知的 小学校（特別支援学級）

「『だご』とはだんごのことです」と説明すると、「じゃあだんごが、ころころ転がるんだ」と言う児童がいました。それまで足を揺らしていた児童も、揺らすのをやめて集中して聞いています。皆絵本を凝視していました。鬼の腹が破裂すると「えーっ」「わっ！」と驚く児童もいました。

知的 小学部 6年生

ばあさんの舟が鬼の方へ引っ張られる場面で、下を向いたり、体を動かしながら聞いていた児童が、絵本の方を見て「鬼に捕まっちゃう！」と叫びました。

58

ゆきむすめ ロシアの昔話

内田莉沙子 再話 佐藤忠良 画

福音館書店

1966

978-4-8340-0093-1

★★



子供のいないおじいさんとおばあさんが、雪でかわいらしい女の子を作りました。するとゆきむすめは動き出し、二人はかわいがって育てます。ゆきむすめは賢く美しく成長しますが、春になると、家に閉じ籠もってしまいます。夏のある日、森へ出掛けたゆきむすめは、たき火を飛び越えた途端に姿を消します。たき火の上には、白い湯気が立ち上っていました。

厳しい冬から雪解けの春、人々が外へ飛び出す夏へと季節が巡る、味わい深いロシアの昔話です。やわらかく美しい色彩の絵がお話の世界を見事に表現しています。

話の流れに沿ってゆっくりと自然に読んでいけば、子供たちにお話の良さが伝わっていきます。

知的 中学部 3年生

生徒たちはゆきむすめに感情移入したようで、季節が進むごとに、ゆきむすめが溶けてしまうことを心配する様子でした。読み終わると、何人かが余韻に浸っていました。

知的 高等部 3年生

皆絵本の方を見て、静かに聞いていました。最後に、「(今回のおはなし会で)ゆきむすめが良かった」と感想を言った生徒がいました。

(6) 知識の絵本

食べ物

59

おすしのさかな

ひさかた
チャイルド

2010

978-4-89325-381-1

★

おすしの さかな



「おすしは なにから できている？」という呼び掛けで始まります。ページをめくると海を泳ぐ大きなマグロが現れます。漁師がマグロを捕まえて、魚屋が解体してサクにします。寿司屋が薄く切って握れば、出来上がりです。他にも、アジ、サケ、イカ、エビのお寿司ができるまでを紹介します。最後に17種類のお寿司が勢ぞろい。ページをめくると、お寿司と同じ配置でネタとなった17種類の海の生き物が並びます。

普段食べているお寿司は、海を泳ぐ魚から作られる、ということが分かる写真絵本です。お寿司が好きな子供に喜ばれます。

17種類のお寿司の場面では、好きなお寿司を探して楽しむことができます。ページをめくると同じ位置にお寿司のネタになった海の生き物が現れるので、もとの魚を知ることもできます。少し大きいサイズの、雑誌『サンチャイルド・ビッグサイエンス』38巻10号(2009年1月)もあります。

寿司屋や魚屋がどのような仕事をしているか、という切り口で取り上げることもできます。『のぞいてみよう！ 厨房図鑑』（→p.66）の回転寿司につなげて読んでも良いでしょう。

知的 小学部 5年生

お寿司が出てくると児童たちは喜びました。「へいおまち！」と繰り返して言う児童もいました。

知的 小学部 4年生

魚の写真をじっくり見せると、挙手して名前を言い当てる児童がいました。お寿司の作り方を理解して、アジのページで、「大体はマグロと同じなんですね」と発言した児童がいました。

知的 高等部 1年生 重度・重複

表紙を見せると歓声が上がりました。マグロが漁師と同じくらい大きい、と指で示すと、生徒たちは驚いた様子でした。表紙を見せながら好きなお寿司を聞いて回り、選ばれたお寿司を「へいおまち！」と机や手の上に置くと、皆喜びました。受け取って食べる仕草をする生徒もいました。

60	みかんのひみつ 鈴木伸一 監修 岩間史朗 写真撮影	978-4-89325-068-1	ひさかた チャイルド	2007
			★	



一つのミカンがあります。ページをめくると皮がむけていき、実、房、小さな粒が現れます。粒の中にはジュースがいっぱい。だからミカンを絞るとジュースが出てくるのです。ミカンは、春に白い花を付け、夏に緑色の実になり、冬に実が橙色になります。最後に、形も色も様々な22種類のミカンが並びます。ページをめくると、同じ配置で輪切りのミカンが並びます。

仕掛けを上手に使いながら、ミカンの仕組みを解き明かしていく写真絵本です。ページをめくると一つのミカンの皮がむける、輪切りになる等の工夫があり、子供たちを引き付けます。ミカンが旬の時期に読むと、さらに関心が高まるでしょう。

小学部から高等部まで、様々な年齢の子供に読み聞かせをしましたが、どの学校でも興味を持ってくれました。1房のミカンに粒が270以上も入っているページでは、驚きの声を上げる子供もいました。最後の場面で、どれが食べたい？と聞くと、好きなミカンを指したり、レモンと言ったり、ミカンの種類を聞いてきたりする子供もいました。子供たちの障害の状態に応じて、ミカンの仕組みと種類のみを読んだこともあります。

少し大きいサイズの雑誌『サンチャイルド・ビッグサイエンス』35巻11号（2006年2月）もあります。

知的 小学部 5年生

270粒以上、と読むと、驚きの声上がり、「数えられないよ」と言う児童もいました。ミカンが成長していく様子のかいつまんで読むと、児童たちは興味を持ちました。22種類のミカンが並んだページは、見せた瞬間に歓声が上がりました。「これは皮が厚い」「これはジュースがない。飾りにもなる」などと紹介すると、一つ一つに注目していました。

知的 中学部 1年生

ミカンの成長の様子をかいつまんで読むと、生徒たちは興味深そうに聞いていました。22種類のミカンを見せて回ると、全て選ぶ生徒、食べる仕草をする生徒、先生にすすめる生徒等、様々でした。読み終わった後、この絵本を手に取り、誰にも渡さないようにしていた生徒がいました。

61 ぼくのぱんわたしのぱん

神沢利子 ぶん 林明子 え

978-4-8340-0849-4

福音館書店

1981

★★



三人の子供がパン作りに挑戦します。材料は、小麦粉、塩、砂糖、水、イースト。イーストは、酵母というカビです。イーストを溶かして膨らませ、材料と一緒に混ぜて、よくこねます。できた生地を押して畳み、力いっぱいたたき付けて、暖かい所で寝かせます。生地が膨らんだら、ネコ型、ゾウ型、足型など好きな形に整えて、天火で焼いたら出来上がりです。

子供たちの会話が聞こえてくるようなテンポの良い文章で、パンの作り方を順序よく説明します。ページの左上に時計が描かれ、どれくらいの時間が掛かるか分かるようになっています。

読み終わったら、子供たちが焼いたパンが並ぶ裏表紙も忘れずに見せます。

知的 小学部 4年生

説明調の文章が長く続くため、途中で集中力が切れてしまった児童もいましたが、何人かが最後までよく見てくれました。パンの中に青空が描かれた場面では、歓声が上がりました。

62 和菓子のほん

中山圭子 文 阿部真由美 絵

978-4-8340-2304-6

福音館書店

2008

★★



日本の四季を表現した和菓子の場面では、春の和菓子として「小蝶」や「たんぽぽ」、桜が題材の「桜だより」などを紹介しています。「和菓子ごよみ」では、その月の代表的な和菓子を並べて暦にしています。後半では、年中行事と結び付いた和菓子、材料、作り方、型、器、香り、デザインのヒントになった文様、自然の風物を表現した和菓子、江戸時代に書かれた和菓子の絵図帳、道具等を紹介します。

日本の四季を表現した和菓子を繊細なイラストで紹介しています。春のページには、黄色と緑を基調とした和菓子や、桜を題材にした和菓子が並び、早春の香りが漂ってきます。夏は涼しげ、秋はにぎやかな色どり。冬は寒さを感じる白が目立ちます。

おいしそうな和菓子をゆっくりと見せてから、名前を伝えるようにします。和菓子にはあまりなじみがない子供も、和菓子の美しい見た目と、きれいな名前を味わうことができます。「和菓子ごよみ」のページで、生まれ月の和菓子を探すのも楽しいでしょう。絵本の後半は難しいところもあるので、子供に合わせて、きれいな形や色彩など、楽しめるところを選びます。

ひな祭りなどの年中行事と結び付けて紹介することもできます。

知的 中学部

最後のページで「この和菓子にどんな名前を付けますか？」と問い掛けると、ある生徒が「宝物」と答えてくれました。他の生徒たちも絵を見続け、よく聞いていました。

知的 高等部 1年生

和菓子ごよみでは、「自分の誕生月の和菓子を探してみてください」と言い、一人一人の前に絵本を持って回りました。生徒たちは絵本を指しながら、自分の誕生月が何月でどの和菓子にあたるか、読み手に教えてくれました。

生き物

63	うさぎ 中川美穂子 指導 内山晟 写真	フレーベル館	2008
		★	



生まれたばかりのウサギの赤ちゃんが眠っています。赤ちゃんは、生まれて五日目に毛が生え、十日目に動き出し、おっぱいを飲んで大きくなります。十五日目には目が開いて、小さく跳ねるようになります。二十日目、お母さんに似てきた子ウサギは、初めて原っぱに出掛けました。お母さんウサギは耳を立てて危険がないか確認すると、駆け出し、やがて子ウサギのもとに戻ってきます。

生まれてから二十日目まで、子ウサギの成長を追い掛けた写真絵本です。実物大の写真には「しゃしの うさぎはほんとうのおおきさです。」と明記されているので、赤ちゃんの成長度合いが手に取るように分かります。

生まれて一日目、五日目の写真は、赤ちゃんたちがぴったりと寄り添い合っているため、どこが頭か分かりにくいです。聞き手の子供の数が多いときは、遠くからも分かるように「ここが頭」などと示すと、理解を助けます。成長した子ウサギは、飛び跳ねたり、毛繕いをしたりします。仕草が愛らしく、思わずなでてしまう子供もいるでしょう。巻末にウサギの飼育法や特徴、ウサギの種類をまとめたページがあるので、かいつまんで説明することもできます。

64	かぶとむし かぶとむしの一生 新版 得田之久 ぶん・え	福音館書店	2010
		★	



春、カブトムシの幼虫は落ち葉を食べて成長します。夏の初めにサナギになると、一月後に羽化し、成虫になります。成虫はクヌギ林に向かい、樹液に集まった虫たちと陣取合戦をします。一番強いのはカブトムシのオスです。メスは樹液のある場所でオスと出会い、タマゴを生みます。秋になると、カブトムシは皆死んでしまいましたが、土の中では、幼虫たちが春が来るのを待っています。

1970年代に描かれ、長年愛読されてきた絵本を、新しく分かった事実をもとに書き直した新版です。カブトムシのオスの一生が、力強く端正な絵で描かれています。

文章があるページの余白には、テントウムシ、クヌギなど、虫や植物の絵がモノクロで描き込まれています。本筋からそれないように気を付けながら、紹介しても良いでしょう。虫の好きな子供には、隅々まで楽しめる1冊です。

「羽化」や「甲虫」などの難しい言葉があり、説明も詳しいので、子供の状態に応じて、分かりやすく言い換えると良いでしょう。

65	からだのなかでドゥンドゥンドン 木坂涼 ぶん あべ弘士 え	978-4-8340-2391-6	福音館書店	2008
			★	



「きいてごらん おとがする からだのなかで ドゥン ドゥン ドゥン ドゥン おとがする」。男の子と女の子が相手の胸に耳を当てて、心臓の音を聞いています。犬とネコも音を聞き合っています。犬は「トゥクン トゥクン」、ネコは「ウクン ウクン」。トカゲ、鳥、ラッコ、クマ、キツネ、モグラ、クジラ。海や森、空や地面の下で、生き物たちの命の音がリズムカルに繰り返されます。

全ての生き物の体の中で心臓が、命が、脈打っていることを伝える絵本です。子供たちは、耳に心地よく響く言葉の繰り返しや、伸び伸びとした愛きょうのある動物たちの絵を楽しみます。

それぞれの動物の体の中の音を想像して、小さな動物は速く、大きな動物はゆっくりとリズムを取って、繰り返し読みましょう。

知的 小学部 2～3年生

児童たちは、言葉を繰り返し声に出し、動物の絵に興味を示しましたが、「ドゥン ドゥン」の意味が分からない様子の児童もいました。そのため、読み終えてから、「体の中で音がするか、試してみよう」と言って、胸に手を当ててもらいました。すると、「ドゥンドゥン言ってる」と気付く児童や、隣の児童の胸に耳を当てる児童がいました。

知的 中学部

繰り返される言葉が心地よいようで、生徒たちは穏やかな顔でよく聞いていました。読み終えてから、「ドゥン ドゥンは鼓動の音」と伝え、皆胸や首、手首に手を当て試していました。

66	ひよこ 柿澤亮三 指導 福武忍 絵	フレーベル館	2008



ニワトリのタマゴが2個あります。1個からヒヨコが生まれました。ヒヨコは、成長とともに羽の色が白くなり、半年ぐらいで大人になります。もう1個からはヒヨコは生まれません。オスと出会わなかったメスが生んだからです。次に登場したのは世界一大きいタマゴと小さいタマゴ。どちらもヒヨコと親鳥が紹介されます。その後、11種類のタマゴが登場して、ヒナと親鳥が描かれています。

白地对象物だけがはっきりと描かれているので視覚的に分かりやすい絵本です。ふわふわしたヒヨコの愛らしさを楽しみながら、タマゴとヒヨコの基本的な知識を得ることができます。

タマゴの絵が実物大なので、本物のタマゴを並べてみると、子供の興味を引くでしょう。11種類のタマゴのページの次をめくると、同じ位置に生まれたばかりのヒヨコが現われます。その次をめくると、さらに成長したヒヨコが親鳥と一緒に描かれています。どのタマゴがどのヒヨコになるか、当てるのも楽しいでしょう。11個のタマゴのうち、10個は鳥ですが、1個だけワニです。

ここから、鳥以外の卵生動物の存在に触れることもできます。巻末の「たまごとひよこしんぶん」の中に、タマゴから生まれる生き物が集合したページがあるので、紹介しても良いでしょう。

67	ほんとのおおきさ動物園 小宮輝之 監修 福田豊文 写真	978-4-05-202930-1	Gakken	2008
			★	?



動物園の動物たちを原寸大の写真で紹介しています。ページ右側の柱には、動物園で付けられた名前、性別、その動物がいる動物園、学名、その動物の特徴や習性の一部といった情報が載っています。さらに、パンダなら「目の上にひげがぴーんと出ている」「目と目のあいだにつむじがあるよ。みつかった?」のように、写真から読み取れる事実が幾つか書き出されています。

B4判の白い見開きいっぱいに、鮮明な動物の写真が配置されています。皮膚の質感や体毛の一本一本まで、じっくりと観察しましょう。ページ右側の柱に書かれた情報をもとに、いろいろな発見をすることができます。

登場する動物は、パンダ、シマウマ、トラ、カピバラ、キリン、ゴリラ、コアラ、ナマケモノ、プレーリードッグ、ミーアキャット、ツチブタ、ハリネズミ、アルマジロ、ゾウ、バク、アリクイ、アシカ、ラクダ、レッサーパンダ、サイの20種類です。

続編に『**もっと！ほんとのおおきさ動物園**』（小宮輝之 監修 松橋利光 写真 柏原晃夫 絵 高岡昌江 文 Gakken 2009年）があり、ライオン、ホッキョクグマ、カバなどが登場します。同じシリーズに『**ほんとのおおきさ水族館**』（小宮輝之 監修 松橋利光 写真 柏原晃夫 絵 高岡昌江 文 Gakken 2010年）があり、メガネモチノウオ、シャチ、セイウチなどが紹介されています。

知的 中学部 3年生

観音開きのページはクイズ形式で読みました。読み進めていくと答える生徒が増え、にぎやかになりました。最近、修学旅行でサファリパークに行ったそうで、知っている動物が出てくると喜び、先生と「あれ見たね」と話していました。

知的 中学部 3年生

※『ほんとのおおきさ水族館』の事例です。

生徒たちはどのページも興味深く見ていました。ページが観音開きになるセイウチのページでは、大きさに圧倒され、驚く生徒もいました。

68

まるまるだんごむし

須田孫七 監修 榎本功 写真撮影

ひさかた
チャイルド

2006

★



ダンゴムシをつつくと、丸くなります。名前のおり、どこから見ても真ん丸です。暗い所が好きなダンゴムシは、明るい所に急に出ると、丸まります。アリに出会うと、身を守るために丸まります。真っ白い赤ちゃんも、丸まります。丸まったダンゴムシを様々な角度から撮った場面もあります。冬になると、ダンゴムシは土の下で丸まって眠り、春を待ちます。

どんなときにダンゴムシが丸くなるか、拡大して見せている写真絵本。

最初に絵本の冒頭にある実物大のシルエットを示して、本当の大きさを知らせてから読むと良いでしょう。ダンゴムシの実物を見せてから読むと効果的です。

知的 小学校(特別支援学級)

ダンゴムシを様々な角度から撮った場面を各自の前に持っていくと、赤ちゃんダンゴムシを指す児童や、本に顔を寄せる児童がいました。夏に読んだため、秋の終わりの場面では、「夏が終わって秋が来る、そして寒くなって冬が来る」と季節の移り変わりを補足しました。

69

みんなうんち

五味太郎 さく

福音館書店

1981

978-4-8340-0848-7

★

大型



ゾウ、ネズミ、ヒトコブラクダ、フタコブラクダ、魚、鳥。動物が次々と登場し、うんちをします。うんちの形や色、匂いは、動物によって違います。うんちの仕方も、カバは止まって、シカは歩きながら、ウサギはあちこちで、人間は決めた所で、と様々です。うんちをする場所や、後始末の方法も異なります。生き物は食事をするので、皆うんちをするのです。

「全ての生き物は、食べて、排せつをする」ということをストレートに伝えていきます。デザイン化された明るい絵だからでしょうか、「うんちはちょっと嫌」という子供も、素直に受け取ることができるようです。

「へびのおしりはどこ?」「くじらのうんちはどんなの?」など、聞き手に問い掛けるのみの場面もあります。答えを聞かれることもあるので、動物のことが分かる図鑑等を用意しておき、読み聞かせの後で紹介しても良いでしょう。「ひとこぶらくだはひとこぶうんち」など、ユーモラスな場面もあり、中学部や高等部の生徒も楽しめます。

知的 中学部 3年生

ラクダのうんちの場面では、生徒たちは口々に「うそだー」と言いました。盛り上がったところで「これはうそ!」と読むと、笑いが起きました。

肢体不自由 小学部~高等部

うんちと言うたびに、「嫌だー」と言う児童・生徒がいました。「へびのおしりはどこ?」と読むと、児童・生徒たちは、真剣に考え、先生に答えを聞いたりしました。「くじらのうんちはどんなの?」と読むと、「でっかい」などの反応がありました。

70

あおむしくん

七尾純 文 久保秀一 写真

偕成社

2002

★★



サンショウの葉の上にあるタマゴから、小さな毛虫が生まれました。毛虫は、葉っぱを食べて大きくなります。カマキリに見付かると、小鳥のふんだと思わせて切り抜けます。毛虫は脱皮して、アオムシになります。テントウムシと出会うと、嫌な匂いのする角を出して身を守ります。アオムシは、サナギになって眠ります。サナギから出ると、アオムシはアゲハチョウになっていました。

ナミアゲハの成長をお話仕立てで説明する写真絵本。エリック・カールの『はらぺこあおむし』(→p.36)を連想させます。お話と写真が調和しているので、物語を楽しむ感覚で、脱皮、羽化、擬態など虫の生態を知ることができます。

脱皮やサナギへの変態、羽化などの場面では、幾つもの写真を時系列に並べています。一つ一つ、指を差して順番を示しながら読み聞かせると良いでしょう。取り上げられているのは、日本で見られる種類のアゲハチョウなので、実物を見たことがある子供は、更に興味を持つでしょう。

同シリーズ、同著者の『ざりがにちょっくん』(七尾純 文 久保秀一 写真 偕成社 2002年)もお話仕立てで、ザリガニの成長を丁寧に説明しています。

71

子ザルのいちねん

福田幸広 写真・文

小学館

2009

★★



春の夜、ニホンザルの赤ちゃんが生まれました。赤ちゃんは、お母さんに抱かれたまま一週間で過ごすすと、歩き始めます。飲むのはお乳だけです。夏、一緒に遊ぶ友達ができ、草も食べるようになりました。秋になると、木の実の見つけ方を覚えます。冬、吹雪のときは家族に守られて耐え、満月の夜は仲間と抱き合って眠ります。寒い日には、たくさんのサルと温泉で温まります。

長野県の地獄谷で生まれた子ザルの十か月を捉えた写真絵本です。自然の中で伸び伸びと育つ子ザルの無邪気な魅力が伝わってくる写真が並んでいます。

簡潔で分かりやすい文章です。そのまま読んでも、子供たちが興味を持ちそうな箇所だけ選んで読んでも良いでしょう。雪の中、温泉で温まっているサルたちの気持ちよさそうな表情は、特に子供たちの興味を引きまます。



「鳥は、羽毛を持っています。」の一文に、雪の中でも温かそうなショウジョウコウカンチョウの絵が添えられています。同じ構成で、羽毛のこと、タマゴとヒナのこと、巣の作り方、動き方、群れのこと、くちばしで食べ物をとること、歌で気持ちを伝えること、体の大きさは様々であること、と鳥の生態を述べていきます。最後は、「鳥は、私たちの大切な仲間です。」という文で終わります。

見開きの左側に説明文、右側に文章に対応した絵、という構成で、鳥とはどんな生き物かを示した絵本です。文章はシンプルで、絵は緻密です。木の枝を持ち帰るハクトウワシや、魚をくわえるオオアオサギ等、本文にない情報を絵から読み取って楽しむこともできます。

原書がアメリカで出版されているので、日本になじみのない鳥が登場します。ウミガラスとアメリカオシについては、巻末の解説で日本での状況にも触れているので、適宜説明を加えても良いでしょう。細やかな絵をじっくり見せたいので、少人数への読み聞かせに向きます。

「自然スケッチ絵本館」シリーズには、甲殻類、有袋類、は虫類、両生類、ほ乳類、軟体動物、魚、鳥、昆虫、げっ歯類、猛きん類、ペンギン、海、山、草原、砂漠をテーマにしたものがあります。全巻、動物や自然の基本的で大切な事実を述べています。

知的 小学部 4年生

本の一部をかいつまんで読み、読み聞かせたページを、一人一人の前に見せて回りました。生まれただけのヒナの様子に目を見張る児童、高い所に巣を作る鳥を見て「ワシ！」と言う児童、巣がない鳥の場面で「洞窟に入れればいい」と発言する児童がいました。最後に、「知識のページもあるので、気になる人は読んでみてください」と言うと、何人かが期待の表情をしました。



魚には骨がありますが、タコにはありません。人間には、たくさんの骨が組み合わさってできた骨格があります。関節の部分を使って、色々な動きをすることもできます。骨は、内臓や脳を守る役目をしています。せき椎動物は、全体の形は違っていても、骨格は似ています。傘やショベルカー等の人間が作った物も、動物の骨格と同じ構造です。古い骨から、大昔の様子を知ることができます。

関節や筋肉の動き、骨の働きをユーモラスな絵と文で描いた絵本です。人間の骸骨が描かれた場面は、子供の興味を引きます。

自分の腕に触りながら動かしてみると、骨が動くのが分かります。関節の場面を読んでから子供たちに試してもらおうと、理解が深まるでしょう。黒を背景に白い骨が踊っているページをめくると、同じ格好で、筋肉や皮膚が付いたワニやライオン、馬、カエルなどが踊っています。

骸骨の場面を見せて、何の動物の骨か、クイズにすることもできます。中学部や高等部の生徒にも受け入れられます。

74	あさがお 柳宗民 指導 齋藤光一 絵	フレーベル館	2008
		★	



一晩水につけて、根が出やすくなったアサガオのタネをまきます。毎日水をあげると、タネから根が伸び、双葉が出てきました。双葉の真ん中からは本葉が生えます。本葉は増えていき、一番上がツルになります。葉の付け根にツボミが付くと、朝まだ暗いうちにアサガオの花が咲きます。虫たちが花の蜜を吸い、受粉すると、タネが育ちます。秋になると、300粒から400粒のタネがとれます。

アサガオの一生を、成長の段階ごとにゆっくりと丁寧に取り上げた絵本です。

絵は写実的で、子供の理解を助ける工夫が随所にあります。タネから根が伸びる場面は、地面の中が断面図になっており、根が育つ様子をじっくりと見ることができます。また、1粒のタネから育ったアサガオからたくさんのタネがとれることを示すために、タネを360粒並べて描いた場面もあります。

発芽や受粉など、植物が成長する仕組みに初めてふれる子供がいるときは、分かりやすく言い換えたり、かいつまんで読みます。アサガオを育てる機会があれば、絵本と実物とを比較しながら、成長の様子を観察しても良いでしょう。

知的 小学部 5年生 重度・重複

興味を持った児童が、読んでいる途中、「ガもアサガオに飛んでくるの?」「タネは何個あるの?」などと聞いてきました。途中で集中力が切れる児童もいましたが、花が咲いた場面は皆よく見ていました。

75	どんぐりころころ 大久保茂徳 監修 片野隆司 写真撮影	ひさかた チャイルド	2007
		★	



秋に拾えるどんぐりは、木の上に実ります。夏の初め、赤ちゃん（幼果）だったどんぐりは、少しずつ大きく、茶色くなり、秋になると落ちます。17種類のどんぐりが並ぶ場面もあります。形や大きさは様々で、どれも異なる種類の木になります。鳥、リス、ネズミ、モモンガも、どんぐりが大好きです。動物たちが食べ残していったどんぐりは、春になると小さな芽を出します。

どんぐりの成長過程や特徴を紹介した写真絵本。見開きで1枚の写真を見せているページが多く、子供の注意を引きます。後半にある、動物たちが生き生きとどんぐりを食べている写真は、動物の好きな子供に喜ばれるでしょう。

どんぐり拾いなどの実体験があれば、絵本の中の出来事と結び付き、より深く楽しめます。17種類のどんぐりが並ぶ場面で、拾ってきたどんぐりの名前を調べるのも良いでしょう。次のページをめくると、木に実った17種類のどんぐりの写真がありますが、位置が違うため、紹介するときは注意します。

知的 小学部 5年生

読み聞かせを始めると、皆が各々興味を示してくれました。

「ぽとーん！」と読むと、「ぽとん」と繰り返したり、ドングリがたくさん落ちているページで、前のめりになって見つめたり。17種類のドングリが並ぶ場面では、写真を指して「ドングリ」と言う児童もいました。

76

びっくりまつぼっくり

多田多恵子 ぶん 堀川理万子 え

978-4-8340-2581-1

福音館書店

2010

★



晴れた日、「ぼく」は開いたマツボックリを見付けます。「ぼく」は松のタネで遊んだ後、マツボックリを並べて帰ります。雨の日に見に行くと、マツボックリはぬれて、閉じていました。「ぼく」はマツボックリを二つ持って帰ります。翌朝見ると、マツボックリは乾き、開いていました。最後に、ビンを逆さにしても中身が出てこない手品「びっくり びんづめ まつぼっくり」が紹介されています。

素朴で温かみのある絵と、「どうしちゃったの、まつぼっくり。びっしょり しょんぼり まつぼっくり」など、声に出したくなる文章で、マツボックリの特徴を伝えています。お話仕立てなので、読み聞かせに向く絵本です。

マツボックリに付いていた薄い羽根のようなものに、興味を引かれる子供もいます。裏見返しで松のタネだと分かるので、忘れずに紹介しましょう。最後の手品は、「乾燥すると開き、水にぬれると閉じる」というマツボックリの性質を利用したものです。子供は、身近なマツボックリで、不思議で楽しい実験ができることに驚きます。ぜひ挑戦してみてください。

知的 中学部 3年生

マツボックリが開閉するたびに「何で？」と尋ねる生徒がいたので、手品のページに移る前に、マツボックリの性質を改めて説明すると、その生徒は膝を打ち「なるほど！」と言いました。読み聞かせの後、絵本と同じようにペットボトルで作った手品を見せ、「逆さにしたら落ちると思う？」と聞くと、生徒たちは「落ちない！」の大合唱。読み手が「3、2、1」と数えてびっくり返すと、拍手が起こりました。皆近くで見たがったため、見せて回りました。

77

さくら

長谷川摂子 文 矢間芳子 絵・構成

978-4-8340-2495-1

福音館書店

2010

★★



春、サクラの木にたくさんの花が咲きました。ヒヨドリやスズメが蜜を吸いにやって来ます。風に吹かれて花が散り、葉桜になると、葉陰で小さなサクランボが実り始めました。夏、木は虫で大にぎわいです。秋になると、葉の色は赤や黄色に変わり、冬には葉をすっかり落とします。春風が吹いてくると、芽が膨らんでツボミになりました。そして、再び満開の花を咲かせます。

1本のサクラの木の一年を追った、美しい絵本です。サクラは花が咲いたときだけに目を向けがちですが、小さなサクランボや青々と茂った葉、春に向けて膨らんだ花芽など、その他の季節にも命の営みがあります。また、サクラの枝や葉には、アリやセミ、毛虫が隠れています。じっくりと子供たちと探してみてください。春先だけでなく、四季を通して楽しめる絵本です。

乗り物

78	かじだ、しゅつどう 山本忠敬 さく	福音館書店	1991
		★	



火事です。はしご車、救急車、ポンプ車、レスキュー車、スノーケル車。消火に活躍する車が、サイレンを鳴らして飛び出していきます。ポンプ車のホースを消火栓につないで、放水開始。6階に逃げ遅れた子供を発見すると、レスキュー隊員がはしご車のリフトでのぼり、救出します。怪我人は救急車が病院へ運びます。火が消えると、車は消防署に帰り、きれいに掃除されて、次の出動に備えます。

消防隊の一員となって働いているような感覚になる、迫力のある絵です。消防自動車の好きな子供はもちろん、車に興味のない子供でも、緊張感のみなざる現場に関心を持ちます。消防署の仕事への理解も進むでしょう。

表紙と裏表紙が一つの絵になっているので、読み終わったら本を広げて見せてください。『しょうぼうじどうしゃじぶた』(→p.39)と併せて楽しむこともできます。

知的 小学部 2年生

救急車が登場すると、数人が「ピポーピポー」とサイレンの真似をしました。消火が完了すると、「しょうぼうじどうしゃ ごくろうさん。」と読み手の後に続いて読み、「消えちゃった」「怖かった」などと盛んに話していました。

知的 小学部 3年生

絵本のサイズが小さめなので、一つの場面を読み終えるたびに児童たちの前に絵本を持っていき、絵を見せて回りました。児童たちは、レスキュー隊員が子供を助けに行く場面で息をのみ、無事救出されると、体を動かして喜びました。笑顔で「よっしゃあ」と言う児童もいます。最後の場面を持って回ると、ある児童は絵本を手に取り離しませんでした。



新幹線の運転席に機械類が並んでいます。機械や計器には「②電圧計」などと細かく名称が付けられ、下段でその役割が説明されています。次のページには、運転方法がイラストで紹介されているほか、乗務員手帳などの仕事道具や、制服を着た運転手の写真があります。他にも、電車、路線バス、はしご車、ショベルカー、帆船、潜水調査船、ドクターヘリ、飛行機、スペースシャトルが登場します。

乗り物の運転席を、33cm×50cmの大きな写真で紹介しています。眺めていると運転席に座っているような気分になる、臨場感のある1冊です。道具や運転手が写真で紹介されている点も魅力で、その仕事を理解する糸口にもなります。

各項目が独立しているので、子供が好きな乗り物から楽しむことができます。運転席の機械や、運転手の道具を指しながら、ゆっくりと分かりやすく紹介します。スペースシャトルを紹介するときは、ロケットの仲間であること、現在は運用終了していることを言い添えると良いでしょう。運転席の場面では、左上にある乗り物名を紙などで隠し、クイズ形式にして楽しむこともできます。

表紙の見返しには、イラストを使った目次があります。好きな乗り物を選び、ページ数を見て、該当の場所を開く体験ができます。裏表紙の見返しには、登場した乗り物の写真と名前、大きさ、最高速度等が書かれているので、本の内容を振り返る際にも使えます。

ショベルカーのページを見せてから、絵本『ざっくん！ショベルカー』（→p.39）を読むなど、創作物語絵本への導入として使うこともできます。

続編に『大きな運転席図鑑ぷらす 運転手はきみだ！』（Gakken 2012年）があります。続編では、タクシー、救急車、ブルドーザ、白バイ、パトカー、蒸気機関車、電気機関車、レスキューヘリ、クルーズ客船、月面車、フォーミュラカーを取り上げています。

知的 小学部 高学年

幾つかの運転席をクイズ形式で読みました。毎ページ、同じ児童がすぐに答えを言いましたが、他の児童も熱心に答えを見付けてくれました。各自の前に絵本を持っていくと、児童たちは運転手のようにモニターやボタンに触れたがりました。

知的 小学部 5年生

帆船の場面を見せて回ると、児童たちは操舵輪に興味を示しました。そこで次のページで操舵輪の説明をすると、皆集中して聞いていました。スペースシャトルの場面では、宇宙でマジックテープを使うことに驚く児童がいたので、詳しく説明しました。

知的 中学部 3年生

生徒たちは、写真を夢中で見ていました。運転席の写真だけでなく、運転方法等も見せると、喜びました。スペースシャトルの場面で発射のカウントダウンをすると、ある生徒が「ドカーン」と言い、宇宙に飛び立つ様子を表現してくれました。



雪の降る日、はるかとお父さんは、新青森駅で「はやぶさ」に乗車しました。新幹線を使い継いで、鹿児島のおじいちゃんとおばあちゃんに会いに行くのです。八甲田トンネルを抜け、東北の山々を通り過ぎ、東京駅で「のぞみ」に乗り換えます。富士山、琵琶湖の近くを通過し、新大阪駅で「さくら」に乗ります。関門トンネルを抜けて、桜が舞う鹿児島中央駅に着きました。

新青森駅から鹿児島中央駅まで、新幹線の旅をした気分が味わえる絵本です。大きな見開きを上中下の3段に分けて、旅の様子を描いています。上段は空から見た日本の絵地図、中段は新幹線の路線図、下段ははるかたちが座っている新幹線の座席です。東京駅や新大阪駅のホームには、複数の新幹線が停車しています。乗り物好きの子供に喜ばれるでしょう。

絵地図には、はるかたちが乗車している新幹線、駅の他に、地域の名所が描き込まれています。東京近辺では、東京スカイツリー、成田国際空港、筑波山などがあります。子供と一緒に地図を眺めて、自由に話すのも楽しいでしょう。日本の地理を知ることにもつながります。

知的 中学部 1年生

乗っている新幹線と到着駅の名前を伝えながらページをめくり、新幹線の旅を楽しんでもらいました。東京駅に着くと、生徒たちから「あ、はやてだ！」という声が上がりました。

仕事



午前3時30分、三鷹車掌区で眠っていた中央線の車掌さんは、自動起床装置で目を覚まします。始発電車の車掌の仕事をするのです。指差し点呼で安全を確かめ、乗客の乗車終了を確認、ドアを閉めたら出発です。出発後も、緊急停止の合図や忘れ物の探索など、小さなハプニングを一つずつ解決していきます。午前6時1分、折り返し電車が三鷹駅に到着すると、車掌さんは休憩室で朝ごはんを食べます。

始発電車の車掌さんの仕事を紹介する絵本です。電車好きの子供に喜ばれるでしょう。見返しには、東京駅から高尾駅までの路線図があります。東京の子供たちにすすめたい1冊です。

本文には、「やまなかさんが アラームを セットした じこくは ごぜん 6じ40ぷんです。」のように車掌さんの動作が具体的に書かれています。文章の隣には時計が登場するので、現在時刻も分かります。長年、三鷹車掌区中央線の車掌として勤務してきた著者ならではの正確な内容です。駅で見る車掌さんの行動にどのような意味があるのかも分かります。

見開きに複数の場面が描かれているので、該当の絵を指しながら読むと理解を助けます。文章量が多いので、かいつまんで読んでも良いでしょう。

知的 中学部 2年生

表紙を見るなり「中央線ですね！」という生徒もおり、興味を持って聞いてくれました。空の色や時計の絵を見て、「夜だ」「明け方だ」などと時間の流れに関心を持つ生徒もいます。

東京駅まで進んでいく途中で集中力が切れてしまった生徒もいましたが、東京駅で電車が折り返した後は、とても集中して聞いてくれました。

82

おしごと制服図鑑 制服をみれば仕事のひみつがわかる！

講談社 編

講談社

2012

★★

?



プロフェッショナルの仕事を、制服や持ち物等を通して紹介しています。消防士（ポンプ隊）のページには、消火活動用の防火衣と、普段の制服である執務服が載っています。制服の各所に名称がつけられ、防火衣の内ポケットなら「氷の入ったふくろを入れて、熱から体を守る。」のように、説明が添えられています。また、出勤時の着替え方が写真付きで紹介されています。

制服という切り口で、子供たちに人気の仕事を紹介している図鑑です。機能性や安全性を重視したもの、顧客からの印象を考えたものなど、仕事内容によって制服のデザインや作りが異なることが分かります。制服の他にも、制服を着て働く姿や仕事道具の写真もあり、その仕事に対する理解を深めることができます。

客室乗務員、パイロット、新幹線の運転士、サッカー選手、宇宙飛行士、看護師、医師、消防士、警察官、海上保安官、ホテルのスタッフ、料理人、デパートの販売員、飼育員、神職・巫女、宮大工、東京ディズニーリゾートのキャスト、東京スカイツリーのスタッフなど、72種類の仕事と制服が登場します。

職業名を書いた部分を隠しながら、「何の仕事の制服でしょう？」とクイズ形式にして楽しむのも良いでしょう。東京スカイツリースタッフの制服など、2012年の出版当時からデザインが変わったものもあります。紹介するときは注意しましょう。

知的 中学部

クイズ形式で読むと、生徒たちは手を挙げて積極的に答えました。クイズの合間に、制服デザインの地域差が分かる「客室乗務員の制服集まれ！」「鉄道運転士の制服集まれ！」のページを見せると、喜ばれました。

知的 中学部 3年生

多くの生徒が、消防士（ポンプ隊）の制服に関心を寄せました。特に、消防士が防火衣に着替える場面に興味を持っていました。



見開きには、厨房を遠写した写真や、調理器具の写真が並んでいます。道具や材料には細かく名前が示され、働くシェフの姿も写り込んでいます。次のページでは、厨房で作られたごちそうの写真や、作り方の紹介があります。洋食レストラン、ケーキ屋、ラーメン屋、とんかつ屋、ピザレストラン、ハンバーガーショップ、ステーキハウス、パン屋、回転寿司、ファミリーレストランの厨房が登場します。

お店の厨房を写真で紹介しています。ごちそうがたくさん登場するので、食べ物が好きな子供に喜ばれます。

厨房の場面でお店の名前を隠し、クイズ形式にして楽しむこともできます。次のページの厨房で作られたごちそうや作り方の写真を併せて紹介すると、食べ物への興味が更に増すでしょう。各店のこだわりを取り上げたコーナーもありますから、飲食に関わる仕事に興味がある子供に読むと、仕事への関心が一歩進むでしょう。

知的 中学部 2年生

目次でどの厨房を見たいか聞くと、「とんかつ屋さん」と言う生徒がいました。そこで、とんかつ屋の厨房の写真を見せると、皆食い入るように見えています。自分でページをめくり、ごちそうを見たがる生徒もいました。回転寿司屋の場面で機械の役割を説明すると、皆が驚きました。次のページでお寿司が並んでいるところを見せると、皆自分が食べたいものを指しました。

知的 高等部

最初に洋食レストランの厨房を見せて回り、後はクイズ形式にしました。パン屋と回転寿司屋を出題すると、生徒たちはすぐに正解が分かった様子だったので、「せーの」で答えてもらいました。本を見せて回っていると、この本を気に入った生徒が本を手に取り離さなくなりました。



北海道中標津町の酪農家、三友盛行さんの一年間の仕事を写真で紹介しています。毎日の餌やりや乳絞り、掃除、牛が食べる牧草・乾草作り、牛の健康管理、牛飼いを目指す若者の育成、チーズ作り、牧場整備。こうして働いて蓄えた薪や食料で、冬を過ごします。牧場では、毎年子牛が生まれます。母牛のお産を手伝うこと、生まれた子牛たちを再び育て上げることも、牛飼いの仕事です。

休みなく働く牛飼いの仕事が、具体的に描かれています。三友さんが牛飼いになった理由や酪農への思いも描かれ、仕事の厳しさだけでなく、楽しさも感じることができます。広々とした牧草地をゆったりと歩む牛の姿など、印象に残る写真も魅力です。

文章は、「根釧台地の原野を自分の手で開墾し、いまの牧場をつくりあげてきた。」のように少し硬質です。子供の状態に応じて、写真を見せながらかみ砕いて説明しても良いです。動物や食べ物に関心がある子供は、酪農家の仕事に興味を湧くでしょう。

知的 中学部 2年生

三友さんが五十年牛飼いをしていること、牛の数を10頭から60頭に増やしたことを伝えると、「長い」「すごい」という感想がありました。生徒たちが、この本の中で一番驚いたことは、牛が一日に50kgの草を食べ、20ℓの乳を出す、ということでした。生徒の中に乳絞り経験者がいたため、「乳をしぼる」のページを開き、牛を安心させて乳を絞る方法を説明すると、興味深そうに聞いています。「その方（安心させて絞ること）がおいしいのかも」と言う生徒もいました。「チーズをつくる」の場面を開き、チーズは一つ10kg以上ある、と説明すると、近くで見たがる生徒が多かったため、見せて回りました。「子牛が生まれた」を開き、お産の手伝い方を説明すると、多くの生徒が真剣な表情になりました。生まれた子牛の写真を掲載されている場面を持って回ると「ぬれてる」「小さい」などの声が上がりました。

85

ただいまお仕事中 大きくなったらどんな仕事をしてみたい？

おちとよこ 文 秋山とも子 絵

978-4-8340-1616-1

福音館書店

1999

★★



見開き右側に働く人のイラストと小学生によるインタビュー、左側に仕事内容。この構成で、28の仕事を紹介しています。看護師なら、見開きの右側上段に赤ちゃんを抱き上げるイラスト、下段に「注射をするのはこわくないですか」などの質問に対する回答があります。左側には、「うちあわせ（もうしおくり）」「びょうじょうかんさつ」「しどう」など、仕事内容が絵入りで説明されています。

制作にあたって、実際にその仕事に就いている人に取材をしています。見開き右側のイラストには、働く人のコメントが吹き出しで添えられています。花屋のページは「見た目はきれいでもけっこうきつい…。お店に花をならべるまでに、だいじな仕事がいっぱいあるのよ。」など、率直な意見が興味深いです。

取り上げられているのは、おもちゃ屋、花屋、コック、ケーキ屋、美容師、医師、看護婦（看護師）、救急隊員、車掌、土木技術者、社長、会社員、刑事、歌手、アナウンサー、舞台監督、モデル、ファッションデザイナー、動物園の飼育係、プロサッカー選手、保母（保育士）、漫画家、大工、図書館司書、船長、農業、漁業、小学校教師です。興味のある職業から見ていくと良いでしょう。挿絵付きの目次があり、そこから仕事を選べます。

知的 中学部

車掌の場面で、「小田急電鉄の車掌さんです」と伝えると、電車好きらしく、興味を持つ生徒がいました。

86	じゃぐちをあけると しんぐうすすむ さく	978-4-8340-2401-2	福音館書店	2009
			★	



蛇口を開けると水が出ます。手で触ると「チュッ!」、たたくと「パシャー
ン!」と音がします。手を輪の形にすると、滝のトンネルができます。蛇
口の水にコップを当てると、滑り台や風船。スプーンを当てると、宇宙船
や丸い屋根のような形ができます。フライパンに水をためると、海になり
ました。フライパンの海に滴が落ちると、輪が広がります。最後は蛇口を
閉めて、「はいおしまい」。

水道の水を画面の中心に置き、流れる水の形の変化を描いた楽しい絵本です。蛇口から絶える
ことなく流れる水は、子供にとっては不思議で、引き付けられるものでしょう。絵本を見ていると、
思わず手を伸ばして、水に触れたいくなります。

蛇口がハンドル式です。日常的にレバー式を使う子供には、使い方を説明しても良いでしょう。
蛇口を開ける動作、水を手でたたく動作など、絵本と同じようなジェスチャーを入れて読むと、
一層興味を引きまます。実体験で確認して、再び本を読むなど、広がりのある読書も楽しめます。

肢体不自由 小学部 低学年

「蛇口は、皆さんが知っているのとは違うかな?」と聞くと、ある児童が「公園にあるやつだ」
と言いました。「みずがでる」の場面では感心した様子で「(絵が)本物みたい」と言う児童が
いました。「チュッ!」のページを一人一人に見せると、人差し指を絵本の水に近づける児童が
いました。その児童は、「パシャーン!」の場面でも、笑顔で水を触ろうとしました。他にも、コップ
の場面で水を飲む仕草をする児童、丸い屋根の場面で「本当だ」と言う児童がいました。

87	しろいかみのサーカス たにうちつねお さく いちかわかつひろ しゃしん	978-4-8340-2395-4	福音館書店	2009
			★★	



白い紙があります。1回折ると、紙が立つようになりました。折つ
た紙を幾つも重ねると、家ができます。互い違いに切り込みを入れて
引っ張ると、「びよーん」と伸びます。筒状に丸めて立たせると、石
が載ります。紙は力持ちです。蛇腹に折り、指で押さえて放すと、
「ぴよーん」と飛びます。紙の上部を垂直に破き、水平に丸めると、
お日様の出来上がりです。

白い紙を折ったり、切ったりすることで、1枚の紙に変化が起きます。丸めた紙の上に、大き
い石が載っている写真に驚かされます。読み終わると、実際に自分も作ってみたいと思うでしょう。

「かみをおる いちにさん」「かみがたった みんなどこいくの」など、シンプルで呼び掛けるよ
うな文章です。それぞれの文章を繰り返し、一人一人にじっくり見せながら読んでも良いでしょう。

読み終わった後、実際に紙を折り、表紙と同じ家を建てたことがあります。とても喜ばれました。

知的 中学部 重度

本を読み終わってから、本と同じ形の工作を画用紙で作って見せました。読み手が工作する間、もう一人の読み手が、隣で該当ページを開いて見せるようにしました。生徒たちは、読み手が紙を折る様子をじっと見つめていました。

知的 中学部 3年生

表紙と同じ家の形を作ると、身を乗り出して工作の様子を見ていた生徒が、「上に載せて（もっと家を高くして）」と話し掛けてきました。すると、他の生徒も工作に興味を示してくれました。

88	やさいでぺったん よしだきみまる さく	978-4-8340-1211-8	福音館書店	1993
			★★	



お母さんがカレーライスを作っていると、足元に落ちたタマネギの切れ端をスタンプにして、子供たちが遊び始めました。ニンジンやジャガイモの皮に絵の具を塗って紙に押し、面白い模様や絵ができます。お父さんがサラダを作り始めると、ピーマンやセロリ、パイナップルの切れ端ができました。家族全員でのスタンプ遊びが終わったら、全員で夕食のカレーとサラダをいただきます。

お話仕立てで、野菜のスタンプ遊びを紹介しています。最後に遊び方の紹介ページがあり、実際に遊んでみることもできます。

実物の野菜のスタンプで作った絵を見せると、子供の興味を引くでしょう。



世界を知る

89	おかしなゆきふしぎなこおり 片平孝 写真・文	978-4-591-13124-4	ポプラ社	2012
			★★	



夜の中に雪が降り積もりました。岩の上では大福、ポストの上ではコック帽のようです。高い山では、アイスモンスターと呼ばれる奇妙な形の樹氷が育ちます。どの雪も、おかしな形をしています。氷の形も不思議です。凍った池には花のような模様が現れ、水しぶきが凍るとシャンデリアのようになります。雪や氷は水の仲間。冷たい空気が、水を色々な形に作り変えるのです。

雪や氷が作り出す不思議な形を、簡潔な言葉と迫力ある写真で説明した絵本です。東京ではなかなか体験できない、雪国の自然現象の美しさをじっくり見せてあげましょう。冬に読めば、季節を実感できます。

知的 中学部

屋根を覆う雪を「キノコ」、木に巻き付いたように見える雪を「アイスクリーム」などと言う生徒がおり、聞き手とのやり取りを楽しみながら読みました。

知的 中学部

表紙を見せると、生徒たちは驚きの声を上げました。雪が積もった赤い実の写真を見て、「実が大変ですね」と言ったり、木に積もった雪を見て、「ボクシングのグローブ」とつぶやいたり、皆、想像力を発揮してくれます。アイスモンスターの写真には「わあ」と声が上がりました。気になった写真があると、「もっとよく見せてください」と言う生徒もいました。

知的 高等部

見た目が面白い雪や氷を選んで紹介しました。各自の前へ持っていくと、顔を覆って「怖い」と言いつつ絵本をちらちら見る生徒や、うずたかく積もった雪を指して「富士山」を連想する生徒がいました。生徒たちは、アイスモンスターの場面で特に驚いていました。

90 おばあちゃんにおみやげを アフリカの数のお話

イフェオマ・オニェフル 作・写真 さくまゆみこ 訳

偕成社

2000

★★



ナイジェリアの男子、エメカは、一人でおばあちゃんの家遊びに行きます。道中、友達や女の人に出会います。それから、ほうき、子供の帽子、首飾り、楽器、水がめ、臼ときねを見付けました。エメカはどれかをお土産にしたいと考えますが、お金がないので買えません。おばあちゃんの家に着くと、10人のいここに迎えられます。おばあちゃんは、エメカが一番のお土産だ、と喜んでくれました。

アフリカの工芸品や人々の明るい笑顔を捉えた写真絵本です。エメカが会う人や物を通して、アフリカで暮らす人々の生活の一端を知ることができます。民族衣装などの色彩やデザインに日本との違いを見出し、ほうきや水がめなどに日本のものとの共通点があることに気付きます。また、副書名に「アフリカの数のお話」とあるように、人や物が1から10まで増えていく数の本でもあります。それぞれのページには、アラビア数字と漢数字、数字の読み方が書かれています。

小学部の児童には数の本として、中学部や高等部の生徒には世界を知る1冊として、活用できます。

91 世界のだっことおんぶの絵本 だっこされて育つ赤ちゃんの一日

エメリー・バーナード 文 ドゥルガ・バーナード 絵 仁志田博司、園田正世 監訳 978-4-8404-1835-5

メディカ出版

2006

★★

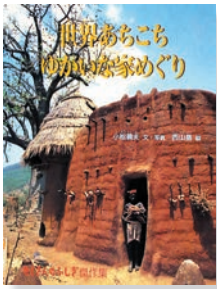


赤ちゃんはだっこやおんぶが大好きです。赤ちゃんは、グアテマラでは大人が体に巻いた布の中に、カナダの北では上着のフードの中にいます。バリ島、中央アフリカの熱帯雨林、サハラ砂漠、西アフリカの草原、タイ、アマゾン、ネパール、パプアニューギニア、アンデス山脈。世界中どこでも、赤ちゃんは一日中家族に寄り添われ、大切に運ばれながら、自分が住む世界のことを知っていきます。

世界の11の民族の、赤ちゃんのだっこやおんぶの仕方を紹介しています。素朴で温かみのある絵が、のどかな家族の様子をよく表しています。世界各地の家族の暮らしぶりも知ることができます。グアテマラではトウモロコシの粉で作ったトルティーヤを焼き、中央アフリカの熱帯雨林では木に登ってミツバチの巣をとっています。

見返しに世界地図があり、本書で取り上げている人物がそれぞれの場所に描かれています。

92	世界あちこちゆかいな家めぐり 小松義夫 文・写真 西山晶 絵	978-4-8340-2073-1	福音館書店	2004
			★★	



見開きにモンゴルのゲルの写真。ページをめくると、ゲルの内部がイラストで描かれています。同じ構成で、中国の土楼、インドネシアの竹と草でできた家、インドの帽子をかぶったような家、ルーマニアの屋根に目があるような家、チュニジアにある穴の家、スペインの煙突で息をする家、トーゴの泥でできた家、セネガルにある逆さ屋根の家、ボリビアにあるドングリ形の家が紹介されます。

世界各地にあるユニークな家を紹介した写真絵本です。どの家もその土地の風土を生かして建てられており、思いもよらない暮らしぶりに驚きます。

家の外観を写した写真のページをめくると、家の内部がイラストで示されています。イラストには、家の中や周囲で立ち働く人々や、使用している道具、家具、一緒に暮らす動物等が描き込まれています。生活の様子がよく分かるので、絵を中心に見せながら紹介しても良いでしょう。

93	富士山にのぼる 増補版 石川直樹 著	978-4-7520-0933-7	アリス館	2020
			★★	



冬のある日、「ぼく」は富士山を登り始めました。日暮れが近くとテントを張り、食事を作ります。麓の樹海や洞穴のことを考えながら眠り、夜が明けると再び出発します。富士山は、夏は植物が生える溶岩の大地、冬は激しい風が吹く氷と雪の世界です。雪を踏みしめながら、「ぼく」は1歩1歩前に進みます。頂上に到着した「ぼく」は、これからも富士山に登ろう、と決意します。

7大陸の最高峰全てに登頂を果たした写真家による写真絵本です。雪が吹きすさぶ雄大な自然の中を進む、「ぼく」の息遣いが聞こえるような臨場感があります。

「ぼく」は、冬の富士山に登りながら、緑深い青木ヶ原や、赤黒い溶岩に覆われた夏の富士山に思いを巡らせます。山の中腹から麓へ、冬から夏へと場面が移り変わるので、子供たちの理解が難しそうなときは、冬の富士山の場面だけを読んでも良いでしょう。文章は、「心がぴりぴりしてくる」のように、抽象的な言い回しもあります。それらをやさしい言葉に言い換えて読むときは、雰囲気壊さないように気を付けましょう。巻末に「冬の富士山にのぼる ぼくの装備一式」のページがあり、著者が冬の富士登山で使う道具が写真付きで載っています。読み聞かせの後に紹介しても良いでしょう。障害の軽い中学部や高等部で喜ばれます。

増補版では、吉田の火祭りの話や新しい写真が追加されているほか、レイアウトが見直されています。

知的 中学部 1年生

青木ヶ原、洞穴、夏の富士山の場面は省略して読みました。生徒たちは集中して写真を見ており、特に「ごはんラーメン」に興味を持ったようでした。読み聞かせの後で、出版社の許可を得て作成した「冬の富士山にのぼる ぼくの装備一式」の拡大コピーを見せて、アイゼンやお菓子について説明しました。生徒たち一人一人の前に持っていくと、掲載されている道具の名前を声に出して読み上げてくれた生徒がいました。

4 わらべうた

都立多摩図書館では、特別支援学校のおはなし会に、わらべうたを取り入れてきました。

わらべうたを歌うと、知らない人との出会いに緊張していた子供が表情を和らげたり、絵本には興味を示さなかった子供が興味を示したりすること等がたびたびありました。小学部はもちろん、障害の重い中学部や高等部でも、わらべうたで歌い掛けると、子供たちは生き生きと応えてくれます。

(1) わらべうたとは

広義にはいろいろな歌が含まれますが、ここで扱うわらべうたは昔から伝承されてきた日本のわらべうたを指します。わらべうたは、暮らしの中で子供が遊ぶとき、又は大人が子供をあやしたり、寝かせたりするときに歌われてきました。ゆったりとしたリズムと狭い音域で歌うわらべうたは、子供にとっては、歌いやすく、また心地のよいものです。歌の意味は分からなくても、調子の良い言葉は心を浮き立たせます。

(2) わらべうたの楽しみ方

ア まずは楽しむことから

まず、大人が心を開いて楽しむことが大切です。大人がリラックスして歌い掛けると、子供もゆったりした気持ちになります。気に入った言葉を繰り返し声に出す子、歌に合わせて体を動かす子、うっとりとして歌を聞く子など、わらべうたの楽しみ方は一人一人違います。それぞれの子供の楽しみ方に寄り添いながら、皆で楽しむ雰囲気を作っていきます。

イ たっぷり繰り返す

都立多摩図書館のおはなし会では、同じわらべうたを何度か繰り返して歌います。繰り返すうちに、子供たちに少しずつ変化が現れます。見ているだけだった子が、手遊びに参加するようになる、あまり表情を動かさなかった子が、次第に笑顔になるなど、わらべうたを期待し、積極的に楽しむようになります。

ウ 様々な場面で、子供に合う遊び方で

わらべうたは、おはなし会の中で、挨拶するとき、気分転換したいとき、場を盛り上げたいときなど、いろいろな場面で楽しめます。遊び方も、聞く、歌う、体を動かす、お手玉やパペットを使う、など様々です。季節や場所、障害の状態などを踏まえてわらべうたを選び、どの子供も楽しめるように工夫して遊びましょう。

(3) 都立多摩図書館で歌っているわらべうた

都立多摩図書館が特別支援学校で歌っているわらべうたのうち、子供たちが喜んだものや、歌って手応えを感じたものを紹介します。

各わらべうたの右下に歌詞の出典を記載しています。遊び方は、出典と異なる場合があります。

ア おはなし会の挨拶の代わりに歌っているわらべうた

小学部では、始まりや終わりの挨拶の代わりにわらべうたを歌うことがあります。皆で楽しめるわらべうたを歌うことが合図になり、わらべうたや読み聞かせを楽しもうという気持ちが生まれます。

おちゃをのみにきてください

おちゃをのみにきてください はい こんにちは
いろいろおせわになりました はい さようなら



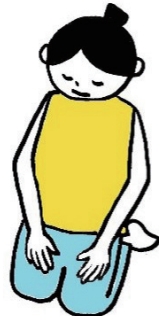
おちゃをのみにきて
くださいと歌い
ながら、手をたた
きます



はい こんにちは
で、頭を下げます



いろいろおせわに
なりましたと歌い
ながら、手をたた
きます



はい さようなら
で、頭を下げます

軽やかなリズムで、楽しい
雰囲気を作ることができるわ
らべうたです。

発声や発語がない子供も、
手をたたいたり、お辞儀をし
たりして参加することができます。

『いろいろおせわになりました わらべうたの「おちゃをのみにきてください」より』
やぎゅうげんいちろう さく 福音館書店 2008年

知的 小学部

読み手が「1回目は私が歌うからよく聞いてね」と言うと、児童たちはじっと聞いていました。2回目は、「手拍子をしたい人がいたら一緒にしてね」と言うと、ほとんどの児童が手拍子をしました。歌を聞いて笑顔になる児童、歌詞を覚えて一緒に歌おうとする児童もいました。

さよならあんころもち

さよならあんころもち またきなこ



あんころもちを丸める
ように手を動かしなが
ら歌います

「ゾウが食べる大きさ」「アリの食べる大
きさ」など、お餅の大きさを変えて歌っ
ても楽しめます。

大きなお餅は体全体で作る、小さなお餅
は人差し指の先で作る、など、大きさによっ
て仕草や声の出し方に変化を付けても楽し
いでしょう。

『にほんのわらべうた 2』福音館書店 2001年

知的 小学部 5年生

「ぎっちょぎっちょ」(→p.75)で遊んだ後で、ついたお米でお餅を作りましょう、と言って始めました。出来上がると、「食べていい?」と尋ねる児童や、一つ完成するごとに「もう〇個もできた!」と喜ぶ児童がいました。

イ 道具がなくても楽しめるわらべうた

あんたがたどこさ

あんたがたどこさ ひごさ ひごどこさ くまもとさ
 くまもとどこさ せんばさ せんばやまには たぬきがおってさ
 それをりょうしが てっぽうでうってさ にてさ やいてさ くてさ
 それをこのはで ちよいとかぶせ



両手で膝を
たたきます



「さ」で、
両手を打ちます



かぶせで、
頭に手をかぶせます

「さ」で両手を打つルールを加えると、子供たちは夢中になって遊びます。皆が慣れてきたら、歌うテンポを速くする、「さ」で膝をたたき、「さ」を「さっさ」と言い換えて2回手をたたくなど、遊び方を変えても楽しいでしょう。

障害の軽い中学部、高等部でも喜ばれます。

『乳幼児おはなし会とわらべうた』落合美知子 著 児童図書館研究会 2017年

知的 中学部 1年生

「さ」で手をたたき、それ以外は膝をたたき方法で遊びました。手だけたたいて楽しむ生徒もあり、読み手は「その遊び方も良いね」と声を掛けました。徐々にスピードを上げると、生徒たちは笑顔で夢中になって大きく手をたたきました。読み手が「そろそろおしまい」と言うと、皆が「もう1回」の大合唱。そのため、更にスピードを上げて歌いました。途中で「無理！」と叫んで手を止めた生徒は、手を止めてからもリズムに合わせて体を動かしていました。

うちのうらの

うちの うらの くらねこが おしろいつけて べにつけて
 ひとに みられて ちよいとかくす



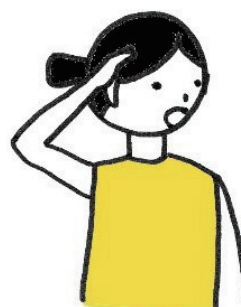
うちのうらのくらね
こがで、招き猫のよ
うに、両手を丸めて
上下に動かします



おしろいつけてで、
おしろいを両頬に
付けます



べにつけてで、紅
をさします



ひとにみられてで、
小手をかざして
左右を見ます



ちよいとかくすで、
両手で顔を覆い、
少し間をおいて、「ばあ」
と顔を出します

ゆっくり何度も歌います。始めは、「ばあ」のところだけ参加していても、繰り返すうちに、他のところも楽しめるようになります。

『乳幼児おはなし会とわらべうた』落合美知子 著 児童図書館研究会 2017年

ぎっちょぎっちょ

ぎっちょ ギっちょ こめつけ こめつけ



歌いながら、
両手で膝を
たたきます



最後に、ザーツ
と言いながら、
ついた米を広げ
る動作をします

単純な手遊びですが、少しずつ速くしたり、またゆっくりしたり、手拍子を入れたり、変化を楽しむことができます。速く歌うと気持ちも高揚し、歌い終えた満足感を得られます。小学部だけでなく、中学部や高等部でも驚くほど喜ばれます。

『にほんのわらべうた 1』福音館書店 2001年

知的 小学部 5年生

「ザーツ」の言葉と動作が好きな児童が多く、その部分を歌うときは皆良い表情をしていました。

知的 中学部 2年生

初めて歌うわらべうただったため、最初、生徒たちは不安そうにしていたのですが、何度か歌うと多くの生徒が参加して、にぎやかになりました。「もっと速く！」と張り切る生徒もいます。その後、「今ついたお米でおだんごを作ろう」と言って「さよならあんころもち」(→p.73)を歌うと、皆満足そうな表情になりました。

こどもかぜのこ

こども かぜのこ じじばば ひのこ



こども
かぜのこで
両手を交互に
前に突き出します



じじばば
ひのこで
両手を縮めて、
寒さに震えて
みせます

冬にぴったりのわらべうたです。動作が簡単で、リズムに合わせて楽しく体を動かすことができます。

わらべうたを通して、体を動かすことの気持ちよさを体験できます。

『にほんのわらべうた 1』福音館書店 2001年

知的 中学部 2年生

手遊びは行わず、歌を聞きながら参加している生徒も、スピードアップすると「速っ」、何度も繰り返すと「何回目!？」などと言い、わらべうたを楽しんでいました。

知的 中学部 2年生

「寒くなったので温まろう」と声を掛けて始めました。生徒たちは説明をよく聞き、読み手の動きを真似しました。思いきり手を動かす生徒、声に出して笑う生徒、笑顔で遊ぶ生徒など様々でした。

このここのこ

このこ どのこのこ かつちんこ

繰り返し、ゆったりと歌います。子供の両手を取って、軽く左右に振ったり、手拍子を打ったりしても良いでしょう。「かつちんこ」に、子供の名前を入れて歌うこともできます。子供の心が和らぐように、一人一人に丁寧に呼び掛けましょう。

『乳幼児おはなし会とわらべうた』落合美知子 著 児童図書館研究会 2017年

ウ 布を使って楽しめるわらべうた

うえからしたから

うえから したから おおかせ こい こい こい こい



子供の顔に触れるように、歌に合わせて布を上下に振ります

びゅ〜と言いながら、風で飛ばされたように布を動かします

子供たちは、布の感触に笑ったり、びっくりしたり。様々にわらべうたを味わいます。

始める前に、「大きい風と小さい風とどっちが良い？」と聞いて、子供の要望に沿って布を振ると良いでしょう。発語のない子供には「大きい風が行くよ」などと呼び掛けて、期待を持たせ、風を送ります。布の感触が気持ちいいのか、障害の重い子供に特に喜ばれます。

『にほんのわらべうた 1』福音館書店 2001年

肢体不自由 小学部 高学年 重度・重複

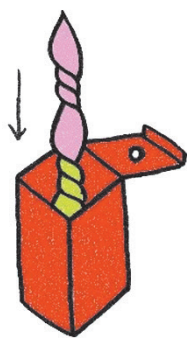
一人一人の前に行き、歌いながら風を送ると、どの児童も喜びました。風をよける児童、布に手を伸ばす児童、風が来ると首を動かす児童など、それぞれに楽しみました。

肢体不自由 中学部 1年生 重度・重複

グーにした右手は「大きい風」、パーにした左手は「小さい風」と言って、どちらがいいか尋ねると、生徒たちは手に触れたり、どちらかの手の方へ目を動かしたりして回答しました。わらべうたの後、ある生徒は読み手から布を取り、自分から読み手に向かって風を起こしてくれました。

カク、カク、カクレンボ

カク、カク、カクレンボ、チャワン ニ オタフク、スッペラポン！



シフォン布をねじり、ひとつなぎにして箱に入れます



カク、カク、カクレンボと言いながら、箱をたたきます



スッペラポン！で、布を抜き取ります

シフォン布が1枚ずつ出てくる箱（→p.116）を使って遊ぶこともあります。

わらべうたのリズムに合わせて布を引き、鮮やかな色の布が手に入ると、子供は喜びます。布を引くのが難しい子は大人が補助をするなど、どの子も達成感を味わえるよう工夫しましょう。

『わらべうたであそぼう 乳児のあそび・うた・ごろあわせ』（新訂）コダーイ芸術教育研究所 著 明治図書出版 1985年

知的 小学部 5年生

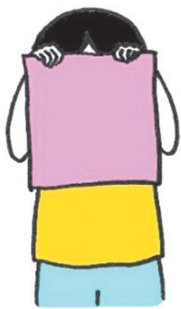
児童たちは、布を引き抜くとうれしそうな表情をしたり、出てきた布を見て目を輝かせたりしました。布を持つことができない児童には、読み手が「見るだけでも楽しいよ」と声を掛け、先生に代わりに引いてもらいました。

知的 小学部 6年生

千代紙で飾ってある箱を取り出すと、「宝箱だ！」という児童がおり、全体的に期待感が高まりました。読み手が箱から布を抜いて見せると、児童たちは「うわー！」と声を上げました。各自に布を引いてもらおうと、早く布を手にしたいのか、多くの児童が「スッペラポン！」を待たずに布を引き、うれしそうでした。布をつかむことはできても引き抜けない児童には、抜きやすいように読み手が助けると、その児童は取れた布を先生に見せて「白もらった」と喜びました。新しい布が顔を出すたびに、多くの児童が「青色だ」「きれい」などと布の色に注目していました。

ジー、ジー、バー

ジージーパー ジージーパー チリン、ポロン、ト トンデッター！



ジージーで、顔を布に隠します



バーで布から顔を出します。ここまですべてを何回か繰り返します



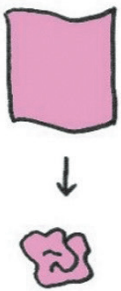
チリン、ポロン、ト トンデッター！と言いながら、布を飛ばします

「バー」で隠れている顔が出てくると、子供は喜びます。障害の重い子供から楽しめるわらべうたです。

『わらべうたであそぼう 乳児のあそび・うた・ごろあわせ』（新訂）コダワイ芸術教育研究所 著 明治図書出版 1985年

にぎり、ぱっちり

にぎり、ぱっちり、たてよこひよこ。(ピヨピヨ)



布を丸めて手で包みます



にぎり、ぱっちり、たてよこひよここと繰り返しながら、手を左右にひねります



最後に「ピヨピヨ」と言いながら手を開くと、ヒヨコが生まれるように布が広がります

「ひよこ」を別の動物に変えて歌っても楽しめます。子犬が「ワンワン」、カエルが「ケロケロ」など、子供の希望を聞いて、いろいろな動物を誕生させましょう。

「ヒヨコが生まれたよ」などと言いながら、広がった布を見せて回ると、興味を引きます。

『わらべうたであそぼう 乳児のあそび・うた・ごろあわせ』（新訂）コダワイ芸術教育研究所 著 明治図書出版 1985年

肢体不自由 小学部 低学年 重複

ネコが生まれると、ある児童が読み手に「生まれたばかり？」と聞きました。児童たち一人一人にネコに見立てた布を見せて回ると、にっこり笑って布をなでた児童もいました。

エ お手玉を使って楽しめるわらべうた

チュ、チュ、コッコ

チュチュコッコトマレ チュチュコッコトマレ トマラニャトンデケー！



チュチュコッコトマレと
繰り返し歌いながら、
お手玉を上下に動かします



トマラニャトンデケー！
で、お手玉をつかんで
上げます



お手玉をどこかに
止まらせます

鳥のイメージで歌います。
止まった時に目立つよう、きれいな色のお手玉を使うと効果的です。

布を使って遊ぶこともできます。「トンデケー！」で布を空中に飛ばすと、子供たちは、布が飛んでいく先に目を凝らしたり、布がひらひら落ちてくる様子を喜んだりします。

『わらべうたであそぼう 乳児のあそび・うた・ごろあわせ』（新訂）コダ―イ芸術教育研究所 著
明治図書出版 1985年

知的 小学部 1年生

各自に布を配り、「トンデケー！」で布を飛ばして遊びました。児童たちは皆楽しそうに参加しました。最初は布をうまく飛ばせなかった児童も、何回か繰り返すと、上手に飛ばせるようになりました。

もちっこやいて

もちっこやいて とっくらきゃして やいて しょうゆをつけて たべたら うまかろう



もちっこやいてで、
お手玉などを片手の
上で上下に振ります



とっくらきゃして
やいてで、お手玉を
ひっくり返して
上下に振ります



しょうゆをつけて
で手の平をお手玉
でなでるように動
かします



たべたらで
食べる仕草を
します



うまかろうで
頬を触ります

「しょうゆ」
の部分を変え
て、様々なお
餅の味を楽し
むことができます。

『にほんのわらべうた 1』福音館書店 2001年

知的 小学部 4年生

「お餅嫌いなんです」と悲しそうに言う児童がいましたが、何をお餅につけると良いか尋ねると、真っ先にあんこをリクエストしました。その後も、おいしそうに「うまかろう」と言ったり、オリジナルの歌い方を編み出したりと、わらべうたを満喫してくれました。

肢体不自由 中学部 1～2年生 重複

一人一人にお餅に何を付けたいか聞き、あんこやきなこ、大根おろし、みたらし、納豆などを付けて食べました。うれしそうに「うまかろう」の仕草をする生徒や、食べる動作の後も口から指を離さない生徒などがおり、皆じっくりとお餅を味わっている様子でした。

オ 指人形、パペットを使って楽しめるわらべうた

指人形やパペットには、子供の心をほぐす力があるのでしょうか。指人形やパペットを見せると、どの子どもとても良い表情をします。

指人形やパペットを使うときには、袋に入れて、「この中で、誰かさんが寝ているよ。皆で起こそう」などと呼び掛け、「ととけっこう」などのわらべうたを歌ってから登場させることもあります。

ととけっこう

ととけっこう よがあげた まめでっぼう おきてきな



指人形等が入っている袋を指して、指先を上下に振りながら歌います。

わらべうたを歌って、袋の中の指人形等を起こします。起きたら、子供たち一人一人に「こんにちは」と挨拶をして、コミュニケーションをとります。

絵本『ととけっこうよがあげた』（こばやしえみこ 案 ましませつこ 絵 こぐま社 2005年）につなげてみましょう。

『ととけっこうよがあげた』（わらべうたえほん）こばやしえみこ 案 ましませつこ 絵 こぐま社 2005年

肢体不自由 中学部 1年生 重度・重複

わらべうたを歌うと、生徒たちは手を前に出したり、身体を動かしたりしました。袋の中からクマのパペットを取り出し、一人一人に挨拶すると、「こんにちは」と丁寧に返事をする生徒や、そっと頭をなでる生徒、照れて顔を隠す生徒がいました。

知的 高等部 2年生 重度

袋を出すと、期待したように「何かな」と言う生徒がいました。半数ほどの生徒が、一緒にわらべうたを歌いました。起きたクマのパペットを、各自の前に持っていくと、それまで視線を合わせなかった生徒が、クマをたたいたり、つついたり、じっと見たりしていました。

くまさんくまさん

くまさんくまさん まわれみぎ くまさんくまさん りょうてをついて
くまさんくまさん かたあしあげて くまさんくまさん さようなら

子供ができる簡単な手振りにして楽しむ方法もあります。『おはなし会で楽しむ手ぶくろ人形』（保育と人形の会編著 児童図書館研究会 2021年）に、演じ方が写真で紹介されているので、参考になります。おはなし会の最後に使って、「さようなら」でおはなし会の終了を知らせても良いでしょう。

『にほんのわらべうた 2』福音館書店 2001年

知的 小学部

児童たちは、テンポに合わせて手を振ったり、足を打ったりしました。多くの児童が「さようなら」でクマに手を振り、クマが退場する時も名残惜しそうに手を振りました。

5 おはなし会のプログラム事例

(1) 重度・重複障害の子供向け

重度・重複障害の子供たちは、絵本を一人で楽しむことが難しく、読書経験が少ないことが考えられます。また、ストーリーを理解することが困難なこともあります。このような子供たちには、まず、「本を開くといろいろな楽しみに出会えるよ」と伝えられる絵本を選びます。食べ物、乗り物、動物など、子供たちの身近にあって、興味を持ちやすいテーマのものが良いでしょう。

どの絵本もゆっくりと読みます。言葉や文を繰り返し読んでも良いでしょう。

中学部や高等部になると、生活年齢（実年齢）に対して絵本が幼稚に感じられるため、選ぶのに悩みます。音やリズムを楽しめる絵本が良いと考えて、『カニツンツン』（➡p.11）を選んだ場合、「作者は世界中の言葉を集めてこの本を作りました」と、作成に関する話を一言付け加えて、生徒たちに紹介するなど、工夫をすると良いでしょう。

読み聞かせが終わった絵本は、表紙を見せて立てて置きます。おはなし会終了後、子供たちと一緒に読んだ絵本を1冊ずつ確認することができます。また、子供が読みたい絵本を手にとって見ることもできます。

●プログラム例

『くだもの』	平山和子さく	福音館書店
『カニツンツン』	金関寿夫ぶん	元永定正え 福音館書店
わらべうた「にぎり、ぱっちり」		
『サンドイッチサンドイッチ』	小西英子さく	福音館書店

●おはなし会の時間 20分程度

最初に読む『くだもの』（➡p.16）は、思わず手を伸ばしてしまうようなみずみずしい果物の絵が描かれた絵本です。一人一人の目の前に絵本を持っていき、語り掛けるように繰り返し読みます。参加者全員とやり取りを楽しみ、子供たちとコミュニケーションをとります。

次の『カニツンツン』（➡p.11）では、言葉の響きやリズムを全員で楽しみます。

読み聞かせの間にわらべうたを歌うと、気分転換にもなり効果的です。自分で体を動かさない子供も多いので、布の動きを見て楽しめる「にぎり、ぱっちり」（➡p.77）を歌います。きれいな色の布を一人一人の前で見せて、繰り返しゆっくりと行います。

最後に簡単なストーリーのある絵本を入れるのも良いでしょう。『サンドイッチサンドイッチ』（➡p.31）は、どのページも文章が短く、サンドイッチを作るだけのシンプルなストーリーです。一つの料理が出来上がる、という達成感を味わえます。他には、昔話の『おおきなかぶ ロシアの昔話』（➡p.46）を読み、カブが抜けた達成感を皆で楽しむのも良いでしょう。

(2) 小学部向け

教室の前方に歩いてきて、絵本を手を取ったり、少し不安げであったり、他のことに興味を持っていたり、読み聞かせをする前の子供たちの様子は様々です。けれども、おはなし会が終わると、多くの子供が読み手の近くに来て握手を求めたり、話し掛けてきたりします。このような感性豊かな子供たちの興味・関心に応えるために、様々なタイプの絵本を選びます。お話や絵本への理解力も子供によって違うので、このことにも気を付けます。

プログラムの中に1冊はストーリーのある絵本（創作物語絵本・昔話絵本）を入れて、お話の世界を体験させたいものです。選ぶ際には、動物好きな子供が多ければ、動物が主人公の絵本を、電車が好きな子供がいれば、電車が出てくる絵本というように、子供の興味・関心に寄り添って選ぶのも良いでしょう。

●プログラム例

わらべうた「おちゃをのみにきてください」

『ぱんだいすき』

征矢清ぶん ふくしまあきええ 福音館書店

『きんぎょがにげた』

五味太郎作 福音館書店

わらべうた「うちのうらの」

『ちいさなねこ』

石井桃子さく 横内襄え 福音館書店

●おはなし会の時間 20分程度

最初に「おちゃをのみにきてください」(➡p.73)を歌って、子供たちの気持ちをこちらに引き付けます。「こんにちは。これから、おはなし会が始まるよ」という合図です。

『ぱんだいすき』(➡p.25)は買い物の疑似体験と、好きなものを選ぶ、という楽しさを備えた絵本です。一人一人の前に絵本を持っていき、ゆっくり見せます。「(そのパン)好き」「(給食で)食べた」など声を掛けてくる子供もいます。同じ文章や構成が繰り返される絵本は、読み進めていくと、子供たちも「次は何か」と期待をしながら楽しみ、絵本への関心をかき立てられます。

クイズが好きな子供が多いので、問いと答えでやり取りができる絵本を楽しみます。『きんぎょがにげた』(➡p.16)は、逃げた金魚を絵の中から探します。

絵本の読み聞かせの間にわらべうた「うちのうらの」(➡p.74)を入れて気分転換をします。何度か繰り返して歌い、全員で体を動かしながら楽しめます。

わらべうたに関連した絵本を読むのも効果的です。ここでは、「うちのうらの」のわらべうたに続けて、『ちいさなねこ』(➡p.35)を入れました。「それでは、ネコが主人公の絵本を読みます」と紹介して、読み始めます。

(3) 中学部・高等部向け

小学部と同様に、本への親しみ、お話への理解度は様々です。子供たちの集中力を考えて、様々なタイプ、テーマの絵本を選びます。本によって、普段は体験したり、見たりすることのできない新しい世界への扉を、ぜひ開けてあげたいものです。

中学部や高等部でも、担当の先生と相談して、読み聞かせの途中に、わらべうたを入れることも可能です。「長い間日本の子供たちの中で伝えられてきた遊びを体験してみましよう」と前置きをするなど、生活年齢(実年齢)に配慮して紹介します。「ぎっちょぎっちょ」(➡p.75)は動作を工夫すれば、大変喜ばれます。

●プログラム例

『はらぺこあおむし』	エリック・カールさく もりひさしやく 偕成社
『あおむしくん』	七尾純文 久保秀一写真 偕成社
『世界のだっことおんぶの絵本』	だっこされて育つ赤ちゃんの一日』 エメリー・バーナード文 ドゥルガ・バーナード絵 仁志田博司、園田正世監訳 メディカ出版
『よるのねこ』	ダーロフ・イプカー文と絵 光吉夏弥訳 大日本図書

●おはなし会の時間 30分程度

読んだ絵本に関連付けて、次の絵本を紹介していく方法があります。おはなし会に一つの流れをつくり、子供の興味を引き付ける工夫です。

「最初に、皆さんもよく知っている本を読みます」と言って、『はらぺこあおむし』(➡p.36)を紹介します。長い間子供たちに親しまれ、よく知られた絵本で、子供たちの関心を引き付けます。

その次は、中学部や高等部らしく、もう少し事実を深められるように、アオムシの誕生からチョウへの羽化を写真で追った『あおむしくん』(➡p.58)を読みます。全ての文章を読まずに、ポイントを説明するだけでも良いでしょう。

虫の赤ちゃんの後は人間の赤ちゃん、ということで『世界のだっことおんぶの絵本』(➡p.70)を紹介します。

知識の絵本が2冊続いたので、最後にストーリーのある絵本を読みます。『よるのねこ』(➡p.45)は、『世界のだっことおんぶの絵本』の終わりに、「赤ちゃんは夜になると朝まで眠ると書かれていました。次は、赤ちゃんとは逆の、夜に歩き回るネコの話です」と紹介してから読みます。

昔話絵本もおすすめです。例えば、『世界のだっことおんぶの絵本』の見開きの世界地図を見せ、「世界中を回ったので、最後は日本の昔話を読みます」と、『ずいとんさん』(➡p.49)を読むのも良いでしょう。

コラム 中学部・高等部の生徒に読み聞かせをするときに考えていること

都立多摩図書館では、知的障害を持つ中学部・高等部の生徒に読み聞かせをする機会があります。学校との事前のやり取りでは、生徒は2～3歳児が読む絵本を楽しむという情報をもたらすことがあります。一方、実際の年齢に対応した本を選んでほしいという希望を受けることもあります。前者の場合は、いわゆる「赤ちゃん絵本」を中学部・高等部の生徒に読んで良いのだろうか、と悩み、後者の場合は、文章量の多い本や絵本を読みながら生徒の様子を見て、理解してもらえたのか、楽しんでくれたのか、と考えることがあります。

私たちは、おはなし会のプログラムを考えると、障害の重い生徒に対しては、以下のよな絵本を選ぶことがよくあります。

一つ目は知識を伝える絵本です。「知識の絵本」(→p.51～71)で紹介しているような絵本は、新しい世界を知ることができるからです。

また、知識の絵本でなくとも、知識を伝える要素がある絵本もあります。『カニツンツン』(→p.11)や『10ぱんだ』(→p.22)は、音や言葉のリズムを楽しんだり、繰り返しを楽しむ絵本ですが、『カニツンツン』を読む際に、作者が創った言葉と世界各地の言葉を組み合わせて作られた絵本であることも説明する、『10ぱんだ』は、巻末にあるパンダに関する情報も伝える等、読み聞かせにプラスαの要素を入れることも行います。

二つ目は、中学部・高等部の生徒でも楽しめる、絵が幼過ぎない絵本です。例えば、写実的な描写の絵本。『ちいさなねこ』(→p.35)や『しゅっぱつしんこう!』(→p.32)などがこれにあたります。また、デザイン性の強い絵の絵本も選びます。『きんぎょがにげた』(→p.16)、『これはおひさま』(→p.27)、『ねずみくんのチョコッキ』(→p.42)などです。

三つ目は、長く読み継がれてきた絵本です。このような絵本は生徒が小さい頃に読んだことがあるかもしれません。『ぐりとぐら』(→p.31)を読むときには、「これから懐かしい絵本を読みます」と前置きして読み聞かせをするなどしています。

中学部・高等部の生徒が対象のおはなし会プログラムを考えるときには、障害の重いクラスであっても、最初はわらべうた、手遊びは入れないようにしています。

このようにプログラムを考えて、学校に伝えます。選んだ絵本のタイプや内容と共に、乳幼児向けの絵本を選んだら、その絵本が乳幼児向けであることを伝えます。その後の学校との調整で、結果としてわらべうた・手遊びを入れるときもありますし、当初選んだ絵本を差し替えるなどしてプログラムを決めます。学校からの希望はできる限り受け入れるように努めています。

おはなし会では、プログラムに入れた絵本以外に、予備の絵本も必ず用意しておきます。生徒の皆さんの様子を見ながら、文章量の多い絵本を読んだ後に「ちょっと息抜きをしましょうか」と呼び掛けて、予備の『カニツンツン』を読む。乳幼児向けの絵本を何冊か読んだ後に「皆さん、とてもよく聞いてくれたので、こちらの本も読みます。知っている人も多いと思います」とストーリーのある『ぐりとぐら』を追加して読むことなどもありました。

おはなし会で、生徒たちに話し掛けるときは、幼稚な話し掛けはしません。生徒の年齢を踏まえた対応をしています。

このように、中学部・高等部の生徒への読み聞かせは、生徒たち全員が楽しめるよう試行錯誤しながら行っています。

Ⅲ 聴覚障害の子供たちへの読み聞かせ

都立多摩図書館では、ろう学校の小学部や幼稚部で、読み聞かせやブックトーク、科学遊びを行ってきました。その経験をもとに、聴覚障害の子供たちへの読み聞かせ等についてお伝えします。

1 聴覚障害の子供たちと本を楽しむ

聴覚障害の子供たちは、好奇心にあふれ、知りたいという意欲がとても高く感じられます。

子供たちは、絵からお話を読み取ることもとても上手です。絵本の読み聞かせやブックトークをすると、驚くほど集中して聞きます。

聴覚の障害であることから、子供たちは、難なく読書ができると思われることもありますが、音声としての日本語の習得が難しいことが、文章を理解する難しさにつながり、読書に苦手意識を持つ子供もいます（『多様なニーズによりそう学校図書館』野口武悟，児島陽子，入川加代子著 少年写真新聞社 2019年 (p.30) より）。そのため、読み手は手話や指文字、ジェスチャーを交えて絵本を読みます。子供たちは、知りたい気持ちが満たされ、理解することができると、喜びも大きくなります。友達同士で自分が発見したことを伝え合うなどして、本の楽しさを分かち合います。

聴覚障害の子供たちと本を楽しむときは、本選びやお話の伝え方に工夫が必要です。

2 絵本の読み聞かせ方

(1) 手話での読み聞かせ

私たちが子供たちに読み聞かせをするときは、読み手と本の持ち手の二人が息を合わせ、手話や指文字を使って行います。

読み手が主となり、文章を声に出してゆっくりと読みながら、手話や指文字、ジェスチャーなどを適切に組み合わせます。読むときは、口を大きく開け、はっきりと発音して子供たちをお話の世界へと案内します。必要に応じて絵本の絵を使って説明します。持ち手は、絵本を持つだけでなく、状況によっては絵を指したり、一人一人に見せて回ったりするなど、読み手と一体となって読み聞かせを行います。

子供たちは、読み手の手話や指文字を見ることと、絵を見ることを同時にはできません。まずは、絵本の絵を見せて、描かれているのがどのような場面なのかを分かってもらいます。子供たちが十分に絵を見たところで、読み手は子供たちとアイコンタクトをとりながら、身を乗り出す、手を絵本の前に出すなどして、子供たちの視線を集め、手話とともに声に出して読み始めます。読み終わったら、持ち手は再び同じ場面を見せて、今読んだことを確認してもらいます。子供たちが十分に見たところを見計らって、ページをめくります。読み手と持ち手で絵本を「見せる、読む、また見せる。そしてめくる」という流れを作るのです。

うまく読み聞かせの流れができると、聞き手、読み手、持ち手の間に一種のリズムができて、絵本の楽しさを共有する感覚が生まれます。

このようにして読むため、通常の読み聞かせより倍近く時間が掛かります。特に、物語がクライマックスを迎えると、つい先を急ぎたくなりますが、何より丁寧に読み進めることを心掛けます。

(2) 手話で読み聞かせをするときに気を付けていること

絵本の文章どおりに伝えようとするとうまく意味が分りにくくなるのは、手話で伝わりやすい言葉に言い換えたり、語順を変えたりします。思い切って分りにくい部分を省略して読むこともあります。原作の味わいやお話の魅力を損なわないように気を付けるとともに、その後、子供が一人読みをしたときの手助けとなるように表現を考えます。主語がない文章には、主語を必ず補うようにします。主語に該当する人物が描かれていたら、その人物を指してから、読み始めると、分りやすくなります。

また、幼い時から指文字を自由に使いこなす子供が多いので、お話のキーワードになる言葉や、固有名詞は多少難しくても最初に指文字を使います。例えば、絵本の中で「タマ」というネコが登場する場合、まず指文字で「タマ」と表現し、続けて手話で「ネコ」と表現します。その後「タマ」が登場する場面は手話の「ネコ」の表現のみで伝わります。

実際に手話で読み聞かせをすると、子供たちにとって、見慣れない表現であることもあります。そのときには、指文字を使ったり、文字に書いたりして伝えます。子供たちからその場で手話表現を聞くこともあります。

3 絵本

私たちの実践から、子供たちに喜ばれた絵本を紹介します。「知的障害・肢体不自由の子供たちへの読み聞かせ」(→p.9～83)で紹介した絵本は、あらすじを省略しています。

(1) 繰り返しのある絵本

幼稚部や知的障害との重複障害のある小学部のクラスでは、同じパターンが繰り返される絵本がおすすです。繰り返しのある絵本は、子供たちが先への予想ができ、期待どおりの展開に喜びながら、安心して聞くことができます。繰り返しのパターンを覚えた子供たちが読み手とともに手話をしながら、読み聞かせに参加できることも魅力の一つです。

	くまさんくまさんなにみてるの? (→p.23)	偕成社	1984
	エリック・カール え ビル・マーチン ぶん	978-4-03-201330-6	★

聴覚 幼稚部

「あかいとりをみているの」と手話で読んだ後、少し間を取り、幼児たちの期待を高めてからページをめくりました。期待どおり「あかいとり」が現れると、幼児たちは絵に注目しました。登場した動物たちが並ぶ場面では、全員で声と手話を合わせて読みました。読み終わると、皆、満足した様子でした。

聴覚 幼稚部 重度

わらべうた「くまさんくまさん」(→p.79)の後で読みました。表紙を見せると、幼児たちは手話で「クマ!」と繰り返しました。好きな動物が出てくるたびに喜んでいた幼児は、最後に登場した動物たちが並んだ場面を見て、うれしそうでした。



女の子が白いシャツを着て立っています。ページをめくると、赤い靴下をはいています。その後、女の子は黄色いブラウス、赤いスカート、黄色いリボン、黒い靴、青いオーバー、黄色いマフラー、緑色の帽子、赤い手袋を身に付けていきます。どのページも女の子が同じポーズで立っており、新しく着た服だけに色が付いていきます。真ん中と最後のページでは、全ての服に色が付いた女の子が立っています。

幼児がよく知っている色と身に着けるものを取り上げた、親しみやすい絵本です。

全ての服に色が付く場面では、女の子の絵を指しながら、「きいろいりぼん、きいろいぶらうす……」と子供たちと一緒に手話で読むことができます。

聴覚 幼稚部 重複

幼児たちも、読み手と一緒に手話をして絵本を楽しみました。他の本では最後まで見続けることが難しかった幼児も、生き生きと手話をしていました。



ウサギが空から落ちてきた白い布でワンピースを作りました。そのワンピースを着て花畑を散歩すると、ワンピースは花模様になりました。雨が降ると水玉、草が茂った場所では草の実、小鳥が飛んでくると小鳥、虹の中を飛ぶと虹の模様になりました。ワンピースが夕焼け模様になると、ウサギは眠くなります。夜、ウサギが寝ている間に、星が流れました。朝、ウサギが目を覚ますと、ワンピースは星の模様になっていました。

前半では、ウサギのワンピースの模様が変わるごとに、ウサギが「ラララン □□ロン ○○もようのワンピース わたしに にあうかしら」と言いながら歩いていく、という展開が繰り返され、子供たちは先を予測しながら聞きます。繰り返されるフレーズを手話で表現するときは、リズムを意識すると良いでしょう。

聴覚 幼稚部

ウサギのワンピースが星の模様になると、星模様のワンピースを着ていた幼児と周りの幼児たちが喜びました。その後、他の幼児たちも星の付いた靴下やシャツを見せ始め、にぎやかになりました。

聴覚 幼稚部 重度


ウサギのワンピースの模様が変わる場面を近くで見せると、楽しそうに「変だよ」と言う幼児や、雨の模様を「雷だ」と言う幼児がいました。「くさのみって とっても いいにおい」と読むと、幼児たちは本に鼻を付けて匂いを嗅いだりしました。読み終わってから、どの模様が気に入ったか尋ねると、皆が好きな模様を答えてくれました。

聴覚 幼稚部 重度

「わたしに にあうかしら」と手話で読むと、幼児たちは「似合う」「似合わない」と手話で答えました。虹の場面では、皆が驚き、喜びました。

(2) 創作物語絵本

子供たちは絵からお話を読み取ることが上手なので、絵からストーリーが読み取りやすい絵本を読むと、集中して聞きます。プログラムの中にこのような絵本を意識して取り入れると良いでしょう。

	ちいさなねこ (→p.35) 石井桃子 さく 横内襄 え	福音館書店 1967
	978-4-8340-0087-0	★

聴覚 幼稚部 重度

大きな犬が登場すると、「いけない」と言うように一人の幼児が前に出てきて絵本の犬をたたきました。子ネコが犬に追われる場面では、身を乗り出すようにして絵本を見る幼児がいました。

聴覚 幼稚部 重度

幼児たちは子ネコに興味を持ちました。自動車とぶつかりそうになる場面では、数人の幼児が目をつむり、「ひかれなくてよかった!」と読むと、皆安心した表情を見せました。大きな犬が登場すると、泣きそうになった幼児もいました。

聴覚 幼稚部 重度

幼児たちは絵をよく読み取り、子ネコに感情移入をしているようでした。特に、自動車や犬が登場した場面では、真剣な表情を浮かべていました。犬が出ている場面では、「犬」とうれしそうに手話で繰り返す幼児がいました。

96	はじめてのおつかい 筒井頼子 さく 林明子 え	福音館書店 1977
	978-4-8340-0525-7	★★ 大型



5歳のみいちゃんは、ママに頼まれて、初めて一人で牛乳を買いに行きます。自転車を避けたり、友達に会ったり、坂道で転んでお金を落としたりしながら、やっとお店に着きましたが、お店の人はみいちゃんに気が付きません。大人のお客に先を越されてしまいます。みいちゃんは大声で呼び掛けて牛乳を買いますが、お釣りをもらいそびれます。坂の下に戻ると、赤ちゃんを抱いたママが待っていました。

お使いという日常生活の中での冒険だからでしょうか。子供たちは、とても興味を持って聞きます。

みいちゃんがお店に歩いていく過程がしっかりと描き込まれているので、一場面ごとの展開を丁寧に伝えていきます。あるおはなし会では、100円玉が転がる場面で、読み手が転んでお金を探すジェスチャーをしました。すると、子供たちは絵の中の草の影に隠れたお金に気づき、先を競ってお金を指しました。

97

ハンダのびっくりプレゼント

アイリーン・ブラウン 作 福本友美子 訳

光村教育図書

2006

★★



ハンダは、お土産の果物を七つかごに入れて、友達の家に出掛けました。ハンダが気が付かないうちに、サルがバナナを、ダチョウがグアバを、シマウマがオレンジを、ゾウがマンゴーを、キリンがパイナップルを、アンテロープがアボカドを、オウムがパッションフルーツを取ってしまいます。しかし、木からミカンが落ちてきて、偶然かごに入ります。友達の家に着くと、友達は何物のミカンにびっくり。ハンダはもっとびっくりします。

文章は動物たちの行動には触れていません。絵のみで、動物たちが引き起こす事態を物語っています。

グアバなど聞き慣れない果物が出てきます。子供たちは好奇心旺盛なので、知らない果物の名前を指文字でしっかり伝えると、自分でも真似してみながら、興味を持って聞きます。特に小学部低学年では、ミカンが落ちてくる場面は、その様子がよく分かるように、じっくり見せると良いでしょう。

聴覚 小学部 1年生 重度

自分自身がお話の中に入っているのでしょうか。動物がハンダのかごから果物を取っていることに気が付いた児童が、「取られてる！」と声を上げていました。

聴覚 小学部 5～6年生 重度

「どうしてハンダは気が付かないのだろう。かごが軽くなるのに」と疑問を言う児童がいました。

聴覚 小学部 6年生 重複

皆絵をよく見ており、ミカンが落ちてきてかごに入ると、多くの児童がおかしそうな表情をしました。「(その日のおはなし会で)読んだ本の中でハンダが一番良かった」と言う児童もいました。

98

ひとまねこざるときいろいぼうし

H.A.レイ 文、絵 光吉夏弥 訳

岩波書店

1983

978-4-00-110921-4

★★



アフリカに住む子ザルのじょーじは、知りたがりです。じょーじは黄色い帽子のおじさんと船に乗ります。船では、カモメのように飛ぼうとして海に落ちますが、無事におじさんの家に着きました。じょーじはおじさんが動物園に電話をするのを真似て消防車を呼び、ろうやに入れられます。脱走したじょーじは風船で空を飛び、信号機の上に降ります。じょーじは黄色い帽子のおじさんに助けをもらい、おじさんと一緒に動物園に出掛けます。

「じょーじ」を表現するときは、初めに、「じょーじ」という指文字と、「サル」の手話で表します。その後は「サル」の手話のみで表現していきます。

長い話なので、子供の状態等によって、ストーリーをかいつまんで読んでも楽しめます。

聴覚 小学部 4年生

本を見せると、「きいろいぼうし」と繰り返す児童がいました。じょーじが飛ぼうとする場面で一緒に飛ぶ仕草をする児童や、じょーじが海に落ちた場面ではじょーじと同様に水を吐き出す仕草をする児童がいました。児童たちは、主人公と一体化して楽しんでくれました。

聴覚 小学部 6年生

本を見せると歓声が上がりました。じょーじが水を吐き出す場面や、消防署に電話を掛けて捕まる場面では、皆笑っていました。この本を知っている児童は、次の展開を隣の児童に伝えていました。

99

よかったねネッドくん 改訂版

レミー・シャーリップ さく やぎたよしこ やく

978-4-03-201430-3

偕成社

1997

★★

大型



「びっくりパーティー」に招待されたネッドくんは、友達に借りた飛行機で会場に向かいます。飛行機が爆発したので脱出すると、パラシュートには穴が開いていました。ネッドくんが落ちた先はサメだらけの水です。ネッドくんは泳いで逃げますが、岸にはトラがいました。洞穴に飛び込み、トンネルを掘って進むと、「びっくりパーティー」の会場に着きました。「びっくりパーティー」は、ネッドくんの誕生会でした。

次々に災難に遭うネッドくんですが、そのたびに幸運にも危機を乗り越えます。「よかった！」で始まるカラーのページと「でも、たいへん！」で始まる白黒のページが交互に現れます。

干し草の山に突き刺さった草かきは、絵も小さいので、集団の子供たちへの読み聞かせでは、指で差すと分かりやすいでしょう。

聴覚 小学部 高学年

児童たちは、ネッドくんの身に何か起こるたびに驚き、笑いました。災難と幸運が交互に訪れることにも気づき、次に何が起こるかを期待している様子でした。

聴覚 小学部 4年生

児童たちはリラックスして楽しんでいる様子でした。「かけっこ はやくって」の場面では「チーターより速いかも」と手話で話す児童がいました。会場に着いた場面を見るなり、「ここが会場？」と気付いた児童もいました。

聴覚 小学部 6年生

児童たちは挿絵に引き付けられたようでした。飛行機が爆発する場面では、爆発の動きを繰り返す児童や、残念そうに「飛行機が壊れた」と言う児童がいました。ある児童は、サメやトラが登場する場面では、驚いた表情で「サメ！」「トラ！」と手話をしていました。



ある日、ぼうやは、輪ゴムがどのくらい伸びるか試すことにしました。輪ゴムをベッドの枠に引っ掛けて、端を持ったまま外に出ていきます。ぼうやは自転車、バス、汽車、飛行機で移動しますが、輪ゴムはまだまだ伸びています。飛行機が港に着くと、ぼうやは船やラクダで移動します。砂漠でロケットに乗り込み、月に降りようとした途端に、ぼうやは「ボン」と跳ねます。ぼうやはベッドに着陸しました。

幅広い年齢の子供に受け入れられる絵本です。小学部の高学年では、長いストーリーの絵本の間で、息抜きとして読んでも楽しめます。

輪ゴムの絵は小さくて見えにくいので、指で差しながら読むと理解の助けになるでしょう。

本物の輪ゴムを伸ばして見せてから読むと、信じられない展開に子供たちは一層興味を持ちます。

聴覚 幼稚部 重度

輪ゴムが伸びていくと、「どこまで行くんだ」と言う幼児がいました。乗り物の絵に興味を示し、砂漠の場面で、絵の端にロケットが見えると、身を乗り出す幼児もいました。

聴覚 小学部 2年生

輪ゴムの実物を見せてから読み始めると、児童たちはこんな不思議な輪ゴムがあるのかなといった様子で、真剣に聞いていました。輪ゴムが弾けることを予想して、痛そうな顔をする児童もいました。

特別支援学校から寄せられた事例 聴覚 幼稚部 3年生

ろう学校幼稚部3年生3人のクラスで読み聞かせをしました。

聴覚障害のある幼児に読み聞かせをする際、本の内容をよく理解し、より楽しめるようにするために、劇遊びほか絵本に關係する活動をすることも有効だと考えています。今回は、読み聞かせをした後に、子供たちが主人公のなつみと同じように自分の体と身の回りにある物を使って、「何かの真似をする」活動を行いました。

まず、読み聞かせをしながら、なつみが何の真似をしているのか考えました。子供なりに考えたことを発言し合い、なつみの答えを見て、驚いたり笑ったりしていました。読み終わった後、「なつみみたいに、何かの真似をしてみよう」と促し、真似をするために使う道具の例としてタオルや箱、バケツなどを示しました。すぐに自分で新たな真似を考えるのは難しかったですが、なつみがやったのと同じ真似を自分なりにやってみていました。タブレットで写真を撮って、自分が真似をしている様子を客観的に見られるようにもしました。

またの機会に、お互いに問題を出し合うゲームもしたいと思います。

特別支援学校から寄せられた事例 聴覚 小学部 重複

対象は小学部の重複学級の児童4名。絵本の読み聞かせが好きで、物語に登場する動物を手話で表現したり、ストーリーの起承転結の展開を楽しみます。

この絵本のイラストは、とても親しみやすく、「これは何の動物かな?」、「これは何パンかな?」と児童が絵本に興味を持って、やり取りしながら、読み進められます。紹介されているパンを見て、「食べたいものはどれ?」と考えたり、お客さんが来たときの「いらっしゃいませ」の言葉を一緒に確認したりしました。

絵本を通してパン屋さんの世界観に入り込んだあと、実際に児童が作ったパンを使って買い物ごっこをしました。絵本の読み聞かせと体験的活動を関連付けて行うことで、パン屋さんのイメージを持って楽しく活動できました。

(3) 昔話絵本

昔話の特徴は、起こった事件や事実だけを述べ、登場人物の感情を交えない叙述にあります。登場人物の行動等は具体的に述べられ、読書経験の少ない子供にとっても理解しやすいです。聞き手は主人公になりきって聞き、勇気、成功の喜び、嫉妬心など様々な感情を体験することができます。

昔話ならではの語り口や、登場する昔の生活道具などは、子供にとってはなじみがなく、手話での表現が難しいこともあります。そのため、ストーリーはそのままで分かりやすい文章に変える、読み聞かせの前に難しい言葉を説明するなど、工夫します。分かりやすい文章にした原稿を事前には、昔話の魅力を損ねていないか、聞きやすいかなど十分に検討しておきます。

小学部の高学年では、起承転結がある本格的な昔話が特に喜ばれます。



昔、山道を馬方が歩いていると、やまんばが後ろから追い掛けてきました。馬方は荷物の魚と馬を犠牲にしながら、命からがら逃げていき、1軒の家にたどり着きました。ところが、その家はやまんばの家でした。「はり」の上に隠れていた馬方は、やまんばが気付かないうちに、こっそり甘酒と餅を食べます。そして、やまんばが眠ったのを見計らってやまんばを退治しました。

冒頭からすぐに事件が起こり、馬方がやまんばに追われます。初めは魚、次に馬と、次々に食べられていくので、子供たちはドキドキしながら聞いています。特に、足を切られた馬が「がったがったがった」と逃げる場面で驚きます。

お話の状況が分かりやすく、的確に描かれているため、手話のみで伝えることが難しい場面は、絵を指しながら簡易な手話やジェスチャーで読むことができます。家のはりに隠れた馬方が、上からやまんばを見下ろす場面では、絵本の向きを変えて、縦長に描いているので注意します。また、「馬方」は子供たちにとってなじみのない言葉です。意味を伝えてから話すと、子供たちはスムーズに聞くことができます。

聴覚 小学部 5～6年生 重度

15分くらい掛けて丁寧に読みました。馬方が馬の足を切る場面では、児童たちは驚いていました。

聴覚 小学部 4年生

前半は馬の足を切る場面で、後半はやまんばの間抜けぶりに笑いが起きました。児童たちは、やまんばが死ぬと「えっ」「あー」と息をのみ、満足したような表情になりました。



腹が痛くなったととさんは、和尚様からカエルをのむことをすすめられます。カエルをのむと具合が良くなりますが、カエルが腹の中を歩くので、気持ちが悪くなります。和尚様に相談すると、今度はヘビをすすめられます。その後もととさんは、キジ、猟師、鬼を次々にのみ込みます。和尚様は、鬼をのんだととさんの口を開けさせると、「おにはー そとー」と節分の豆を投げ入れます。鬼はととさんの尻の穴から出て行きます。

和尚様に言われ、ととさんがカエルをのむ、その次はヘビをのむ、その次はキジをのむ、と現実にはあり得ないことが繰り返されます。子供たちは信じられない展開に驚きつつ、次は更に何が起こるのかと期待しながら聞きます。

私たちが手話で読むときは、ととさんが何かをのみ込むときの擬音等は省略します。また、登場人物が多いので、ととさんは左手で、かかさん・和尚様・猟師は右手で手話をするなど、決めています。お話の面白さを伝えるために、ととさんが何かをのみ込むたびに、「信じられる？」という表情をして読んだりします。

聴覚 小学部 5年生

タイトルを読むと、ある児童が「うそだ！」と言いました。タイトルからして信じられない、という様子でした。ととさんが何かをのむたびに、児童たちは「ええー！」と驚き、鬼が尻の穴から出ていくと、爆笑しました。

聴覚 小学部 4年生

ととさんが何かをのみ込む場面では、児童たちは眉をひそめて絵に注目しました。読み進めていくと、児童たちは自分のおなかに手を当てたり、「へび」の手話をして気持ちが悪そうに顔をしかめていました。ととさんが何度もお寺に行くのを見て、「だめだよ！」「お寺行き過ぎ！」と声を上げる児童もいました。

103	くわずによぼう 稲田和子 再話 赤羽末吉 画	978-4-8340-0789-3	福音館書店	1980
			★★	



欲張り男が、よく働き、飯を食わないという美しい娘を女房にもらいました。男は、蔵の米俵が減っていることに気が付きます。天井からのぞくと、女房は頭のとっぺんにある口で、たくさんの握り飯を食べていました。女房は鬼婆だったのです。鬼婆は男を風呂おけに入れ、山へ向かいます。男は、隙を見てショウブの茂みに逃げ込みます。追ってきた鬼婆は、刀になったショウブに阻まれ、ヨモギの茂みに転び、溶けて死んでしまいます。

あるろう学校の小学部高学年で読んだときは、始めに「食わず」と「女房」の意味を説明しました。また、冒頭の「とんとん むかしが あったそうだ。むかし、うんと よくばりの おとこが ひとりで すんでいたそうだ。」という文章を、「昔、とても欲張りな男が一人で住んでいた」と変更するなど、分かりやすい文章に言い換えたりしました。男と女房（鬼婆）のどちらが話しているのかが伝わるように、主語を補うこともしました。子供たちはしっかりとお話を聞いてくれました。

聴覚 小学部 4年生

児童たちは、絵に注目しながら、お話の世界に入り込んでいました。鬼婆が握り飯を食べる場面では、児童たちは驚き、友達同士で確認していました。鬼婆が溶ける場面は、鬼婆の姿がぼやかして描かれています。ある児童は、しばらくその絵に顔を寄せて、納得した様子で、周りの児童にも「見て見て」と声を掛けていました。

聴覚 小学部 4年生

読む前に「ごはんを食べない女の人の昔話です」と言うと、怖がる児童がいました。鬼婆が握り飯を食べる場面では、顔を背ける児童がいました。怖がっていない様子の児童は、男が捕まりそうになると、「近い」「これは間に合わないな」と言っていました。読み聞かせが終わると、児童たちは安心したようにため息をついていました。

(4) 知識の絵本

事実を記述している知識の絵本も、聴覚障害の子供たちの読み聞かせに向きます。特に、イラストや写真が優れている絵本では、それらを上手にを使って、分かりやすく読み聞かせをすることができます。

104	こいぬがうまれるよ ジョアンナ・コール 文 ジェローム・ウェクスラー 写真 つばいいくみ 訳 978-4-8340-0912-5	福音館書店	1982
		★★	



隣の家の犬に、赤ちゃんができました。母犬がいきむと、赤ちゃんが生まれます。母犬は、袋を破ってへその緒をかみ切り、子犬をなめてきれいになります。「わたし」はもらった子犬に、ソーセージという名前を付けました。最初は目と耳が塞がり、おっぱいを飲んで寝るだけでしたが、二週間たつと目と耳が開き、一か月後には歯が生え、歩き出します。二か月たつと、母犬から離しても大丈夫。これからは「わたし」といつも一緒です。

モノクロの写真で、犬の出産から、二か月間の成長を丁寧に追っています。赤ちゃんが袋に入って生まれてくることや目や耳が閉じていることに、子供たちは驚きます。モノクロ写真なので、出産の場面も生々しい血の色が見えずに、落ち着いて見ることができます。多くの子供が興味を持ちますが、中には「怖い」と言う子供もいました。

聴覚 小学部 2年生 重度

児童たちが犬好きということもあり、よく聞いてくれました。本を見せて回ると、どの児童も身を乗り出して見えています。ある児童は、「生まれた」「かわいい」と手話を繰り返していました。

聴覚 小学部 6年生

「いいこと おしえてあげようか？」と読むと、喜ぶ児童がいました。名前がソーセージだと伝えると、笑いが起きました。耳と目が開いた場面を見せて回ると、児童たちは写真をじっと見つめました。子犬が歩き始めると、うれしそうに隣同士で顔を見合わせる児童もいました。

105	こうら 内田至 ぶん 金尾恵子 え	福音館書店	1988
		★★	



今から一億年前、恐竜の時代に生きていたカメの仲間は、ゾウと同じくらいの大きさでした。恐竜は滅びましたが、カメの仲間は硬い甲羅で身を守り、生き残ります。カメの甲羅は、ウロコの甲羅と骨の甲羅が二重になった強い仕組みです。体を軽くするための工夫もあります。生き延びるために、カメは、甲羅に様々な工夫をしてきたのです。膨らませたり、折り曲げたり、雨水を集めたり。中には、石や海藻に擬態するカメもいます。

カメの甲羅の仕組みや役割を紹介する絵本です。子供たちは、冒頭から、カメの仲間が恐竜と泳ぐ姿や、カメの仲間とゾウの大きさを比較するイラストに驚き、興味を持ちます。

(5) 読み聞かせが難しかった絵本・工夫した絵本

子供たちは、絵本の読み聞かせを楽しんでくれますが、私たちが手話で読み聞かせをするには、難しい絵本や工夫が必要な絵本もありました。特に音の響きを楽しむ絵本や、音の響き等が物語の鍵になっている絵本、文章どおりに読むと分かりにくい言葉、表現などは、その面白さを十分に伝えることができませんでした。その事例を挙げます。

● 読み聞かせが難しかった絵本

『めっきらもっきらどおんどん』（長谷川摂子 作 ふりやなな 画 福音館書店 1990年）

主人公が歌う歌や妖怪の名前は、言葉の響きが愉快で、物語の鍵にもなっています。しかし、これらの音の面白さを手話や指文字で表現することが難しく、お話の魅力を十分に子供たちに伝えることが難しい絵本でした。

『もこもこもこ』（たにかわしゅんたろう さく もとながさだまさ え 文研出版 1977年）

この絵本の魅力の一つは、擬音から連想されるイメージに、絵がぴったりと合っていることでしょう。しかし、指文字やジェスチャーでは、擬音の面白さを十分に伝えることができませんでした。

● 工夫した絵本

『どろんこハリー』（ジーン・ジオン ぶん マーガレット・ブロイ・グレアム え わたなべしげお やく 福音館書店 1964年）

この絵本では、「いちもくさん」などの子供になじみのない言葉が登場します。聴覚に障害がない子供は、「いちもくさん」という言葉を知らなくても、音の響きや前後のつながりで、ある程度は意味を類推することができます。しかし、聴覚に障害がある子供は、知らない言葉に出会ったとき、意味を類推することは難しいでしょう。このため、「いちもくさん」なら「大急ぎ」と表現するなど、身近な言葉で言い換えると、子供たちはスムーズに物語を追うことができます。

また、「もっといっぱい あそびたかったけど、うちのひとたちに、ほんとに いえでをしたとおもわれたら たいへんです。」という文章は、そのページには描かれていない「うちのひとたち」の気持ちをハリーが想像するという構造になっています。このような場合には、「ハリーは、もっと遊びたいと思ったけれど、家に帰ることにしました」のように単純化して、手話で表現しました。

『おおかみと七ひきのこやぎ』（グリム 著 フェリクス・ホフマン え せたていじ やく 福音館書店 1967年）

この絵本では、オオカミが子ヤギたちの家の戸をたたいて、「あけておくれ」と呼び掛ける場面がありますが、そのページでは、子ヤギたちの絵は描かれていません。特に幼児は、「文章に登場するが、絵に描かれていない」ものを想像することが難しい場合があります。

あるろう学校の幼稚部で読み聞かせをしたときには、子ヤギたちが戸の向こうにいることが分かるように、出版社の許諾を得た上で、子ヤギたちの絵をコピーし、戸の向こう側に置いて見せました。何回か見せると、コピーした絵がなくても理解できるようになり、子供たちにお話を分かりやすく伝えることができました。

4 わらべうた

幼稚園や小学部の低学年のおはなし会では、わらべうたを取り入れています。わらべうたを歌うと、子供は気持ちが開放的になり、読み手に心を開いてくれます。また、読み聞かせをすると子供は集中するため、時には疲れることもあるので、体を動かす「うちのうらの」(➡p.74)のようなわらべうたを歌うと、気持ちを切り替えられます。

わらべうたを歌い始めると、子供たちはすぐにリズムを取り、上手に体を動かします。歌い手がはっきりと拍子を取って体を動かせば、障害が重い子供も一緒になって楽しむことができます。

わらべうたでは、パペットを使うこともあります。パペットを取り入れるときには、パペットを動かす人と、それを手話やジェスチャーで見せる人の二人一組で歌います。パペットを使って、一人一人に「こんにちは」と挨拶をすると、子供たちは喜んで、パペットに挨拶を返したり、抱き締めたりします。あるろう学校で、小学部の2年生に、クマのパペットを使って「くまさんくまさん」(➡p.79)を歌ったところ、翌年、子供から「クマさんは？」と聞かれたこともありました。

コラム 手話によるおはなし会等実施までの流れ

手話でおはなし会やブックトークをする際は、手話を習得している人が実施することが望ましいのですが、都立多摩図書館では、学校の詳細を得て手話に熟達していない職員も、先輩からの伝授によりおはなし会やブックトークを行ってきました。ここでは、私たちがろう学校でおはなし会やブックトークを実施するまでの流れを紹介します。

まず、学校と相談しながらプログラムを決めます。次に、台本を作成します。台本には、絵本の読み原稿と、読み原稿に対応した手話のイラストなどを記します。台本は、手話辞典を参照したり、手話を習得している人に尋ねたりして作成します。台本が出来上がったら、子供たちが実際に使っている手話表現に近づけるために、おはなし会をするろう学校の先生に見てもらいます。こうして完成した台本をもとに練習を重ね、本番に臨んでいます。

実際に手話で表現をすると、子供たちに伝わらないこともあります。その際は、聞き手の子供たちや先生に学びながら、伝え方を工夫しています。

5 おはなし会のプログラム事例

ここでは、私たちが実施した、手話によるおはなし会のプログラム事例を紹介します。

(1) 幼稚部・小学部低学年の子供向け

幼稚部や知的障害との重複障害のある小学部のクラスでは、同じパターンが繰り返される絵本がおすすです。(➡「繰り返しのある絵本」p.85～87) また、幼稚部や小学部低学年の子供たちは、普段からわらべうたを楽しんでおり、仕草をすぐに覚えて歌えます。わらべうたを導入に使うと、子供たちはリラックスしておはなし会を楽しむことができます。

●プログラム

わらべうた「ととけっこう」

わらべうた「くまさんくまさん」

『くまさんくまさんなにみてるの?』 エリック・カールえ ビル・マーチンぶん 偕成社

『ちいさなねこ』 石井桃子さく 横内襄え 福音館書店

『みんなうんち』 五味太郎さく 福音館書店

●おはなし会の時間 40分程度

まず、わらべうた「ととけっこう」(➡p.79) を歌って、袋の中にあるクマのパペットを起こします。どの子供も参加できるように、拍子に合わせて袋に向かって指を振るように呼び掛けます。パペットを登場させたら、子供一人一人に挨拶をして回ります。

わらべうた「くまさんくまさん」(➡p.79) は、パペットを使う人と、手話やジェスチャーをして踊る人の二人一組で歌います。子供たちもすぐに覚えて、一緒に体を動かしてくれます。「くまさんくまさん りょうてをついて」の部分では、パペットと子供たちと手を合わせても良いでしょう。初めにパペットを使ったわらべうたを取り入れることで、子供たちの緊張が解けて、自然と絵本の読み聞かせに移ることができます。

パペットのクマにつなげて『くまさんくまさんなにみてるの?』(➡p.23) を読むと、子供たちは一層絵本に興味を持ち、動物たちの鮮やかな色に驚いたり、好きな動物を手話で表したりします。

続いて、創作物語絵本『ちいさなねこ』(➡p.35) を読みます。文章が明快で、具体的な動作が書かれているので、手話で表しやすい絵本です。子供たちは、子ネコに感情移入しながら緊張感を持って聞き、結末に安心感を覚えます。

最後に、知識の絵本『みんなうんち』(➡p.57) を読みます。『ちいさなねこ』で味わった緊張感とは一転して、子供たちは様々な動物のうんちの話に大笑いします。魚、鳥、虫のうんちの絵は小さいので、一人一人の前に絵本を持っていき、どこにうんちがあるか探してもらって楽しむのも良いでしょう。「へびのおしりはどこ?」「くじらのうんちはどんなの?」と問い掛ける場面では、実際に子供たちに問い掛けても楽しいでしょう。

(2) 小学部高学年の子供向け (知的障害等との重複障害)

子供たちは、絵を読み取る力がとても高く、絵からストーリーが読み取りやすい絵本を読むと、先を予想しながら集中して聞きます。知的障害などとの重複の子供も在籍しているので、皆が楽しめるようにいろいろなタイプの絵本を選びます。

(1) 「動物だいすき」 小学部中学年対象

●紹介する本

『こいぬがうまれるよ』	ジョアンナ・コール文 ジェローム・ウェクスラー写真 つばいいくみ訳 福音館書店
『どうぶつフムフムずかん』	マリリン・ベイリー文 ロミ・キャロン絵 福本友美子訳 玉川大学出版部
『ひとまねこざるときいろいろぼうし』	H.A.レイ文、絵 光吉夏弥訳 岩波書店
『どうぶつのあしがたずかん』	加藤由子文 ヒサクニヒコ絵 中川志郎監修 岩崎書店

(40分程度)

●導入

皆さんは動物が好きですか？今日は、動物の本を紹介します。

●『こいぬがうまれるよ』（→p.94）読み聞かせ

●つなぎの言葉

子犬がどんなふうにもまれるか分かりました。では、他の動物はどうでしょうか？

●『どうぶつフムフムずかん』 内容紹介

「おとうさんの子そだて」

これはタツノオトシゴです。膨らんだおなかの穴から、赤ちゃんが出てきました。赤ちゃんを生んでいるから、お母さんだと思いますか？これはお父さんです。タツノオトシゴのお母さんは、お父さんのおなかにタマゴを生みます。

「たまごのすりかえ」（カッコウの子育てを紹介）

この『どうぶつフムフムずかん』には、いろいろな動物の暮らしについて書いてあります。

「海のなかよし」（クマノミとイソギンチャクの共生を紹介）

「ドングリかくそう」（キツツキのドングリ貯蔵法を紹介）

1ページにつき一つの動物が紹介されており、好きなところから読むことができます。

●つなぎの言葉

動物たちは賢い、ということが分かりました。次に紹介するのも、賢い動物の本です。

●『ひとまねこざるときいろいろぼうし』（→p.88）ダイジェストで読み聞かせ

皆さん、このサルのことを知っていますか？これは、ひとまねこざるのじょーじです。（ダイジェストで最後まで読み聞かせ）

じょーじの本は、全部で6冊あります。どの本も面白いので、読んでみてください。

●つなぎの言葉

動物園には、サルだけではなくいろいろな動物がいます。

●『どうぶつのあしがたずかん』 内容紹介

動物園のいろいろな動物の足形を紹介している図鑑です。どれも本当の大きさです。

（ゾウの足形を見せる）これがどんな動物の足形か、分かりますか？これはインドゾウの右前足の足形です。39cmあります。

（キリン、カバ、クマ、パンダなど、どの動物の足形かクイズ形式で紹介。子供たちにサル科の動物の手形に手を重ねてもらい、大きさと形の違いを実感して楽しむこともできる）

動物の足は、その動物が生きるのに便利にできていることが分かりましたね。この本には、他にもいろいろな動物の足形が紹介されています。

(2) 「いただきます」 小学部高学年対象

●紹介する本

『火曜日のごちそうはヒキガエル』 ラッセル・E.エリクソン作 ローレンス・ディ・フィオリ絵
佐藤涼子訳 評論社

『ばばばあちゃんのなぞなぞりょうりえほん むしばんのまき』

さとうわきこ作 福音館書店

『くわずにようぼう』

稲田和子再話 赤羽末吉画 福音館書店

『手で食べる？』

森枝卓士文・写真 福音館書店

(40分程度)

●導入

もうすぐ給食の時間ですね。今日の給食は何でしょう？

給食を待つ間、「いただきます」をテーマに本を紹介します。

●『火曜日のごちそうはヒキガエル』 内容紹介

皆さんはどんなごちそうが好きですか？お寿司？ハンバーグ？カレーライス？それともカエル？

(本を出し、表紙を見せる)『火曜日のごちそうはヒキガエル』、このミミズクは、ヒキガエルを食べようと思っています。それも、お誕生日のごちそうに。しかしヒキガエルは、ごちそうになるのは嫌だと思っています。ヒキガエルの名前はウォートンです。

(p.19、26、38、45等の絵を見せながら、ウォートンがミミズクに捕まり、六日間ミミズクの家で過ごしたこと、その間に2匹が仲よくなったことを紹介)

ウォートンは、ミミズクに食べられてしまうのでしょうか？それとも逃げ出すことができるのでしょうか？知りたい人は続きを読んでみてください。この『火曜日のごちそうはヒキガエル』には、続きが6冊あります。どれも愉快なお話です。

●つなぎの言葉

モートンが作ったカブトムシのお菓子は、おいしいでしょうか？ 皆さんはムシパンを食べたことがありますか？ 虫が入っているパンではなく、蒸したパンです。

●『ばばばあちゃんのなぞなぞりょうりえほん むしばんのまき』 内容紹介

(タイトル紙を見せながら) ばばばあちゃんは、料理が上手なおばあちゃんです。

(蒸しパンの作り方を紹介)

●つなぎの言葉

次の本は、ごはんを食べない女の人の昔話です。

●『くわずにようぼう』 (→p.93) 読み聞かせ

●つなぎの言葉

鬼婆は、握り飯を投げ上げて食べていましたね。次の本は、ごはんの食べ方についての本です。

●『手で食べる？』 内容紹介

もし、皆さんがこんな食べ方をしたら、お行儀が悪いと叱られるかもしれません。

(p.2を指す) 手づかみで食べたり、あぐらをかいたり、片足を立てたり。お行儀が悪い？悪くない？

(p.4を見せる) 手で食べている人たちがいます。この人たちは、お行儀が悪くありません。

(その他、ごはんの食べ方は世界中でいろいろあること、米の種類の違い、欧米の人たちの食べ方の歴史、手を使った食べ方などを紹介)

この本には、世界中でどんな食べ物をどんな方法で食べているかが書いてあります。もっと詳しく知りたい人は、読んでみてください。

(3) 「それ、ほんとう？」 小学部中～高学年対象

●紹介する本

『バナナのはなし』	伊沢尚子文 及川賢治絵 福音館書店
『石の卵』	山田英春文・写真 福音館書店
『かえるをのんだととさん』	田野十成再話 斎藤隆夫絵 福音館書店
『だまし絵・錯視大事典』	椎名健監修 あかね書房
『紳士とオバケ氏』	たかどのほうこ作 飯野和好絵 フレーベル館

(40分程度)

●導入

本の中には、不思議なことや知らないことがたくさん書いてあります。皆さんが「それ、ほんとう？」と思うような本を紹介します。

●『バナナのはなし』ダイジェストで読み聞かせ

最初の本は、『バナナのはなし』です。

(ダイジェストで最後まで読み聞かせ。つまようじなどでバナナに字を書く実験をしても良い)

●つなぎの言葉

皆さんがよく知っているバナナにも「それ、ほんとう？」と思うようなことがたくさんありましたね。次も皆さんが知っているものの本を紹介します。

●『石の卵』内容紹介

(表紙を見せながら) これは何でしょう？ そう、石です。でも、普通の石ではありません。

(「ドラゴンの卵」や「雷の卵」を紹介)

●つなぎの言葉

『石の卵』では、外から見ても分からない、石の中に不思議がありました。次は、ある人のおなかの中で起きた、「それ、ほんとう？」と思うような出来事のお話です。

●『かえるをのんだととさん』(→p.92) 読み聞かせ

●つなぎの言葉

ととさんのおなかの中でびっくりすることが起きていました。おなかから鬼を追い出すことができてよかったですね。さて、ここでクイズをします。

●『だまし絵・錯視大事典』内容紹介

(p.80を見せる) この絵の長さは、どれも同じでしょうか。違うでしょうか。答えは同じ長さです。このように、見間違えることを「錯視」といいます。

(表紙を見せながら) 『だまし絵・錯視大事典』です。錯視を使った「それ、ほんとう？」と思うような絵がたくさん載っています。

(p.86、114、126等を見せて、錯視を体験)

●つなぎの言葉

次は、「それ、ほんとう？」と思うような、変わった友達ができただんなの話です。

●『紳士とオバケ氏』内容紹介

(表紙を見せながら) この人の名前は、マジノマジヒコさん。とても真面目な人です。

(p.9、21、41等の挿絵を見せながら、マジヒコ氏が自分とそっくりな姿をしたオバケ氏と友達になること、マジヒコ氏の家に会社の人たちが訪れたとき、寝ているマジヒコ氏の代わりにオバケ氏がおもてなしをしたことを紹介)

Ⅳ 視覚障害の子供たちへの読み聞かせ

視覚に障害のある子供たちに絵本を読み聞かせる場合、多くの配慮が必要です。絵本は絵を見ることでお話の展開が理解できるものが多く、子供たちの障害の状態により、どのような絵が見えやすいかなど、個人差があるからです。

そのようなことから、子供たちが集団でお話を楽しむには、絵本の読み聞かせより、ストーリーテリングが適しています。ストーリーテリングとは、語り手が、昔話や創作物語などのお話を覚えて、直接聞き手に語ることです。図書館では、子供たちにお話の楽しさを知らせ、読書に導くことを目的に、ストーリーテリングが広く行われています。

都立多摩図書館では、都立盲学校の寄宿舎等で、子供たちにストーリーテリングを行ってきました。その経験をもとに、視覚に障害のある子供たちが楽しめるお話等を紹介します。

1 子供たちはお話が好き

子供たちは、ストーリーテリングをととても楽しんで聞きます。一つ一つの言葉をしっかり受け止め、高い集中力と注意力を持って聞いています。お話を細部まで楽しみ、時には語り手も気が付かなかったことに気付き、笑ったり、質問をしたりします。語り手は、聞き手の子供たちから力をもらい、共にお話の世界を楽しむことができます。

子供たちは、お話を聞いているとき、うつむいたり、横を向いたりして、語り手に顔を向けていないことがよくあります。初めて語るときは、聞き手と視線が合わないことに不安を覚えるかもしれませんが、それぞれの子供が自分の聞きやすい姿勢で聞いているのです。安心して語りましょう。

ストーリーテリングを繰り返し行ううちに、うなずいたり、ほほえんだり、驚きに少し体を動かすなど、お話に聞き入っている子供たちの様子が分かるようになります。子供たちも、身近にいる大好きな大人に何度も語ってもらうことが、大きな喜びとなります。

2 お話を語る

ストーリーテリングでは、昔話や短い創作物語を語りますが、特に昔話は喜ばれます。元来、昔話は、世界各地で世代から世代へ語り伝えられてきたものなので、ストーリーも表現も、耳から聞いて楽しめるようになっています。

語るお話を選ぶときは、同じ昔話でも、様々なテキストがあるので、十分に吟味します。長年伝えられてきた昔話を安易に変えていないか、耳で聞いて楽しめるか、表面的なお説教や教訓を押し付けていないかなど、実際に声に出して読み、確認すると良いでしょう。自分が好きなお話を選ぶことも大切です。大好きなお話を子供たちにも楽しんでもらいたい、という気持ちが良いストーリーテリングとなります。

語るお話を選んだら、目の前に登場人物や情景のイメージが描けるまで、何度も読みながら覚え、本番ではイメージを心に描きながら語ります。

3 お話

ここでは、私たちが子供たちに実際に語り、楽しまれてきたお話を紹介します。

小学部低学年くらいの子供も楽しめるお話には★、小学部高学年から中学部くらいの子供が楽しめるお話には、★★を付けています。

お話の出典は、私たちが語った際の出典を記載しています。同じお話でも違う出典があるので、複数のテキストを読み比べて選んでください。

(1) 言葉のリズムや歌を楽しむお話

同じ言葉や歌が繰り返されると、子供たちの期待感が高まり、楽しみも増してきます。「鳥呑爺」を語ったときには、小さい鳥の歌に耳を澄まして聞いている子供がいました。「かにかに、こそこそ」を語ったときは、「かにかに、こそこそ」が唱えられるたび、子供たちのお話への集中度が増してくるようでした。「やぎとライオン」では、子供たちは、繰り返し必死に歌うヤギの歌に引き込まれて聞いていました。

あるおはなし会で、「まぬけなトッケビ」を語った時のことです。トッケビが手を2回パンパンとたたき場面を語るたび、一緒にパンパンと手をたたいてくれる子供がいました。子供たちは面白い唱え言葉やリズムカルな歌に敏感に反応します。

語られた言葉や歌をすぐに覚えて、お話が先へ進んでいっても、いつまでも繰り返し歌っている子供もいます。おはなし会のプログラムには、響きやリズムを楽しめる言葉や歌が入っているお話を意識して入れると良いでしょう。

「鳥呑爺」 稲田浩二、稲田和子編著 『日本昔話百選』改訂新版 三省堂 ★

小さな鳥をのみ込んでしまったおじいさんのへその辺りから、鳥の尻尾が出てきました。引っ張ってみると、「あやちゅうちゅう、こやちゅうちゅう、にしきさらさら……」とおなかの中で鳥が鳴きます。

「かにかに、こそこそ」 笠原政雄語り 『ホットケーキ (愛蔵版おはなしのろうそく 9)』 東京子ども図書館 ★

おじいさんは川で見つけたカニを井戸の中で育てています。毎日、おじいさんが「かにかに、こそこそ、じさ来たぞ」と井戸に向かって呼び掛けると、カニは井戸から出てきます。

「やぎとライオン」 内田莉莎子著 『こども世界の民話 上』 実業之日本社 ★

ライオンの家に入ってしまったヤギは、ライオンに食べられまいと、バイオリンを弾きながら「きのう、ころした。一まんびきのライオン……」と歌い出します。

「まぬけなトッケビ」 朴鍾振訳 『おはなしのろうそく 30』 東京子ども図書館 ★★

トッケビは人と会うと「アムゲヤ、アムゲヤ」と言って手を2回パンパンとたたきます。金を3文貸してくれた男の子の所に、トッケビは毎日お金を返しにやって来るようになります。

子供たちに喜ばれた言葉のリズムや歌を楽しむお話は、他にもあります。

「金色とさかのオンドリ」 勝田昌二訳 『なまくらトック (愛蔵版おはなしのろうそく 2)』 東京子ども図書館 ★

(2) 繰り返しや言葉の積み重ねを楽しむお話

同じような出来事が繰り返し起こるお話があります。決まったフレーズがあり、以前登場した言葉を引き継いで新たな言葉を追加していくことで、言葉がどんどん長くなっていきます。

子供たちは、お話のパターンが分かってくると、次に起こることを予想し、楽しみながら聞きます。「ホットケーキ」を語ったときは、子供たちは皆、ホットケーキが次にどのような愉快的せりふを繰り出すのかを期待しながら聞き、中にはおなかを抱えて笑う子供もいました。おはなし会の後で、中学部の生徒が「こういうお笑いが好き」と言っていました。

「ホットケーキ」 松岡享子訳 『ホットケーキ (愛蔵版おはなしのろうそく 9)』 東京子ども図書館 ★

お母さんが焼いたホットケーキが逃げ出して、出会った動物たちに「オジサンポジサン」や「メンドリペンドリ」などと呼び掛けながら、食べられないようかわしていきます。ホットケーキが動物に出会うたび、せりふが付け足され、長くなっていきます。

子供たちに喜ばれた繰り返しや言葉の積み重ねを楽しむお話は、他にもあります。

- ・「おばあさんとブタ」 松岡享子訳 『ながすねふとはらがんりき (愛蔵版おはなしのろうそく 4)』 東京子ども図書館 ★
- ・「ついでにペロリ」 松岡享子訳 『ついでにペロリ (愛蔵版おはなしのろうそく 3)』 東京子ども図書館 ★

(3) 愉快なお話

子供たちは面白いお話が大好きです。幼い子供はお話を素直に受け取って楽しみ、年齢の高い子供は次の展開を予想しながら、ユーモアを楽しみます。

『ありこのおつかい』は、昆虫や動物たちの悪口のやり取りがおかしくて、子供たちは大笑いしました。その一方、ありこが食べられたのが嫌だったと言う中学部の生徒もいました。

『かえるをのんだととさん』は、お話を丸ごと楽しんでくれました。和尚様の「ととさん」という呼び掛けと、のみ込んだ後の「でもなあ——」の繰り返しに期待の表情が出てきて、「おにをのむといいぞ」をたっぷりためて語ると、皆大笑いしました。鬼がととさんの尻の穴から逃げ出すと、お話の中で一番大きく笑いが起きました。

『ふしぎなたいこ』では、子供たちはどんどん鼻が伸びていく愉快的場面を想像しながら、楽しそうに聞いていました。

『やまんばのにしき』で、クマを捕ってこいと言い付けられた赤ん坊が、「すぐくまをぶらさげてかえってきたと」と語ると、子供たちは、小さな赤ん坊が大きなクマをぶら下げてくる場面のおかしさに気付いて、吹き出したり、驚いたりしました。

このように、子供たちは、お話の中からおかしさを見付け出すことが上手です。

また、「あくびが出るほどおもしろい話」を語ったときには、子供たちは、始めは内容がつかめず、キョトンとしていましたが、話の仕組みが分かってくると、語り手が次の言葉を言うか言わないうちに、待ち兼ねたように大笑いをしました。

『ありこのおつかい』 石井桃子さく 中川宗弥え 福音館書店 ★

アリのありこはおばあさんの家にお使いに行く途中、カマキリに食べられてしまいます。ありこは、カマキリのおなかの中で「ばかあ、ばかあ！」と叫びました。そのカマキリはムクドリに、ムクドリはヤマネコに、ヤマネコはクマに食べられてしまいます。

『かえるをのんだととさん』 日野十成再話 斎藤隆夫絵 福音館書店 (→p.92) ★

『ふしぎなたいこ』 石井桃子ぶん 清水崑え 岩波書店 ★

げんごろうさんは不思議なたいこを持っています。たいこの片方の側をたたき、「はな たかくなれ」と言うと鼻が高くなり、反対側をたたき、「はな ひくくなれ」と言うと鼻が低くなります。ある日、げんごろうさんは自分の鼻がどれぐらい高くなるか試してみることにしました。鼻はどんどん伸び、雲の上の天国まで届きます。

『やまんばのにしき』 まつたにみよこぶん せがわやすおえ ポプラ社 ★

子供を生んだちょうふく山のやまんばへ、山の麓の村に住むあかざばんばが餅を届けに行きます。やまんばは、ばんばにごちそうをしようと、生まれたばかりの赤ん坊にクマを捕ってくるよう言い付けます。

『あくびが出るほどおもしろい話』 松岡享子作 『ついでにペロリ (愛蔵版おはなしのろうそく 3)』 東京子ども図書館 ★★

「ここから北へ北へとすすんでいったある南の国に、たいへんかしこい、ばかな男がすすんでいた。」という文章から始まり、ある状況が語られるとすぐに反対の状況が語られます。

子供たちに喜ばれた愉快なお話は、他にもあります。

〈昔話〉

- ・「アナンシと五」 内田莉沙子著 『こども世界の民話 下』 実業之日本社 ★
- ・「おいしいおかゆ」 佐々梨代子、野村滋訳 『子どもに語るグリムの昔話 1』 こぐま社 ★
- ・「三人ばか」 松岡享子訳 『なまくらトック (愛蔵版おはなしのろうそく 2)』 東京子ども図書館 ★★
- ・「地獄からもどった男」 稲田和子、筒井悦子著 『子どもに語る日本の昔話 1』 こぐま社 ★★
- ・「なまくらトック」 松岡享子訳 『なまくらトック (愛蔵版おはなしのろうそく 2)』 東京子ども図書館 ★★

〈創作〉

- ・「エパミンダス」 S・C・ブライアント作 松岡享子訳 『エパミンダス (愛蔵版おはなしのろうそく 1)』 東京子ども図書館 ★

(4) 本格昔話

昔話と聞くと、幼い子供向けというイメージを持つかもしれませんが、実は人生の真実を象徴的な形で伝えています。主人公が生まれて成長し、降りかかってきた課題を果たして、伴侶や宝物を得て、「めでたしめでたし」で終わるような本格的な昔話は、特に小学部高学年くらいからの子供を引き付ける力があります。子供たちは、主人公に寄り添い、冒険を真剣に受け止めます。一つの昔話を聞き終えた子供たちの顔を見ると、遠くまで旅をしてきたような表情が見られることもあります。

昔話は、語り伝えられてきたお話なので、文字で読むよりも耳から聞いてこそ、楽しさが増し、深く豊かな体験ができます。長い話だから子供たちは聞けないのではとためらわずに、ぜひ、挑戦してみてください。

「三まいのお札」 東京子ども図書館編 『ついでにペロリ (愛蔵版おはなしのろうそく 3)』 東京子ども図書館 ★

栗拾いに出掛けた小僧さんが、山の中で出会ったばあさまは、鬼婆でした。小僧さんは、和尚さんが困ったときのためにとくれたお札を使い、追い掛けてくる鬼婆から逃げていきます。

「七羽のカラス」 佐々梨代子、野村法訳 『だめといわれてひっこむな (愛蔵版おはなしのろうそく 5)』 東京子ども図書館★

怒った父親が、「みんな、カラスになるがいい！」と腹立ち紛れに叫ぶと、七人の息子たちはカラスになって飛んでいってしまいました。妹は、兄たちを救うため世界の果てまで旅をして、お星様の所までたどり着きます。

「まめたろう」 小林いづみ訳 『まめたろう (愛蔵版おはなしのろうそく 10)』 東京子ども図書館 ★

年を取った夫婦の家で豆のスープを作っていると、1粒の豆が飛び出し、小さな男の子に変わりました。男の子は、まめたろうと名乗ります。まめたろうは、おじいさんにお金を払わない王様のお城へ、お金を取り立てに出掛けていきます。

『やまなしもぎ』 平野直再話 太田大八画 福音館書店 ★

病気のお母さんのために、三人の兄弟が順番にやまなしを取りに出掛けます。けれども、たろうもじろうも沼の主のみにのみ込まれ、帰ってきません。最後にさぶろうが出掛けます。さぶろうは途中で出会ったばあさまの忠告に従って進んでいきます。

「赤鬼エティン」 東京子ども図書館訳 『赤鬼エティン (愛蔵版おはなしのろうそく 8)』 東京子ども図書館 ★★

恐ろしい赤鬼エティンの城で石にされてしまった兄を救うため、弟は旅立ちます。途中、老婆から魔法の杖をもらい、羊飼いの不思議な予言を聞き、弟はエティンの城までやって来ます。

「クルミわりのケイト」 東京子ども図書館訳 『だめといわれてひっこむな (愛蔵版おはなしのろうそく 5)』 東京子ども図書館★★

王様の娘アンと二度目のおきさきの連れ子のケイトは、本当の姉妹のように仲良しでした。ところが、おきさきはアンがケイトよりも美しいのを妬み、鶏飼いのばあさんに頼んで、アンの頭をヒツジの頭に変えてしまいます。ケイトはアンと二人で幸せを探す旅に出ました。

「月になった金の娘」 八百板洋子編・訳 『吸血鬼の花よめ ブルガリアの昔話』 福音館書店 ★★

継母の言い付けで、森に置き去りにされた娘は、おばあさんに出会います。娘はおばあさんの家でよく働き、動物にも親切にしました。おばあさんは娘の髪の毛も服も金色にしてくれて、金貨をたくさんくれました。継母は自分の娘も森に行かせます。

『ねむりひめ』 グリム原著 フェリクス・ホフマンえ せたていじやく 福音館書店★★

姫の誕生祝いに招かれなかった占い女が、「15歳になったら、つむに刺されて死ぬ」という呪いを姫に掛けます。他の占い女はすぐさま、姫はつむに刺されても死なず、百年間眠ることになりました。姫は15歳になったある日、つむで指を刺し、眠りにつきます。すると、城の全てのものも眠ってしまいました。

子供たちに喜ばれた本格昔話は、他にもあります。

- 『かさじぞう 日本の昔話』 瀬田貞二再話 赤羽末吉画 福音館書店 ★
- 『食わず女房』 稲田和子、筒井悦子著 『子どもに語る日本の昔話 3』 こぐま社 ★
- 『腰折れすずめ』 稲田和子再話 『赤鬼エティン (愛蔵版おはなしのろうそく 8)』 東京子ども図書館 ★
- 『五分次郎』 稲田和子、筒井悦子著 『子どもに語る日本の昔話 3』 こぐま社 ★
- 『ブレーメンの音楽隊』 佐々梨代子、野村滋訳 『子どもに語るグリムの昔話 4』 こぐま社 ★
- 『マメ子と魔もの』 内田莉沙子著 『こども世界の民話 上』 実業之日本社 ★
- 『屋根がチーズでできた家』 福井信子、湯沢朱実編訳 『子どもに語る北欧の昔話』 こぐま社 ★
- 『海の水はなぜからい』 伊藤悦子訳 東京子ども図書館編 『雌牛のブーコラ (愛蔵版おはなしのろうそく 12)』 東京子ども図書館 ★★
- 『かえるの王さま』 佐々梨代子、野村滋訳 『子どもに語るグリムの昔話 2』 こぐま社 ★★
- 『かしこいモリー』 松岡享子訳 『エパミナンドス (愛蔵版おはなしのろうそく 1)』 東京子ども図書館 ★★
- 『小石投げの名人タオ・カム』 サン・スウンソム再話 松岡享子訳 『子どもに語るアジアの昔話 2』 こぐま社 ★★
- 『百姓のおかみさんとトラ』 イクラム・チュタイ再話 松岡享子訳 『子どもに語るアジアの昔話 2』 こぐま社 ★★

昔話や創作など、子供たちが楽しんで聞くことができるお話が載っている本

『おはなしのろうそく』

東京子ども図書館 1973年～



日本や外国の昔話、創作、わらべうたなどを収録した小冊子。現在33巻まで刊行中

『愛蔵版おはなしのろうそく』

東京子ども図書館 1997年～



『おはなしのろうそく』を再編集。現在12巻まで刊行中

『子どもに語るシリーズ』

全23冊 こぐま社 1990年～



日本、グリム、アジア、北欧、アンデルセンなど世界各地で語り伝えられてきたお話を収録

4 お話以外の楽しみ

お話の間に、わらべうたや詩の暗唱、なぞなぞなど、言葉による楽しみを組み込むと、子供たちの良い気分転換にもなります。お話には興味を示さない重複の障害のある子供も、わらべうたを喜び、一緒に楽しんでくれることがあります。

ア 輪唱して楽しむわらべうた

全員で練習した後に、二つのグループに分かれて輪唱をします。簡単なわらべうたであれば、子供たちはすぐに歌って楽しめるようになります。グループ分けをするときには、一人一人の視力や見え方に配慮し、子供たちにとって身近な教室のレイアウトなどを使って、例えば「黒板を書く音が聞こえる方」や「ピアノの音がする方」などのように「右」や「左」を説明するようにしています。

<p>♪あめ、こん、こん あめこんこん ゆきこんこん おらえのまえさたとふれ おてらのまえさちとふれ あめこんこん ゆきこんこん</p>	<p>『まめっちょ 1』 コダーイ芸術教育研究所編 コダーイ芸術教育研究所 1976年</p>	<p>♪チンチロリン チンチロチン チンチロリン かたさせすそさせ さむさがくるぞ チンチロリン チンチロリン</p>	<p>『うたおうあそぼうわらべうた 乳児・幼児・学童との関わり方』 木村はるみ、蔵田友子著 雲母書房 2009年</p>
<p>♪ほたるこい ほたるこい やまみちこい あんどのひかりを ちよいとみてこい</p>	<p>『にほんのわらべうた 1』 福音館書店 2001年</p>	<p>♪ほ ほ ほたるこい ほ ほ ほたるこい あっちのみずはにがいぞ こっちのみずはあまいぞ ほ ほ ほたるこい</p>	<p>『にほんのわらべうた 1』 福音館書店 2001年</p>

二つのグループに分かれて、「♪ほたるこい」と「♪ほ ほ ほたるこい」を同時に歌っても盛り上がりします。

イ 手遊びと共に楽しむわらべうた

手遊びは、簡単に子供たちに説明ができて、誰でもできるよう、単純なリズムを楽しむものが喜ばれます。子供たちが動きと歌を覚えたら、テンポを速くしたり、動きを少し複雑にしたりすると、一層楽しむことができます。

<p>♪あなたがたどこさ (→p.74)</p>	<p>♪ぎっちょぎっちょ (→p.75)</p>
<p>♪ちゃちゃつぼちゃつぼ ちゃちゃつぼちゃつぼ ちゃつぼにや ふたがない そことって ふたにしる</p> <p>『乳幼児おはなし会とわらべうた』 落合美知子 著 児童図書館研究会 2017年</p>	<p>♪なかなかほい なかなかほい そとそとほい なかそとそとなか なかなかほい そとそとほい なかなかほい そとなかなかそと そとそとほい</p> <p>『にほんのわらべうた 2』 福音館書店 2001年</p>

ウ なぞなぞ

本に載っているなぞなぞから、幾つかを出題して楽しめます。簡単なものから難しいものまで用意しておく、幼い子供も年長の子供も頭をひねって答えを探してくれます。

<p>『なぞなぞあそびうた』 角野栄子 さく スズキコージ え のら書店 1989年 歌うように読むことができます。『なぞなぞあそびうたⅡ』 (角野栄子 さく スズキコージ え のら書店 1992年) もあります。</p>	<p>『なぞなぞえほん 1のまき』 (2のまき、3のまき) 中川李枝子 さく 山脇百合子 え 福音館書店 2013年 生活に身近なものが答えになるなぞなぞが紹介されています。</p>	<p>『なぞなぞのたび』 石津ちひろ なぞなぞ 荒井良二 絵 フレーベル館 1998年 動物や植物、日常によく使われるもの等が答えになるなぞなぞが100個紹介されています。</p>
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------

エ 言葉の暗唱

早口言葉や詩の暗唱も喜ばれます。子供たちは楽しい音の響きが大好きですから、語り手が言うとすぐに、声に出して繰り返そうとします。特に、早口言葉は、年代を問わず挑戦してくれます。

<p>『お江戸はやくちことば』 杉山亮 文 藤枝リュウジ 絵 河合楽器製作所・出版事業部 1998年 江戸時代から伝わる早口言葉や、江戸時代の雰囲気や大事にして新しく作られた早口言葉が合計15紹介されています。それぞれの早口言葉の解説もあります。</p>	<p>『かぞえうたのほん』(→p.14) 「すうじさがしかぞえうた」やちょっと怖い「ひのたまかぞえうた」など、変わった数え歌が紹介されています。子供たちと大笑いしながら読んだこともあります。</p>
<p>『五十音』 北原白秋 詩 高畠純 絵 光村教育図書 2020年 「あめんぼ あかいな あいうえお」から始まる、五十音を順番に使った詩です。読み手に続いて、子供たちも声を張り上げて唱え楽しむことができました。</p>	<p>『どうぶつはやくちあいうえお』 きしだえりこ 作 かたやまけん 絵 のら書店 1996年 五十音それぞれから始まる早口言葉が紹介されています。どの早口言葉にも動物が登場します。</p>

コラム おはなし会プログラムの立て方

お話を聞いた経験やお話への興味は子供によって様々です。また、複数の障害のある子供も在籍していることもあるので、いろいろなタイプのお話を入れて、多くの子供たちが楽しめるプログラムにします。唱え言葉や歌等が入った音の響きを楽しめる話、愉快的な話、年長の子供が満足できる本格昔話、日本の話、外国の話など、バラエティに富むように工夫します。

お話の間には、わらべうたや手遊び、なぞなぞ等を取り入れます。

お話を選ぶとき、「ラプンツェル」や「ねずみじょうと」など、登場人物の目が見えなくなるような描写があるお話は、語ることができるか、事前に学校の先生と相談しています。「食わず女房」(→p.107)などは、流れを損なわないようにして、目の見えなくなる描写を抜かして語ることもあります。図書館員としては迷うところですが、学校の先生と十分に相談しながら決めます。

5 おはなし会のプログラム事例

子供たちの年齢幅、障害の状態を考えて、幾つかのタイプのお話を選びます。

対象：小学部、中学部の児童・生徒

障害：全盲・弱視、知的障害のある児童も在籍

季節：5月

●プログラム例

「鳥吞爺」 稲田浩二、稲田和子編著 『日本昔話百選』改訂新版 三省堂

「アナンシと五」 内田莉莎子著 『こども世界の民話 下』 実業之日本社

わらべうた「ぎっちょぎっちょ」

わらべうた「もちっこやいて」

なぞなぞ『なぞなぞえほん 1のまき』中川李枝子さく 山脇百合子え 福音館書店 から

「食わず女房」 稲田和子、筒井悦子著『子どもに語る日本の昔話3』 こぐま社

●おはなし会の時間 30分程度

鈴を鳴らして、おはなし会を始めます。

最初に、参加者全員が楽しめるように、言葉の響きが面白い「鳥吞爺」(→p.103)を語ります。その後は、少しハラハラするストーリー展開の「アナンシと五」(→p.105)を語ります。

子供たちは二つの話を集中して聞きました。そこで、わらべうた「ぎっちょぎっちょ」、「もちっこやいて」(→p.75、78)を歌い、手遊びを楽しみます。次はなぞなぞです。『なぞなぞえほん』(→p.109)は、子供たちの身の周りにあるものが答えになるなぞなぞなので、「ああ、それか!」と、とても楽しむことができます。

全員でやり取りを楽しんだ後は、「5月は端午の節句がありますね」と話し、本格昔話、「食わず女房」(→p.107)を語り、深くて豊かな昔話の世界を味わってもらいます。

先生方に語ったお話が載っている本を知っていただくため、私たちはそれぞれのお話を語る前、お話が掲載されている本を表紙を見せて参加者の前方に立て掛けています。全てのお話を語ったら、立て掛けた本を指しながら、「今日は三つの話を語りました」などと伝えています。

最後に、「今日のおはなし会は、これでおしまいです」と伝え、鈴を鳴らして終了します。

おはなし会の後は、一人一人にプログラムを渡します。プログラムは事前に学校に確認して、(→p.116) 墨字 (印刷のみ) のプログラムと、点字 (印刷+点字シール) のプログラムを人数分作成しています。

V おはなし会の実施にあたって

図書館職員や読み聞かせボランティアの方々が、特別支援学校や特別支援学級でおはなし会をする機会も増えているのではないのでしょうか。本章では、おはなし会を実施する方々の参考になるように、私たちが特別支援学校で行うおはなし会の事前準備から実施までと実施後のことをお伝えします。

1 日程調整

特別支援学校からおはなし会等の依頼が寄せられたら、実施を希望する日時を確認し、日程調整を行います。実施を決めたら、おはなし会への参加人数、おはなし会を希望する学年やクラスの数等を聞きます。また、どのような障害がある子供たちが参加するのかを確認します。これらにより、当日、おはなし会を行う職員の人数を考えます。

2 学校からの希望の聞き取り

絵本の選定や、おはなし会のプログラムを考えるため、学校から読んでほしい絵本のテーマやタイプを聞き取ります。子供たちの情報も、なるべく多く聞きます。主に確認するのは次のようなことです。

- ・子供たちが普段楽しんでいる絵本
- ・子供たちの障害の状態（重複、重度の障害があるなど）
- ・子供たちの発達年齢
- ・子供たちが好きなもの
- ・先生からの希望（手遊びを入れてほしい、『○○』という絵本を読んでほしい）
- ・その他必要な配慮（大きい声が苦手、骨が折れやすいなど）

これらのことを聞いておくと、本選びやプログラムを考えやすくなり、子供との接し方を想定しながら読み聞かせの練習をすることができます。

「『○○』という絵本を読んでほしい」など、学校からの具体的な希望には基本的に応じていますが、子供にお話（本）の楽しさを味わってもらい、参加者同士で喜びを共有するという、おはなし会の趣旨を示し、こちらから絵本の差し替えを提案する場合があります。

3 プログラムの作成

ここでは、プログラム作成にあたっての基本的な考え方をお伝えします。プログラムは、学校から寄せられた子供たちの情報や希望を踏まえて考えますが、取り分け、特別支援学校の子供たちに読む場合は、次のことを意識して作成しています。

なお、障害種別のプログラム作成のポイントは、各章の具体的な考えを御覧ください。（知的・肢体不自由→p.80～83、聴覚→p.97～98、視覚→p.110）

(1) おはなし会に参加した子供たちが、プログラムのうち、どれか一つを楽しめるようにする

絵本の扱うテーマや、絵や写真などの表現形式、絵本のタイプなどバラエティに富んだ内容でプログラムを作成するようにします。わらべうたや手遊び、パネルシアターなど絵本の読み聞かせ以外の

ことも考えていきます。

(2) 集団の子供たちへの読み聞かせに適した絵本を選ぶ

離れた場所からもよく見える、はっきりと分かりやすく描かれた挿絵や大きな写真の絵本をできるだけ選ぶようにしています。同じタイトルで大型絵本があれば、そちらを読むことを考えます。

(3) 迷ったら、長い間子供たちに読み継がれてきた絵本を選ぶ

どの絵本にするか迷ったときは、長い間子供たちに読み継がれてきた絵本を選びます。このような絵本には、子供たちが楽しむ要素がたっぷりと詰まっており、聞き手の子供に大きな満足感を与えます。

(4) 読み聞かせにかかる時間が長くなることを想定する

特別支援学校での読み聞かせは、子供に寄り添いながら、ゆっくりと読み進めていきます。30分間のおはなし会では、絵本を3冊ほど読むことを目安に考えます。

4 学校と当日の最終調整

プログラム案を作ったら、学校へ確認を依頼します。作成の際に迷ったこと、気掛かりなことがあったら、その点も伝えます。

学校から「もう少し生活年齢（実年齢）に近づけてほしい」「動物の本を足してほしい」などの希望が出てきたら、相談しつつ読む絵本等を変更したりします。こうしてプログラムが完成します。

大型絵本やパネルシアターをプログラムに盛り込んでいるときには、学校での大型絵本や読み聞かせスタンド、パネルシアターのパネルの有無を聞き、当日用意してもらいます。

5 練習・準備

読み聞かせ、わらべうたや手遊び等、当日に向けて練習をします。共におはなし会を行う職員がいる場合は、各々が読むのを聞き合いながら練習します。

当館はおはなし会参加者一人一人にプログラムを配布します。プログラムの表紙には触って楽しめる折り紙を付けており（→p.116）、人数分作成します。

6 おはなし会当日

おはなし会では、子供たちと共に楽しみ、子供たちの様子を見ながら、柔軟に対応します。

事前に学校からいただいた情報をもとにして、選んだ絵本を読んでも、実際のおはなし会では「この絵本では理解が難しいだろうか?」「お話を楽しんでいるだろうか?」と感じる時があります。このようなときのために、おはなし会用に選んだ絵本とは違うタイプの絵本、文章の難しさが異なる絵本などを予備として持っておき、その場で先生のご理解を得て差し替えて読むこともあります。予備の絵本は、おはなし会が予定より早く終わったときにも読むことができます。

7 記録の作成

おはなし会終了後は、実施ごとに読んだ絵本、参加人数、子供たちがどのように絵本（お話）を捉えてくれたのか、読み方の工夫等の記録を付けています。学校から感想が寄せられることもあるので、記録・保管しておきます。これらを、次回のおはなし会や同じ絵本を読む場合等の参考としていきます。

📖 おはなし会を通して私たちが考えたこと

特別支援学校でのおはなし会は五年間経験しました。それまで小学生や乳幼児向けのおはなし会を経験していましたが、障害のある子供へのおはなし会は当初戸惑うことも多くありました。ある特別支援学校では、肢体不自由の子供たちがベッドに横たわった姿勢のまま、看護師がたんの吸引を行いながらのおはなし会になります。年齢や障害に沿ってプログラムを準備しますが、まず導入はリズムカルなわらべうたから始め、食べ物や乗り物など身近なテーマのシンプルな絵本や音の響きが楽しい絵本、最後に簡単なストーリーがある絵本を読むようにしました。子供の反応が分かりづらく、不安になりましたが、先輩からの「表情には見えていなくても心の中で楽しんでいるので、わらべうたや絵本の力を信じて」という言葉に支えられました。経験を重ねると、子供の表情が分かってきました。先生自身も絵本を積極的に読むようになったというお話を聞き、私たちのおはなし会が子供たちが読書やお話を楽しむきっかけになったことを実感できたことは非常にうれしいことでした。【増田】

おはなし会では、子供たちは様々な形でお話を楽しんでくれます。1冊読み終わると、笑顔で伸びをして、本の一文を大きな声で繰り返したり、私の手を引いて窓辺に行き、校庭の桜の木を指して、あそこにたくさんの冬芽があるんだよ、と教えてくれたり。子供がお話を好きであること、お話の力を実感します。

このような小さな出来事が、図書館サービスを考えるきっかけともなります。あるおはなし会の後、一人の子が読み終わった本がある場所へ急いで来て、1冊の本をつかみ、開こうとしました。当館は学校に貸出をしていないので、本を手放してもらい、持ち帰りましたが、子供とそこに寄り添う教員の表情、また、学校の本の所蔵状況を考えると、何とも言いえない気持ちになりました。この経験は、私が貸出のことを考えるきっかけの一つとなりました。現状がこうだからできないではなく、子供と本をつなぐためにどうしたら良いか、何が出来るか考え続け、できる範囲から良いから、実行に移していくことが児童図書館員の仕事です。一つのおはなし会は小さな営みですが、そこからサービスを俯瞰（ふかん）する視点は常に持ちたいと思っています。【浅沼】

特別支援学校では、教科書として絵本が多く使われていることもあり、絵本に詳しい先生方にもたびたびお目に掛かりました。そんな中、外部の人間が出向いておはなし会をする意味は何だろう？と、当時はよく考えました。もちろん、子供たちが楽しい時間を過ごしてくれること自体が一番大切ですが、他にも大切な気付きがありました。

一つは、1冊の本が持つ可能性の幅を広げることができるということ。様々な感性を持った子供たちと一緒に読むことで、楽しめる要素はどこか、逆に理解のネックになるのはどこか、あらゆる角度から1冊の本を深く検討する機会になります。

二つには、地域と子供たちをつなぐきっかけになるということ。司書が出向くことで「地域には図書館という“場”があり、それはこの子供たちのためのものでもある」というメッセージを、本人にも保護者の方にも伝えることができます。

子供たちが地域を知り、地域の人々が子供たちを知る。お互いを知ることは、人が共に生きていくための第一歩です。少なくとも私自身は、子供たちとの関わりの中で、地域の図書館利用者として確かに存在している彼らの姿を、全身で感じることができました。【尾崎】

教室に入るとまず、子供たちに挨拶します。この人は誰だろう、これから何をやるのだろうか、見たことがない大人に子供たちは緊張しているはず。ゆっくり、落ち着いた声で自己紹介をします。やり取りをしながら一人一人の表情を確認します。子供たちの緊張が少しほぐれたら「よしっ、行くぞ」と心の中で気合を入れて、おはなし会を始めます。この時間は私が隊長、子供たちが楽しい時間を過ごせるように努めます。始まりのわらべうたの後は事前に選んできた本を読みます。『でんしゃはうたう』(→p.12)は本を開くと電車が動き始め、街を走り、川を渡り次の駅を目指します。細部まで描かれた絵と小気味よい言葉の響きに子供たちの身体が自然に動きます。笑顔になり発語が生まれることも。本を読んでいる間、子供たちには動いている電車が見えているようです。こうした愉快的な時間は子供たちの好奇心を育む大切な時間です。このような時間の繰り返しが、本への親しみを深めるのだと思います。

【石田】

東京にたくさんの特別支援学校があることを、児童・青少年サービスに携わって知りました。都立図書館が行う出張おはなし会は、特別支援学校に対するものがメインです。重い本(しばしば大型絵本)を持って、東京を西から東まで毎月のように出張する、他の部署にはない仕事でした。

先生方は忙しい中、事前に丁寧に連絡をしてくれます。児童・生徒の好きなもの(「仏像」とか「ディズニー映画」とか)を聞いて、そういう子供ならどういものが楽しめるだろうと考え、実際に楽しんでもらえたとき、レパトリーが増えていきます。「体育館でやってください」「一日で全教室を回ってください」同じ学校に何度も出張できない図書館と、全ての児童生徒に体験させたいと思う学校の事情により、なかなか「少人数でゆっくり」という理想どおりの場とならないこともあります。最善を尽くそうとするなかで生まれた工夫を、受け継いでいきたいと思っています。【藤野】

ろう学校へおはなし会に行くと、子供たちがホワイトボードに歓迎の言葉を書いて迎えてくれます。「こんにちは」と手話で伝えると、少し遠慮がちだった子供が途端に手話でおしゃべりを始めます。

手話による絵本の読み聞かせでは、一人が手話と声でお話を語り、もう一人が本を子供たちに見せます。私の手話はひどく拙いものですが、子供たちは絵と手話とを交互に見て、お話のおかしさ、驚きなどを友達と共有しながら楽しんでくれます。その様子を見るにつけ、子供たちは、自分たちの言葉で話が語られることを、とても喜んでくれているのだと感じました。また、普段は違う言葉を話す私たちが、一緒になって絵本を楽しめることに私も大きな喜びをもらいました。

特別支援学校での読み聞かせの経験を通じて、障害の有無に関わらず、子供たちは本やお話を読んでもらうことが大好きなのだ実感してきました。より多くの子供たちが本を楽しめるよう、より多くの大人が特別支援学校での読み聞かせに携わっていただけたらうれしく思います。【飯塚】

知的障害のある子供たちへのおはなし会のことです。皆が絵本を囲むように座る中、一人の子だけ、部屋の奥で寝そべってしまいました。

気分じゃないんだ。そっとしておこう。周りに集まった生徒たちに読み聞かせを始めました。お話に合わせ、掛け声を上げる子もいて、会場が楽しい雰囲気になりました。途中、「うえからしたから」のわらべうたを歌いました。シフォンの布で「ぴゅー」と風を吹かせ、布で手や頭をなでると、子供たちが喜ぶ、定番のわらべうたです。全ての生徒を布でなでて回りました。部屋の奥にいる、あの子は除いて。

そのときでした。先生が、シフォンの布を持ち、そよ風のように舞いながら、あの子のもとへと行ったのです。くすぐったそうにする顔が見えました。しかも笑っています！

おはなし会が終わり、先生が言いました。「気分が乱れていると、教室にいられないんです。今日はズーっとここにいて、楽しんでいましたよ」と。

おはなし会とはこうあるべきだ。私は決め付けていました。でも、もっと、自由に楽しんでいい。特別支援学校の、初めてののおはなし会で、そう教えてもらいました。【西田】

読み聞かせの際は「絵本の力を信じ、子供を信じて」と、先輩方から教わってきました。特別支援学校でのおはなし会ではその言葉をたびたび思い出します。

おはなし会では、子供も先生も一緒になって、その場が盛り上がることもあります。一方で、あまり反応がなく、不安になるときもあります。そんなときでも、子供たちが絵本を楽しんでいないという訳ではありません。

ある肢体不自由特別支援学校で、子供の発語や表情のわずかな変化を見た先生が、「この絵本、好きなんだね。〇〇さん、すごく喜んで」と言っていました。また、ある知的障害特別支援学校では、それまでは、ずっと下を向いていた子が、主人公がピンチの場面で、声を上げて、食い入るように見つめていました。どの子もそれぞれの形で絵本を楽しんでいたのです。

これからも絵本の力と子供を信じながら、一人でも多くの特別支援学校の子供たちと絵本を一緒に楽しんでいけたらと思います。【吉井】

鈴

幼稚部や小学部では、おはなし会の始まりと終わりの合図に、わらべうたや手遊びをしています。視覚障害教育部門や中学部、高等部では、鈴や鐘を鳴らしています。



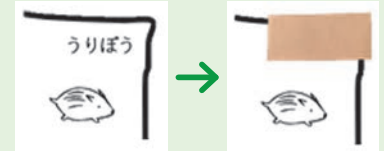
大型絵本用の台

大きな絵本の読み聞かせをするときに使います。



本の耳

『大きな運転席図鑑』(→ p.63)などをクイズ形式で読むときに、答えの部分にかぶせています。封筒の角を切って作ります。



お手玉

「チュ、チュ、コッコ」(→ p.78)などのわらべうたで使います。



カク、カク、カクレンボの箱

「カク、カク、カクレンボ」(→ p.76)で使います。キャップ付き牛乳パックで作っています。



シフォン布

「うえから したから」(→ p.76)などのわらべうたで使います。

20センチ四方の大きさです。

大人で歌うときは、1メートル四方の大きい布を使うこともあります。



クマのパペット※

「くまさんくまさん」(→ p.79)などのわらべうたで使います。



ブタの指人形※

「ととけっこう」(→ p.79)などのわらべうたで使います。



プログラム

表紙に折り紙を貼っています。視覚に障害がある子供には、ラベルライターで作った点字シールを貼って渡しています。



※クマのパペットとブタの指人形の作り方は、『おはなし会で楽しむ手ぶくろ人形』(保育と人形の会 編著 児童図書館研究会 2021年)で紹介されています。

VI 指文字一覧・点字一覧

1 指文字一覧

わ	ら	や	ま	は	な	た	さ	か	あ
	り		み	ひ	に	ち	し	き	い
を	る	ゆ	む	ふ	ぬ	つ	す	く	う
	れ		め	へ	ね	て	せ	け	え
ん	ろ	よ	も	ほ	の	と	そ	こ	お

2 点字一覧

あ	い	う	え	お	は	ひ	ふ	へ	ほ
か	き	く	け	こ	ま	み	む	め	も
さ	し	す	せ	そ	や	ゆ	よ		
た	ち	つ	て	と	ら	り	る	れ	ろ
な	に	ぬ	ね	の	わ	を	ん		

『東京都福祉のまちづくり条例
施設整備マニュアル』
(令和5年10月1日施行)
(東京都福祉局)
「資料2 各種規格等」
「2—3 点字の読み方」より

Ⅶ 都立多摩図書館のサービス、作成冊子紹介

1 都立多摩図書館のサービス

都立多摩図書館は、乳幼児から高校生世代までが楽しめる本、学習に役立つ本を所蔵しています。また、東京都の子供読書活動推進の拠点として、子供の読書に関わる方々に役立つ資料も取りそろえ、相談に対応しています。学校図書館の選書や運営等の相談もお受けしています。

2 都立多摩図書館作成の冊子

都立多摩図書館では、子供の読書を推進するため、様々な冊子やブックリストを作成しています。本書のほか、以下の冊子は、都立図書館のホームページで全文を公開しています。

しずかなひととき 乳幼児に絵本の読み聞かせを(改訂版)



乳幼児の保護者の方へ、絵本を読み聞かせる楽しさを伝えています。年齢別に、おすすめの絵本も紹介しています。

本のおよこびを子どもたちに



子供の読書に関わる方へ、子供に本を手渡す上で大切なことや、子供と一緒に本を楽しむ方法を紹介します。

子どもたちに物語の読み聞かせを(改訂版)



小学生の保護者の方へ、物語を読み聞かせる喜びを伝えています。ジャンル別に、おすすめの物語も紹介しています。

ほん・本・ごほん1～3



小学生が楽しめる本を、絵本や物語を中心に、テーマごとに6冊ずつ紹介しています。

ひとりでよめるよ



小学校低学年くらいの子供たちが楽しめる幼年文学を、50冊掲載しています。

読み聞かせABC 集団の子供たちへの読み聞かせに(改訂版)



集団の子供たちへの読み聞かせに取り組む方向けのガイドブックです。おすすめの絵本を210冊紹介しています。

これならできる！自由研究 111枚のアイデアカード集



小学生向けに、自由研究のアイデアと、自由研究に取り組むときに参考になる本を紹介しています。

扉をあけてⅠ・Ⅱ 中学生のあなたにおくる56冊の本



中学生におすすめの物語の本、56冊を、中学生に身近な7つのテーマに分けて紹介しています。

羅針盤Ⅰ・Ⅱ



高校生に読んでもらいたい、読み応えのあるノンフィクションや小説を紹介しています。

TAMA selection 高校生のためのおすすめ本200冊



高校生におすすめの本、200冊を紹介しています。15のテーマに分けて、様々なジャンルの本を紹介しています。

読み聞かせに挑戦！



初めて読み聞かせをする中高生向けのガイドブックです。読み聞かせのポイントや、おすすめの絵本を紹介しています。

乳幼児おはなし会ハンドブック



乳幼児おはなし会をする方向けの手引きです。乳幼児おはなし会の基本的な考え方や運営についてまとめています。

VIII 絵本件名索引

冊子で紹介した絵本の件名索引です。

※**W**は「わらべうた」(→p.72～79)、**B**は「ブックトーク事例」(→p.98～101)、**S**は「視覚障害の子供たちへの読み聞かせ」(→p.102～110)で紹介した絵本です。

地図

新幹線のたび 64

仕事

いちばんでんしゃのしゃしょうさん 64
 うちゅうひこうしになりたいな 29
 大きな運転席図鑑 63
 大きな運転席図鑑ぷらす 63
 おしごと制服図鑑 65
 かじだ、しゅつどう 62
 ざっくん！ショベルカー 39
 しょうぼうじどうしゃじぶた 39
 ただいまお仕事中 67
 乳牛とともに 66
 のぞいてみよう！厨房図鑑 66

季節・行事

●春

さくら 61

●夏

かぶとむし 54

●秋

ぐりとぐら 31
 びっくりまつぼっくり 61
 やまなしもぎ **S**
 やまんばのにしき **S**

●冬

おかしなゆきふしぎなこおり 69
 しんせつなともだち 40
 ゆきむすめ 51

●四季

子ザルのいちねん 58
 和菓子のほん 53

●お正月

かさじぞう **S**

●節分

かえるをのんだととさん 92

●端午の節句

くわすにようぼう 93

●誕生日

ちびゴリラのちびちび 35
 よかったねネッドくん 89

暮らし

おふろだいすき 37
 せんたくかあちゃん 41
 だろんこハリー 42
 はじめてのおつかい 87

●衣服

おしごと制服図鑑 65
 しろ、あか、きいろ 86
 ねずみくんのチョッキ 42
 わたしのワンピース 86

●道具

じゃぐちをあけると 68
 しろいかみのサーカス 68
 手で食べる？ **B**
 ふしぎなナイフ 28
 わゴムはどのくらいのびるかしら？ 90

●日本	
和菓子のほん	53

●アフリカ	
おばあちゃんにおみやげを	70
ハンダのびっくりプレゼント	88

●世界	
世界あちこちゆかいな家めぐり	71
世界のだっことおんぶの絵本	70

昔話

●日本	
うまかたやまんば	92
かえるをのんだととさん	92
かさじぞう	S
くわずにようぼう	93
こぶじいさま	48
さるとかに	48
ずいとんさん	49
だごだごころころ	50
ふしぎなたいこ	S
やまなしもぎ	S
やまんばのにしき	S

●グリム	
おおかみと七ひきのこやぎ	47
ねむりひめ	S

●ノルウェー	
三びきのやぎのがらがらどん	49

●ロシア	
おおきなかぶ	46
ゆきむすめ	51

数

おばあちゃんにおみやげを	70
かぞえうたのほん	14
10ぱんだ	22

自然

石の卵	B
じゃぐちをあけると	68
富士山にのぼる	71

●宇宙	
うちゅうひこうしになりたいな	29

●太陽・晴れ	
おひさまぼかぼか	23
これはおひさま	27

●雷	
せんたくかあちゃん	41

●雪	
おかしなゆきふしぎなこおり	69
かさじぞう	S
ゆきむすめ	51

体・健康

●体	
からだのなかでドゥンドゥンドゥン	55
これはおひさま	27
しっぽのはたらき	19
どうぶつのあしがたずかん	B
ほね	59
みんなうんち	57

●成長	
あおむしくん	58
うさぎ	54
かぶとむし	54
こいぬがうまれるよ	94
子ザルのいちねん	58
ちびゴリラのちびちび	35
はらぺこあおむし	36
ひよこ	55
みかんのひみつ	52

植物

あさがお	60
かまきりのちゃん	30
さくら	61
どんぐりころころ	60
バナナのはなし	B
びっくりまつぼっくり	61
みかんのひみつ	52

動物

●動物たち

いるいるだあれ	19
おおきなかぶ	46
おひさまぼかぼか	23
月ようびはなにたべる？	24
しっぽのはたらき	19
たまごのあかちゃん	25
どうぶつのあしがたずかん	B
どうぶつフムフムずかん	B
ハンダのびっくりプレゼント	88
ほんとのおおきさ動物園	56
みんなうんち	57
もうおきるかな？	26
もっと！ほんとのおおきさ動物園	56

●魚・水の生き物

おすしのさかな	51
おふろだいすき	37
かえるをのんだととさん	92
火曜日のごちそうはヒキガエル	B
きんぎょがにげた	16
こうら	94
ざりがにちょっくん	58
さるとかに	48
ほんとのおおきさ水族館	56

●虫

ありこのおつかい	S
あおむしくん	58
かぶとむし	54
かまきりのちゃん	30
だごだごころころ	50

はらぺこあおむし	36
まるまるだんごむし	57

●鳥

火曜日のごちそうはヒキガエル	B
コッケモーモー！	15
こすずめのぼうけん	38
ととけっこうよがあげた	W
鳥のこと	59
ひよこ	55

●犬

どろんこハリー	42
---------	----

●ウサギ

うさぎ	54
しんせつなともだち	40
わたしのワンピース	86

●牛

乳牛とともに	66
--------	----

●馬

うまかたやまんば	92
----------	----

●オオカミ

おおかみと七ひきのこやぎ	47
--------------	----

●カバ

かばくん	29
------	----

●キツネ

ずいとんさん	49
--------	----

●クマ

くまさんくまさんなにみてるの？	23
くまのコールテンくん	38
しろくまちゃんのほっとけーき	33

●ゴリラ

ちびゴリラのちびちび	35
------------	----

●サル

さるとかに	48
-------	----

子ザルのいちねん	58
ひとまねこざるときいろいろぼうし	88

●ゾウ

ぞうくんのさんぽ	34
ぼくのくれよん	44

●ネコ

ちいさなねこ	35
よるのねこ	45

●ネズミ

ぐりとぐら	31
ねずみくんのチョコッキ	42

●パンダ

10ぱんだ	22
-------	----

●ヤギ

おおかみと七ひきのこやぎ	47
三びきのやぎのがらがらどん	49

乗り物

●乗り物いろいろ

大きな運転席図鑑	63
大きな運転席図鑑ぱらす	63

●車

かじだ、しゅつどう	62
ざっくん！ショベルカー	39
しょうぼうじどうしゃじぶた	39
のろまなローラー	43
ぴかくんめをまわす	44

●ロケット

うちゅうひこうしになりたいな	29
----------------	----

●電車

いちばんでんしゃのしゃしょうさん	64
しゅっぱつしんこう！	32
新幹線のたび	64
でんしゃはうたう	12

食べ物

●菓子

ぐりとぐら	31
しろくまちゃんのほっとけーき	33
せんべせんべやけた	17
和菓子のほん	53

●果物

くだもの	16
バナナのはなし	B
ハンダのびっくりプレゼント	88
みかんのひみつ	52
やまなしもぎ	S

●野菜

おおきなかぶ	46
しんせつなともだち	40
やさい	27
やさいでぺったん	69
やさいのおなか	21

●食事

おいしいおと	11
月ようびはなにたべる？	24
だごだごころころ	50
手で食べる？	B
はらぺこあおむし	36
ぱんだいすき	25
まるくておいしいよ	18

●料理をする

おすしのさかな	51
ぐりとぐら	31
サンドイッチサンドイッチ	31
しろくまちゃんのほっとけーき	33
のぞいてみよう！厨房図鑑	66
ばばばあちゃんのなぞなぞりょうりえほん	B
ぼくのぱんわたしのぱん	53

遊び・運動

じゃぐちをあけると	68
富士山にのぼる	71

● 工作を楽しめる本

しろいかみのサーカス	68
びっくりまつぼっくり	61
やさいでぺったん	69

● クイズのように楽しめる本

いるいるだあれ	19
大きな運転席図鑑	63
大きな運転席図鑑ぷらす	63
おしごと制服図鑑	65
きんぎょがにげた	16
しっぽのはたらき	19
なぞなぞあそびうた	S
なぞなぞえほん	S
なぞなぞのたび	S
ねえ、どれがいい？	20
のぞいてみよう！ 厨房図鑑	66
ばばあちゃんのなぞなぞりょうりえほん	B
ほね	59
ほんとのおおきさ水族館	56
ほんとのおおきさ動物園	56
まるくておいしいよ	18
もっと！ ほんとのおおきさ動物園	56
やさいのおなか	21

芸術

ぼくのくれよん	44
ふしぎなたいこ	S

歌

いろいろお世話になりました	W
おばけなんてないさ	24
かぞえうたのほん	14
ぐりとぐら	31
月ようびはなにたべる？	24
こぶじいさま	48
せんべせんべやけた	17
ととけっこうよがあけた	W
やまなしもぎ	S

言葉

五十音 S

● オノマトペを楽しめる本

おいしいおと	11
カニツンツン	11
からだのなかでドゥンドゥンドゥン	55
コッケモーモー！	15
さるとかに	48
じゃぐちをあけると	68
たまごのあかちゃん	25
でんしゃはうたう	12
もけらもけら	13
もこもこもこ	13

● 早口言葉

お江戸はやくちことば	S
どうぶつはやくちあいうえお	S

ストーリー

● 冒険

火曜日のごちそうはヒキガエル	B
くまのコールテンくん	38
こすずめのぼうけん	38
ちいさなねこ	35
ひとまねこざるときいろいろぼうし	88

● ナンセンスなお話

かえるをのんだととさん	92
ねえ、どれがいい？	20
ねずみくんのチョッキ	42
ぴかくんめをまわす	44
ふしぎなナイフ	28
わゴムはどのくらいのびるかしら	90

登場人物

● お母さん

せんたくかあちゃん	41
-----------	----

● おばあさん

おばあちゃんにおみやげを	70
おひさまぼかぼか	23
だごだごころころ	50
ばばあちゃんのなぞなぞりょうりえほん	B

やまんばのにしき	S
ゆきむすめ	51

● おじいさん

おおきなかぶ	46
かさじぞう	S
こぶじいさま	48
ゆきむすめ	51

● 泥棒

すてきな三にんぐみ	40
-----------	----

● 架空の生き物

うまかたやまんば	92
おばけなんてないさ	24
かえるをのんだととさん	92
くわずにようぼう	93
こぶじいさま	48
三びきのやぎのがらがらどん	49
紳士とオバケ氏	B
せんたくかあちゃん	41
だごだごころころ	50
やまんばのにしき	S

東京都立多摩図書館児童青少年資料担当では、子供の本や読書についての御質問、御相談を受け付けています。

いつでも気軽に御利用ください。

東京都立多摩図書館

電話 **042 - 359 - 4109** (児童青少年資料担当ダイヤルイン)

都立図書館・学校支援シリーズ

特別支援学校での読み聞かせ 増訂版

都立多摩図書館の実践から

令和6年3月25日発行

登録番号(5)第4号

執筆・発行 東京都立多摩図書館

〒185 - 8520 国分寺市泉町2 - 2 - 26

電話 042 - 359 - 4109

ファクシミリ 042 - 359 - 4121

